

令和元年東日本台風による 避難所における 子どもの居場所の設置と 活動に関する調査報告書



「特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト」
の活動を振り返って

令和3(2021)年8月

公立大学法人長野県立大学
子どもの居場所づくり研究班

はじめに

令和元（2019）年10月に起きた令和元年東日本台風は、日本各地に甚大な被害をもたらしました。長野市においても、10月13日、千曲川が氾濫し決壊したことによって、家屋が濁流にのまれたり、新幹線車両センターが水没したりするなど、多くの人々が避難を余儀なくされました。あわせて、子ども達も避難所で生活することとなりました。

このような自然災害時に設置される避難所において、内閣府は「避難所運営ガイドライン」（平成28（2016）年4月）を策定し、女性・子どもへの配慮として「キッズスペース（子どもの遊び場）の設置を検討する」ことなどを求めています。災害直後は大きな混乱が生じるため、これら子どもの居場所が設置・維持されるケースは少ないようです。

本報告書は、長野市内で、長年にわたり子どもや子育てに関わる全ての人々を応援してきた「特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト」が奔走した、令和元年東日本台風の発生直後からの活動を中心にまとめたものです。被災した子ども達の居場所づくりのために、「私たちに何ができるのか」を模索し、多方面から解析した記録です。

何より、本報告書は、研究協力をいただいた、こどもの城スタッフの皆さまのご尽力の賜物です。こどもの城では、その後も、被災した子ども達と保護者の不安やストレスを軽減するための災害支援事業を展開しています。

なお、本研究は、特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパンならびに公益社団法人シャンティ国際ボランティア会による委託研究です。関係諸氏に、心より感謝申し上げます。

本報告書が、子ども達の未来を支えるため、災害時の避難所における子どもの居場所づくりの運営の一助となるとともに、平時からの活動の備えとなることを祈念しております。

2021年8月

公立大学法人長野県立大学 子どもの居場所づくり研究班

研究代表者	健康発達学部学部長・教授	笠原 賀子
共同研究者	健康発達学部食健康学科准教授	加藤 孝士
	同 助教	寺川 直樹

報告書発刊によせて

国内災害対応の経験豊富な公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（SVA）の方々と連携して、発災直後の長野に入ったのが令和元（2019）年10月でした。避難所をまわり、長野県災害時支援ネットワーク共有会議などに参加する中で、特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクトの方々に巡り会えたのが幸いでした。地元の団体、行政、関係者の皆さまの協力のお蔭で、被災された方々をサポートできたことに感謝致します。

緊急支援は、瞬時に実施することに全集中してしまうため、どうしても振り返りや評価が難しくなりがちです。今回、第三者による客観的な検証のため、SVAの方々と当団体で合意しました。それが、この調査研究の試みです。

本研究を引き受けてくださった長野県立大学の皆さまに心より感謝申し上げます。調査研究中に新型コロナウイルスのまん延という想定外の事態となり、計画どおりに進まないなど様々な試練に遭われたことでしょう。こうして報告書にまとめていただき、改めてお礼申し上げます。

昨年も今年も全国各地で水害による被害が多発しており、被災される方は絶えません。今回の研究が、今後の緊急・復興支援に何か役立つことがあれば幸いと願います。

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン 事務局長 武田 勝彦

令和元年東日本台風の災害支援においては、特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン、特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクトの皆さまと協働で避難所における子どもの居場所づくりを、避難所が閉鎖されるまで続けることができました。

災害時、子ども達を取り巻く環境は大きく変化します。それに伴い、子どもの心身の健康にも様々な影響があるものと考えております。災害時の混乱の中で、子どもと保護者が「安心して利用できる場」とはどうあるべきか、改めて本活動から学ばせていただきました。

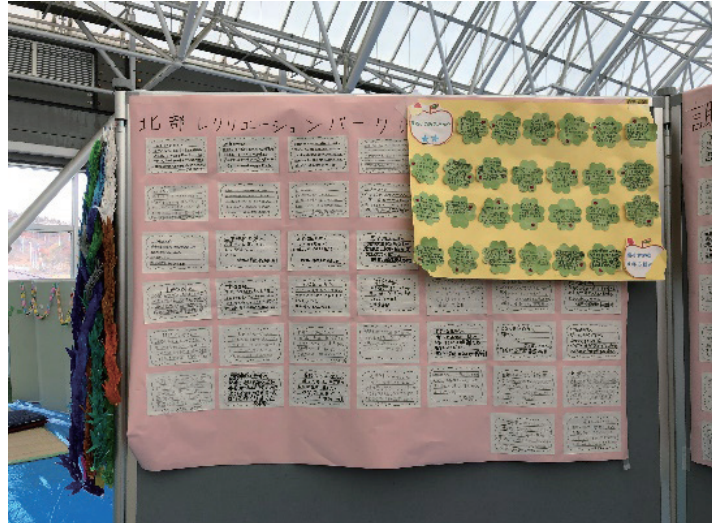
当会では、1981年のカンボジアでの難民支援から始まり、開発途上国における子どもに関わる教育開発支援を行ってまいりました。また、阪神・淡路大震災以降は、国内外での緊急人道支援にも携わり、今年で設立40年目を迎えます。こうした長年の活動を通して子ども達と向き合う中で、緊急時において、支援がなかなか行き届かない子どもの教育、子どもの居場所づくりの意義を感じております。

気候変動などの影響で増え続ける水害を考えると、今後、様々な支援のアクターが連携して子どもの居場所づくりに取り組む必要性はさらに高まっていくのではないかと思います。

このような中で、今回作成された調査報告書が、様々な支援に携わる関係者の方々にとって役に立つものになり、災害時の子どもの居場所づくりに関する取り組みが一層進むことを願っております。

最後になりましたが、調査報告書作成に関わっていただいた皆さまにお礼申し上げます。

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 事務局長 山本 英里



〔長野市立裾花小4年3組、諏訪市立城北小の皆さまからの応援メッセージ〕

当法人は、平成10（1998）年頃から、長野市において子ども支援・子育て支援に取り組んでいます。令和元年東日本台風という大災害が発生し、すぐに支援に取り組むことを決めました。長野市北部スポーツ・レクリエーションパーク避難所が開設された直後に子どもの居場所を設置し、子どもの一時預かりや見守り、遊び、学習支援等、避難所閉鎖まで毎日休むことなく取り組みました。

災害時における子ども支援は初めてで、特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の皆さまのお力をお借りし、試行錯誤しながら、災害支援に取り組むことができたことに感謝しております。皆さまと取り組んだ緊急支援から、現在は復旧復興支援へと、被災した子ども達の支援を続けています。

この度、約2か月にわたる「避難所における子どもの居場所づくり」について、長野県立大学の皆さまにご検証いただける機会に恵まれたことを感謝申し上げます。

報告書のもと、今後も平時のみでなく、緊急時の子ども支援に迅速に取り組めるよう努力し、自然災害や感染症まん延等相次ぐ困難に立ち向かう「子ども達の未来への一歩」に寄り添い、支えていく所存です。

特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト 理事長 田中 宗史

目次

はじめに	1
報告書発刊によせて	2
研究の目的と概要	5
第1部 避難所（北部スポーツ・レクリエーションパーク）活動記録	6
1. 避難所の概要	7
2. 避難所の環境の変化と子どもの様子	10
3. 1日の活動スケジュール例	12
4. 活動記録（活動期間：10月16日～11月30日）	15
〈資料1〉同意書の例 56	
〈資料2〉子どもの居場所の備品やおもちゃ 57	
第2部 避難所におけるボランティアの意識	
－子どもの居場所づくりを目指した活動内容と課題－	59
1. 目 的	60
2. 方 法	60
3. 調査結果	61
〈資料3〉アンケート調査用紙 80	
第3部 避難所における子どもの居場所づくりの関係者による対談	83
1. 対談の目的と方法	84
2. 対談のまとめ（内容の関連図）	84
3. 対談の内容	84
補足 避難所閉鎖後12月からの取り組み	91
〈資料4〉「災害支援事業のご案内」パンフレット 92	
まとめ	94
〈参考資料〉 96	
終わりにあたって	99

研究の目的と概要

令和元年東日本台風（以下、台風第19号）では、長野市北部スポーツ・レクリエーションパークに設置された避難所において、「特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト」が中心となり、「子どもの一時預かり」や「遊びの提供」など、子どもの居場所づくりに尽力されました。このような災害後の混乱期・困難期における取り組みは、子どもの情緒の安定と、その後の安定した生活を送るためにも重要です。

したがって、本研究では、これらの活動を詳細に記録に留めること、そして課題を抽出して、今後起こりうる自然災害時の支援に活用できる要因を明らかにすることを目的としています。

本研究は、以下に示す3部で構成されています。

第1部：避難所（北部スポーツ・レクリエーションパーク）活動記録

第2部：避難所におけるボランティアの意識

—子どもの居場所づくりを目指した活動内容と課題—

第3部：避難所における子どもの居場所づくりの関係者による対談

第1部では、「特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト」が中心となってまとめた、子どもの居場所づくりに関する綿密な活動メモを整理・分析して記録しました。

活動記録は、①前期：被災直後（10月16日～27日）、②中期：立て直し期（10月28日～11月8日）、③後期：見守り期（11月9日～30日）の3フェーズに分類して記載してあります。この分類は、第2部のアンケート調査においても同様に適用しています。

第2部では、こどもの城のスタッフやご協力いただいたボランティアの方々を対象にアンケート調査を実施し、その活動内容と課題をテキストマイニングの手法を用いて分析しました。

第3部では、本活動における様々な関係者の方々と幅広い視点から協議し、明らかになった課題と今後の取り組みの方向性を模索しました。

なお、本文中、次の組織名は、略称および略号を用いています。

特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト：こどもの城

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン：CFJ（ChildFund Japan）

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会：SVA（Shanti Volunteer Association）

第1部

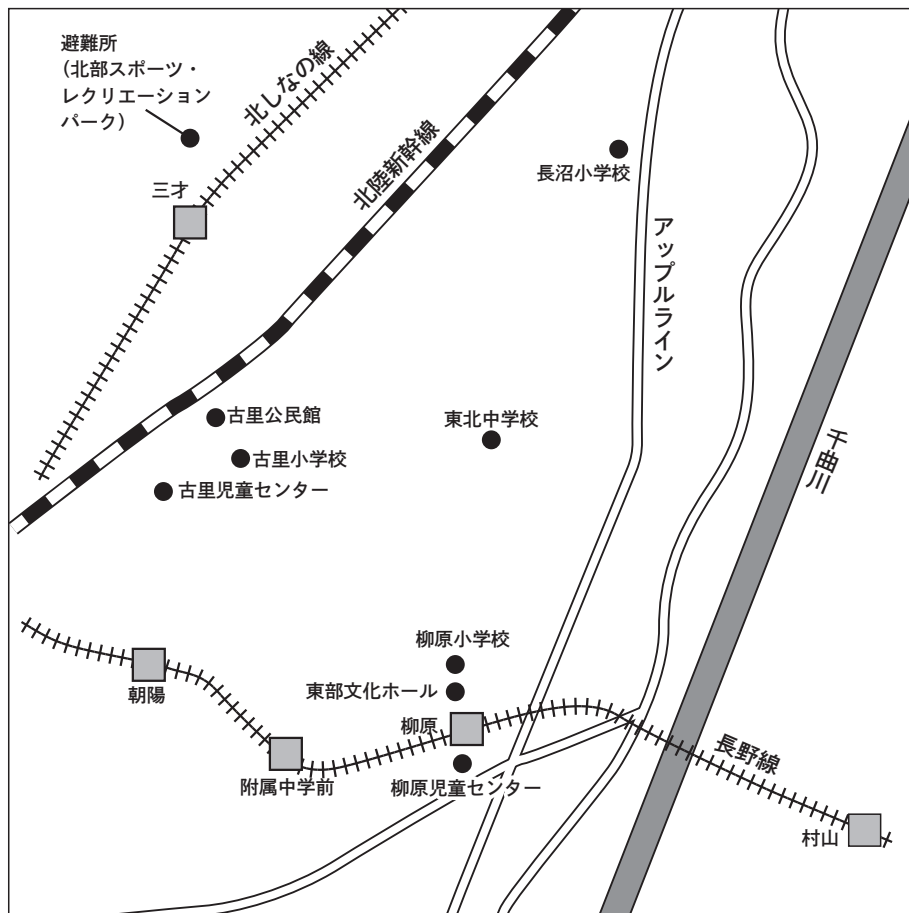
避難所（北部スポーツ・レクリエーションパーク）

活動記録



1. 避難所の概要

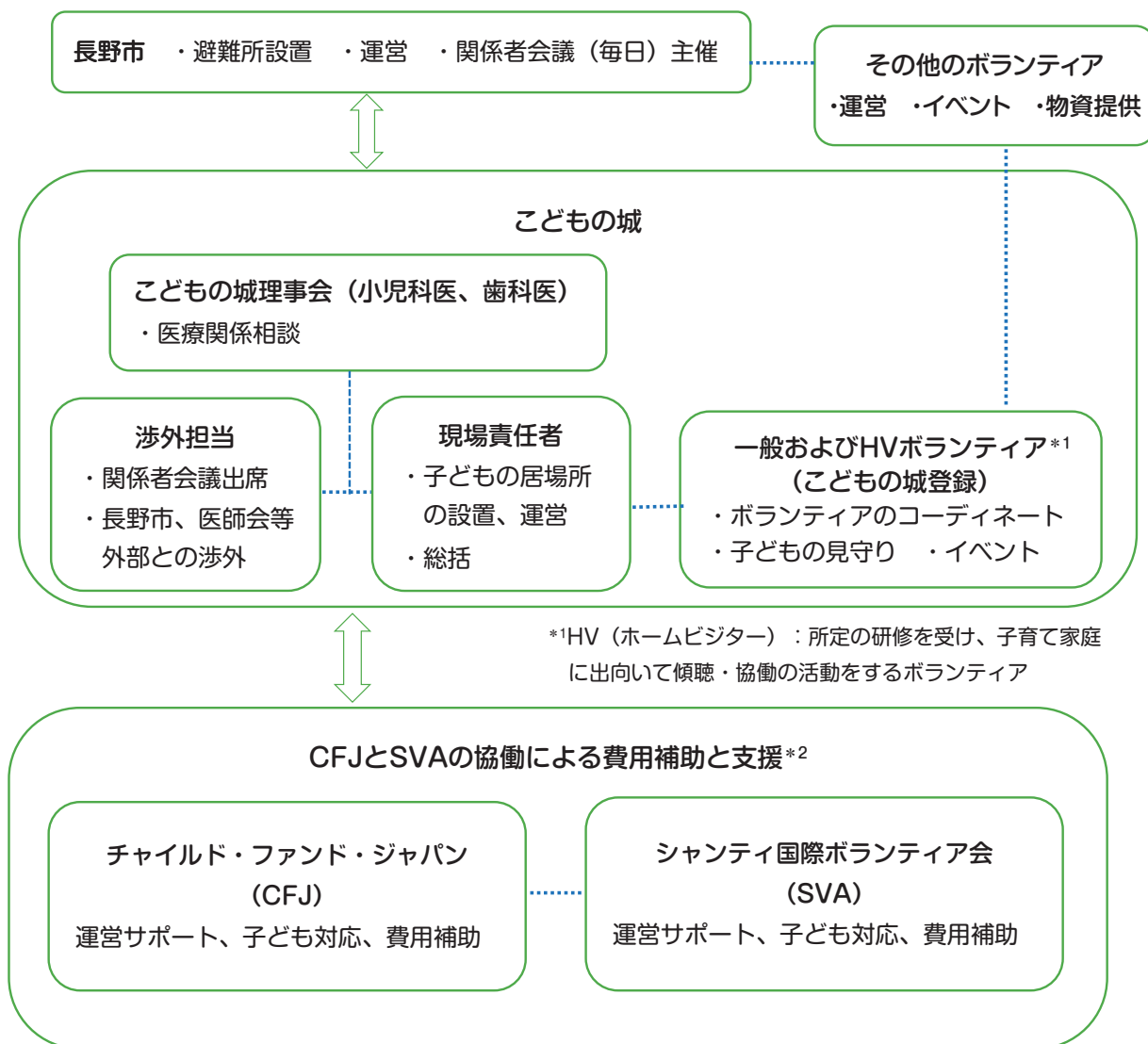
(1) 避難所の位置



(2) 避難所の配置図



(3) 子どもの居場所づくりにおける組織図・役割分担等



(4) 子どもの居場所運営における補助金

- ・公益財団法人ベネッセこども基金 (「令和元年台風19号」で被災した子どもの学びや育ちの支援事業)
助成金額 656,500円 (2019年10月16日～11月30日)
- ・公益財団法人長野県みらい基金 (長野県台風19号災害支援助成金)
助成金額 100,000円 (2019年12月1日～12月22日)

2. 避難所の環境の変化と子どもの様子

		避難所の状況	学校の状況	子どもの様子	保護者の様子	受入体制	支援者の配慮事項		
10月13日	日	避難所開設							
14	月								
15	火	避難者117人							
16	水	子どもの居場所開設							
17	木			ギュッしてと離れない子ども(幼児)が多い 友達同士で家の状況話をしている					
18	金		自由登校 柳原児童センター	自分の荷物にこだわっている(荷物置き場に整理すると怒る)					
19	土			お互いに励まし合っている					
20	日	安倍首相視察 居場所に困り、敷物(アルミシート裏にして) 避難者132人							
21	月	避難者140人	自由登校 柳原児童センター 9:00~12:30(軽食) 昼食 炊き出しカレー	朝疲れた顔の子どもが目立つ ギュッしてと寄ってくる子どもがいる 反抗的だった子どもが笑顔で寄ってくるようになった 居住区を飛び回る等自己主張ができるようになった	保護者にイライラ感が目立ってきた	被災した、預かりを希望する子ども全て受入れ	子どもの全てを受入れながら、日常の生活リズムで過ごす 安心・安全な居場所		
22	火	つかていのお楽しみ劇場 長野市ハロウィン実行委員会来所 避難者181人		ボランティアにスキンシップを求めたり、積極的に家のことを話したりする					
23	水	自衛隊音楽隊演奏会 避難者177人	自由登校 柳原児童センター 9:00~12:30(軽食)	県立大生のファシリテートで真剣に話し合い					
24	木		自由登校 柳原児童センター 9:00~12:30(軽食)	夕方ごろごろしている子どもが数人 居住スペースでゲームをしている男子 女子は、夕方大騒ぎ	学習習慣も必要(チャイルド・ファンド)				
25	金	避難者174人	自由登校 柳原児童センター 9:00~12:30(軽食)	居住スペースでおやつを食べたり、ゲームをしたりする子どもが多くなった					
26	土	避難者218人	柳原小でPTA主催お祭り	帰宅後も落ち着かない様子					
27	日	紙芝居グループ来所 避難者222人							
28	月	畳が敷かれる 学習コーナー開設 避難者213人	自由登校 柳原小 8:30~14:45 給食あり(被服室で長沼児童センター運営)	学習コーナーを利用する子どもが多い 夜、やりたい放題の子ども姿が見られた				避難所に居住する子ども中心、土日預かり、平日見守り	安心・安全な居場所 家庭と共に
29	火	避難者211人	自由登校 柳原小 8:30~14:45 給食あり(被服室で長沼児童センター運営)						
30	水	避難者211人	自由登校 柳原小 8:30~14:45 給食あり(被服室で長沼児童センター運営)		保護者も不安気味				
31	木	ハロウィンパーティ 避難者211人	自由登校 柳原小 8:30~14:45 給食あり(被服室で長沼児童センター運営)						
11月1日	金		自由登校 柳原小 8:30~14:45 給食あり(被服室で長沼児童センター運営)	ボードゲームに夢中 夜、幼児騒ぐ					
2	土	くまモン来所							
3	日	小泉環境大臣、河野防衛大臣来所		ボードゲームに夢中					

4	月	長野バルセイロ・松本山雅のサッカー教室 バリュウ号（バリュブックス）来所		夜、バリュウ号でもらった本に夢中		安心・安全な居場所 家庭と共に	
5	火		柳原小で授業再開				
6	水			帰宅後は、すぐに宿題を済ませてからゲーム等			
7	木				夜の対応について		
8	金			入浴時に気分が悪くなった子どもがいた おやつとの与え方に問題があるかもしれない ゲーム、YouTubeに夢中			
9	土	土・日5時以降の見守りを運営ボランティアに依頼					避難所に居住する子ども中心、土日預かり、平日見守り
10	日	木製スプーンづくり 琴演奏会		引っ越し家庭が増え、不安げな子どもが増えてきた			
11	月			幼児のトラブルが多い			
12	火			夜間、段ボールでブースをつくって遊んでいる			
13	水			受付、避難所全体が遊び場			
14	木	長野バルセイロの慰問					
15	金						
16	土	コカリナ演奏 アルクマ来所		保護者から最近、子どもが荒れているとの声がある			
17	日	バルーンアート 二胡演奏会 避難者205人		高学年バルーンアートに夢中子ども（男女とも）、秘密基地づくり後、片付けしない			
18	月			幼児の扱いに困惑			
19	火			保護者から片付けをさせてほしいといわれた			
20	水						
21	木						
22	金						
23	土	出張「WOOD」広場 木曽町		木を用いた工作に夢中			
24	日	ボサノバコンサート 琴演奏会		引っ越し後の段ボールを使い、秘密基地づくり			
25	月						
26	火				12月3日避難所閉鎖の正式通知あり		
27	水						
28	木						
29	金						
30	土	自衛隊お礼の会 お別れお茶会					

- 1 北部スポーツ・レクリエーションパーク避難所での子どもの居場所
 - 被災した幼児から中学生
 - 10月16日（水）～27日（日） 9：00～18：00
 - 10月28日（月）～31日（木） 16：00～19：00
 - 北部スポーツ・レクリエーションパーク居住の子ども中心：11月1日（金）～30日（土）
 - 平日：16：00～19：00
 - 土・日・祝日：9：00～17：00（他に居住の子どもも受入れる）
- 2 長野市古里公民館、古里児童センター（被災家庭の子ども対象）
 - 12月1日（日）～22日（日） 9：00～16：00
 - 土：古里公民館、日：古里児童センター
 - 令和2年1月12日（日）～2月23日（日）の日曜日 9：00～16：00
 - 古里児童センター

3. 1日の活動スケジュール例

(1) 10月17日(木)・18日(金)、10・11月の土・日・祝日

時間	活動	内容
8:30	環境整備	おもちゃ整理・掃除等
8:45	ミーティング こどもの城 CFJ SVA ボランティア(HV、一般、学生)	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・自己紹介 ・今日の活動(ボランティアによるイベント等) ・子どもへの対応の共有
9:00～	受入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・検温、体調の確認、手指の消毒 ・連絡事項の確認(迎いの時間等)
9:15～	朝の会 参加幼児・児童とスタッフの顔合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・人数確認 ・今日のスタッフの自己紹介 ・今日の1日の活動を子どもと決め、確認する
9:30～	午前の活動 手洗い・消毒	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会で決めた活動を行う ・おやつ場所の整備・消毒
10:00～	おやつ(菓子類と飲み物)	<ul style="list-style-type: none"> ・提供された物資の中から、スタッフが選択 子どもにも選択できるよう配慮 ・おやつ場所の後片付け
10:30～	自由遊び 手洗い・消毒	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊び、中遊び等 ・昼食場所の整備・消毒
12:00～	昼食	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の弁当を活用 弁当と飲み物の提供と食べ方等の確認 ・昼食場所の後片付け
13:00～	自由遊び ボランティアによる活動 手洗い・消毒	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつ場所の整備・消毒
15:00～	おやつ 自由遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつ場所の後片付け
16:00～	終了(お迎え) 後片付け・清掃・おもちゃ消毒 スタッフ振り返り 自由解放(参加自由) テレビ、ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの引き渡し:保護者と顔を合わせて確認 (お迎えの最終は18:00頃)。17:00台のお迎えが多かった ・明日の予定の確認
18:00	閉会	

(2) 10月21日(月)～28日(月)の平日



時 間	活 動	内 容
8:30	環境整備	おもちゃ整理・掃除等
8:45	ミーティング こどもの城 CFJ SVA ボランティア(HV、一般、学生)	・あいさつ ・自己紹介 ・今日の活動(ボランティアによるイベント等) ・子どもへの対応の共有
9:00～	受入れ(幼児、学校に行かない児童)	・検温、体調の確認、手指の消毒 ・連絡事項の確認(迎えの時間等)
9:15～	朝の会 参加幼児・児童とスタッフの顔合わせ	・あいさつ ・人数確認 ・今日のスタッフの自己紹介 ・今日の1日の活動を子どもと決め、確認する
9:30～	午前の活動 手洗い・消毒	・朝の会で決めた活動を行う ・おやつ場所の整備・消毒
10:00～	おやつ(菓子類と飲み物)	・提供された物資の中から、スタッフが選択 子どもにも選択できるよう配慮 ・おやつ場所の後片付け
10:30～	自由遊び 手洗い・消毒	・外遊び・中遊び等 ・昼食場所の整備・消毒
12:00～	昼食	・その日の弁当を活用 弁当と飲み物の提供と食べ方等の確認 ・昼食場所の後片付け
12:45～	小学生受入れ	・検温、体調の確認、手指の消毒 ・付き添い教諭との連絡調整 ・昼食の確認(給食の量不足児童には用意)
13:15～	あいさつ	・人数確認、スタッフ紹介 ・今日の日程
13:30～	自由遊び ボランティアによるイベントに参加 手洗い・消毒	・おやつ場所の整備・消毒
15:00～	おやつ	・おやつ場所の後片付け
16:00～ 18:00	終了(お迎え) 後片付け・清掃・おもちゃ消毒 スタッフ振り返り 自由解放(参加自由) 閉会	・子どもの引き渡し:保護者と顔を合わせて確認 (お迎えの最終は18:00頃) ・明日の予定の確認

(3) 10月29日(火)～11月28日(金)の平日

時 間	活 動	内 容
15:30～	環境整備	・おもちゃ整理 ・掃除など
15:30～ 16:00	小学生受入れ	・手洗い、検温、体調の確認、手指の消毒
16:00～	自由解放(自由遊び・自習)	・人数確認、スタッフ紹介
17:00～	遊びの提供・見守り	
18:00～ 19:00	終了(お迎え) 後片付け・清掃・おもちゃ消毒 スタッフ振り返り 閉会	・子どもの引き渡し:保護者と顔を合わせて確認 (お迎えの最終は19:00頃)。18:30前後のお迎えが多かった ・明日の予定の確認

4. 活動記録（活動期間：10月16日～11月30日）

（1）活動開始前

日・時	主な出来事	こどもの城の関わり
10月11日	台風19号の北上・接近に伴い、非常に発達した雨雲が東海・関東・甲信越地方に広がっていた。すでに大雨となり、甚大な災害が発生する恐れが高まっていた。	長野市保育・幼稚園課と「こども広場じゃんけんぽん」の対応について協議し、指定管理者の判断でよいとの返答を得る。 篠ノ井こども広場「このゆびとまれ」とも協議。 明日の広場の対応策について共有し、張り紙・HP・ブログ等で広報。
10月12日 15:30 16:00 18:40 21:40	長野に大雨洪水警報が発表 北部スポーツ・レクリエーションパーク（北レク）避難所等、指定避難所が稼働 内閣府は台風19号で浸水等の被害の恐れがあるとして、長野に災害救助法を適用	もんぜんぷら座事務局と対応を協議し、広場の対応について報告（レベル3の警報が出たら閉館することを決めた）。 こどもの城「こども広場じゃんけんぽん」閉館
10月13日 未明 8:00 9:00	猛烈に発達した台風19号による大雨の影響で、長野県を流れる千曲川が氾濫、決壊 大規模な冠水の発生を受け、自衛隊の救助ヘリが出動 長野市で千曲川の堤防が決壊、長野市穂保では堤防が約70メートル決壊	10月12日から急速に発達した台風19号は、各地に甚大な被害をもたらした。こどもの城として、発生直後から「私たちに何ができるのか」を模索し、動き出した。 情報収集と対応を協議 ブログで、被災された子育て中の皆さんへ、「子育て中の皆さん、何か困っていることはありませんか?!」と呼びかけた。
10月14日 15日	自衛隊、消防等が救助に当たった。 	緊急リユースマーケットを開催し、乳幼児の衣類・おむつ・おしりふき等の協力を呼びかけた。 

(2) 前期：被災直後（10月16日～27日）

10月16日（水） 天気 晴れ

支援者	参加の状況
<p>・スタッフ：4名(午前2名、午後4名)</p>	<p>【参加者11名】幼児：3名、小2：2名、小4：5名、小6：1名</p>
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8：30 ミーティング</p> <p>9：00 北レクで、子どもに寄り添う活動を開始</p>  <p>[入口から奥まで見通せるアリーナ]</p>	<p>・避難所から幼児の託児を依頼されて行ってみると、小学生が避難所の中を飛び回っていた。</p>  <p>[おもちゃが散乱]</p>
<p>12：00 昼食</p>  <p>[幼児の食事風景]</p>	<p>・ボランティアからおやつは豊富にもらい、好きな時に好きなだけ食べていた。</p> <p>・食事もばらばらに食べていた。</p> <p>・リーダーがいなく、子ども達は、どうしたらよいかわからなそうにしていた。</p> <p>・幼児だけでなく小学生も含めて面倒を見ようと法人内で決め、対応することにした。</p>
<p>13：00 人数確認</p>	<p>・昼食後、名前と学年、人数を確認し、名札を付けてもらい、外遊びをした。</p>
<p>16：00 終了</p>  <p>[刻一刻と変わる避難所風景]</p>	<p>・帰りのチェックをし、残った子どもがわかるようにして受け付けに名簿を預け帰宅。</p> <p>・屋内の人工芝グラウンドに支援物資が山積みされた。</p> <p>・避難所内の様子は、刻一刻と変化していった。</p>



〔じゃんけんぽんに集まった支援物資〕

18:00 閉会

- ・こども広場じゃんけんぽんには、ブログ・FBを見た利用者が、支援物資を持って殺到。赤ちゃんや子どもの衣料品、おむつ、おしりふきのほか、パパ・ママの衣料品が多数集まった。
- ・物品の一部は避難所に届け、一部は緊急リユースマーケットとして、こども広場じゃんけんぽんでも展示した。「友人のために持っています」という人もいて、避難所以外の長野市内各所に、被災した親子が存在することがわかった。

10月17日（木） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ：4名 ・ボランティア（学生：3名） 	<p>【参加者41名】 幼児：5名、小1：4名、小2：10名、小3：10名、小4：4名、小5：3名、小6：5名</p>
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8:30 掃除</p> <p>8:45 ミーティング</p> <p>9:00 受入れ</p> <p>9:15 子どもと顔合わせ タイムスケジュールづくり、テレビゲームのルールづくり（ボランティアと小学生で作成）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの全てを受入れ寄り添おうと、スタッフの意識の共有。 ・今日の日程説明。 ・スタッフ・ボランティア紹介。

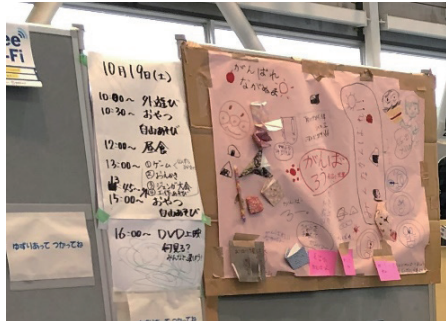
9:30 外遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具で思い切り体を動かして遊んでいた。
10:10 おやつ	<ul style="list-style-type: none"> ・ドカ食いが多い。心配だが声をかけながら様子を見る。 ・被災後ここで初めて会った子どもが多く、おやつを食べながら、お互いの家の被災状況を話す姿が見られた。
10:30 外遊び	
12:00 昼食	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食時、泣いている子どもに様子を聞く。昼食弁当は大人用で量が多いので、分け合っている子どもと、残してはいけないという子どもの双方が泣いていた。食べられるだけ食べて残してもよいと声をかけた。
13:00 ゲーム・外遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・つくったルールで、テレビゲームを楽しむ子どもや外遊びに行く子どもがいた。
15:00 おやつ 中遊び（テレビゲーム、おもちゃ）	<ul style="list-style-type: none"> ・飲み物と菓子類3種（飲み物を紙コップで分けるか、ペットボトルで渡すか検討。双方で一長一短）。
16:00 終了	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の迎えにより随時帰宅。 ・「元気でよかったね」と子ども達に声をかけ合う保護者が多い。 ・迎えに来る保護者は泥だらけ。 ・最終の引き渡しは、18:00過ぎ。
16:30 後片付け・清掃・おもちゃ消毒	
18:00 閉会	
<p>本日の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングで、子どもの全てを受入れて寄り添おうと、スタッフの対応の共有化を図った。 ・菓子・飲み物類が常に出されていて、自由に食べていたので、こどもの城で時間・内容・量を（子どもの選択肢をつくりながら）決めると、日赤奉仕団に伝える。 ・おもちゃの消毒について：T-MAT（災害医療活動を行う徳洲会グループのNPO）から、おもちゃの消毒の指導があり、終了後に、こども広場じゃんけんぼんより持参したミルボンでふき取りを行う。また、使用タオルは乾燥させてから再利用するように指導あり。 	

10月18日（金） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況／配食の状況
<ul style="list-style-type: none"> 自由登校（柳原児童センター、9：00～12：00） 信濃毎日新聞、共同通信社の取材 長沼小教師来所 	<p>【参加者58名】 幼児：3名、小1：9名、小2：14名、小3：10名、小4：10名、小5：4名、小6：7名、中3：1名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ボランティア（HV：10名、一般：2名） スタッフ：4名 	<p>昼食：弁当（魚のフライ、ふりかけご飯、漬物）</p>
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8：30 掃除 8：50 ミーティング</p> <p>9：00 受入れ（8名）</p> <p>9：30 顔合わせ</p> <p>10：10 おやつ 外遊び 中遊び、ゲーム</p> <p>12：00 昼食</p> <p>12：45 受入れ（50名）、昼食</p> <p>13：15 人数確認、ミーティング</p> <p>13：30 外遊び 取材（信濃毎日新聞、共同通信社） 中遊び、ゲーム</p> <p>15：00 おやつ 長沼小教師3名来所 中遊び、ゲーム</p> <p>16：00 終了 後片付け・清掃・おもちゃ消毒</p> <p>18：00 閉会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本日より、一時預かりについて保護者の同意書と受入れ時の検温を実施。 柳原小（25日までは柳原児童センター）で長沼小仮授業（自由登校）開始（校内探検等）。 避難先から柳原小は遠い（保護者談）。 子ども達が午前から来所。 日程とスタッフ紹介。 少ない人数で落ち着いて遊んでいた。 東北中3年生が、小学生と遊んでくれた。 自分の荷物にこだわっている子どもがいた。 昼食に、具だくさんのみそ汁をお願いしたが、業者がつくっているのでここでは増やせないとのこと。栄養の偏りが心配。 学校終了後来所、昼食をとる。弁当があり助かる。 北レクでの過ごし方について。 取材には、子ども達の写真撮影について保護者の承諾を得ていないことを伝える。
<p>本日の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 長沼小児童の顔合わせ（校内探検等）：終了後、お迎えの知人から子どもの一人がエピペン保持であることを知り、長沼小の養護教諭と連絡を取って確認 → PTA連絡網で、アレルギーのある人は申告することを流してもらおう（個人情報保護のため、学校からは知らせることは不可と言われた。命に関わることは、情報の共有化が必要と思う）。同意書にもアレルギーの有無欄を明記。 長沼小教師来所：柳原小からの移動、保護者1人1人対応でなくてもよいか？ → 同意書を提出していれば可と応える。 	

10月19日（土） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ボランティアによる紙芝居、プラアート、絵画 連携打合わせ 	<p>【参加者38名】 幼児：3名、小1：2名、小2：8名、小3：8名、小4：7名、小5：4名、小6：5名、中学生：1名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ボランティア（HV：8名、一般：4名、学生：3名） CFJ：1名、SVA：1名 ・スタッフ：4名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8：30 掃除</p>	
<p>8：50 ミーティング</p>	
<p>9：00 受入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアが毎日替わるので、子どもへの対応について、共有を図る。 保護者1名来所、エピペン保持を申告。T-MAT ナースと対応、情報共有。アレルギーはくるみ、赤紫蘇。
<p>10：00 外遊び（24名） おやつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 晴れていたなので、外のあずまやで水分補給とおやつ。
<p>12：00 昼食（38名）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 完食が多かった。
<p>13：00 中遊び 紙芝居 プラアート 絵画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアによる活動に、子ども達は積極的に参加。
	<ul style="list-style-type: none"> ボードゲームグループのボランティア突然来所。子ども達と決めた生活リズムに沿って行動してもらえなく、スタッフ困惑。
<p>14：00 CFJ、SVA 来所</p>	<ul style="list-style-type: none"> CFJ、SVAに、今後の協力を確認。明日から2名活動に入る（ユニセフ紹介）。
<p>15：00 おやつ</p>	
<p>16：00 終了</p>	
 <p>〔自由時間は自由に過ごす〕</p>	 <p>〔読書コーナーも整備〕</p>



〔お互いに励まし合いの言葉と今日の日程〕



〔お互いに激励の言葉を出し合って〕

18:00 閉会

本日の課題

- ・ボランティアが毎日替わり、子どもの状況についていろいろ知っているが、子どもを点で見て騒がないほうがよい。スタッフは経過を見ながら対応。また、ボランティアも数日継続できることが望ましい。
- ・情報は一人歩きをするので、むやみな情報発信はしないほうがよい。
- ・避難所のトイレの使い方等、使用禁止情報はきたが、いつの間にか解除されていた。情報の伝達が課題。

連携打合わせ (CFJ) 15:00～17:00

- ・居場所での支援体制についての確認
→こどもの城の理事は、長野市内の小児科医が中心になっているので、運営方法等について常に相談し、子どもに緊急事態が起きた場合には、支援体制ができています。

10月20日(日) 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・安倍首相視察で来所 ・ボランティア (HV: 7名、一般: 7名、学生: 6名) ・CFJ: 1名、SVA: 1名 ・スタッフ: 6名 	<p>【参加者47名】 幼児: 8名、小1: 1名、小2: 14名、小3: 8名、小4: 7名、小5: 3名、小6: 5名、中学生: 1名</p>
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8:50 ミーティング</p> <p>9:00 受入れ 子どもの居場所整備</p> <p>10:30 おやつ 外遊び バスケットボール (7名) 遊具等 (30名) 中遊び (9名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内閣府災害時環境支援により、周囲を囲み、敷物も変わった。 ・男子ボランティアが多く、バスケットボール等で体を動かし、思い切り遊んでいた。

11:40 安倍首相視察

12:00 昼食



〔昼食風景〕

13:00 自由遊び

14:00 トランプ、ボードゲーム
お絵描き、カプラ

15:00 おやつ

16:00 終了

17:30 後片付け・清掃・おもちゃ消毒

18:00 閉会

・中遊びの子ども達、首相とツーショット。積極的に総理に話しかける姿があった。



・男子ボランティアとよく遊び、昼食よく食べる。

・昼食休憩の時間に、カプラ（造形ブロック）で男子1名を包み、協力して遊んでいた。
・中、外に分かれてゲーム等をして遊ぶ。



・お迎えの最終は18:00過ぎ。


本日の課題

・歯科医師会巡回支援：歯ブラシ（大人用150本、子ども用200本）をいただく。子どもに配ったところ、「車で寝ていて、歯磨きができないからいらない」という子どもがいた。

10月21日（月） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況／配食の状況
<ul style="list-style-type: none"> 自由登校（柳原児童センター、9：00～12：00、軽食あり） 	<p>【参加者64名】 幼児：4名、小1：10名、小2：12名、小3：11名、小4：11名、小5：7名、小6：9名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ボランティア（HV：4名、一般：7名） CFJ：1名、SVA：1名 ・スタッフ：5名 	<p>昼食：カレーライス、みかん、りんご</p>
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8：30 清掃</p> <p>8：45 スタッフミーティング</p> <p>9：00 子ども顔合わせ 自由遊び</p> <p>12：15 受入れ （マフィンをもたらってきた） 手洗い・検温後、昼食</p> <p>13：15 人数確認</p> <p>15：00 おやつ</p> <p>16：00 終了 自由遊び</p> <p>17：00 後片付け・清掃・おもちゃ消毒</p> <p>18：00 閉会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 理事長より、肌のふれ合う手遊び等を取り入れるよう指導あり。 幼児3名、小学生4名、仲良く遊ぶ。 柳原小で長沼小教師により顔合わせ。行かない児童4名。 何人かで相乗り送迎。 受付大混雑（手洗い・消毒・検温・名前記載） 37.1度の子どもがいたので、T-MATに相談し、経過観察（15：20検温、36.7度に下がる）。 昼食の温かいカレーライスに大喜び。きちんと食べ、おやつをあまりほしがらなかった。 疲れて眠る子どもが出てきた（16：00過ぎ）。 子どもの引き渡し。
<p>本日の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所に住む子どもが増えてきた。 朝、暗い（疲れた）顔の子どもが目立つ。 ギュッとすると、手を回してくる子どもがいる。積極的にスキンシップに心がける。 反抗的だった子どもが笑顔を見せて寄ってくるようになってきた。 居住区を迷路のように走り回り出した（自己主張してきた）。 お迎えの保護者のイライラ感目立つ。 	

10月22日（火・祝） 天気 雨

主な出来事／支援者	参加の状況／配食の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・朝から大雨・洪水警報：人の出入りが激しい ・清泉女学院短期大学（以下、清泉短大）の学生によるお楽しみ劇場 ・つかていのお楽しみ劇場 ・長野市ハロウィン実行委員会来所 	<p>【参加者53名】 幼児：9名、小1：3名、小2：15名 小3：14名、小4：7名、小5：2名、小6：3名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（HV：6名、一般：8名、学生：17名） ・CFJ：1名、SVA：1名 ・スタッフ：4名 	<p>昼食：弁当、炊き出しカレー、パン、おにぎり</p>
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8：30 掃除</p> <p>8：45 ミーティング</p> <p>9：00 受入れ</p> <p>9：15 顔合わせ</p> <p>10：00 おやつ（スナック菓子コブクロ、粒チョコ2、ヤクルト） 自由遊び</p> <p>11：45 手洗い 昼食 44名</p> <p>12：45 自由遊び</p> <p>13：45 清泉短大の学生と教員が遊びの道具数種類持参 お楽しみ劇場 手遊び・クイズ</p>  <p>14：00～14：40 つかていのお楽しみ劇場（清泉短大教員） 紙芝居とゆかいなパフォーマンス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害児を受入れ、特定非営利活動法人カシオペア（発達に課題のある子どもへの支援を行っている）の2名が中心に世話（保護者は心配していたが、個別対応したのでスムーズに生活ができた）。 ・遊びと折り紙のボランティアによる遊びの提供により、子ども達は皿回し、ベーゴマ、折り紙、壁絵描き、カプラ等順繰りに回り、真剣に遊んでいた。 ・休日だったので、炊き出し、差し入れ多かったが、カレーは辛くて食べられない子どもが多かった。 ・清泉短大の学生2名と、子ども達と一緒に活動し、楽しんでいた。

15:00	プレゼント配布（長野市ハロウィン実行委員会） おやつ（りんご1切れ、メロン2切れ、ジュース、ハロウィンお菓子）	・6名でおみやげ持参
16:00	終了 自由遊び	
16:30	後片付け・清掃・おもちゃ消毒	・午後、避難指示あり。17:00前より、子どもの居場所にも大勢の避難者が集まってきた。
18:00	閉会	

本日の課題

- ・T-MATリハビリの先生から子ども達に、高齢者の寝たきり予防のお手伝いをしてほしいと声がかかった。
- ・カシオペアのスタッフから帰り際に、子ども達が積極的にスキンシップを求めてきたり、家の状況を話したりしてくるといわれた。
- ・北レク内に居住する子どもが増え、居住スペースと行ったり来たりしている子どもが多い。そのため、預かり時の検温等がしにくくなってきた。
- ・ノート、鉛筆、マーカー、お菓子等毎日何かおみやげがあり、持ち帰れなく置いていくものが増えた（物的提供が多すぎるか?）。
- ・おやつや食事の管理がされていなく、不安。食事支援ボランティアが子どもに食べ物を自由に与えている。こちらの意向を伝えているが、ボランティア間の連携がない。

10月23日（水） 天気 晴れ

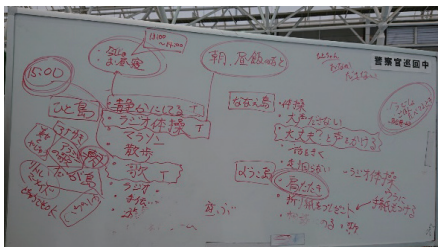
主な出来事／支援者		参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・自由登校（柳原児童センター、9:00～12:30、軽食あり） ・自衛隊音楽隊による演奏会 		【参加者81名】 幼児：4名、小1：10名、小2：22名、小3：15名、小4：10名、小5：9名、小6：10名、中学生：1名
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（HV：2名、学生：4名） ・CFJ：1名、SVA：1名 ・スタッフ：5名 		
活動記録		子どもの様子・対応の留意点等
8:30	掃除	
8:45	ミーティング	
9:00	受入れ（幼児1名、小学生2名、中学生1名）	・食欲のない子どもがいて、なかなか起きてこなかった。
12:45	小学生受入れ（1～2年、3～4年、5～6年と3つの便で77名）	・昼食を用意していたが、学校で簡易給食（コッペパン・牛乳・スープ）実施。
13:15	受入れ終了、人数確認	・手洗い・検温・同意書確認・受付名簿に記入

13:30 顔合わせ

14:00 自衛隊音楽隊による演奏会

15:00 おやつ

15:30 避難所での生活についての話し合い



16:00 終了

18:00 閉会

- ・スタッフ紹介
- ・今日の日程



「パプリカ」の曲に合わせて、踊り出す子ども達

- ・T-MATリハビリの先生からの課題について、何ができるか（学生ボランティアの長野県立大学生がファシリテートし、子ども達の意見を引き出した）

おじいちゃん・おばあちゃんが寝たきりにならないために、私たちができること

- ・大丈夫と声をかける。
- ・話をきく。
- ・折り紙をプレゼント。裏に手紙もつける。
- ・肩たたき。
- ・ラジオ体操（朝ごはん・昼ごはんの後）
- ・お昼寝 13:00～14:00
- ・静かにする。

本日の課題：小学校との連絡調整

- ・同意書未提出者が多数のため、受入れ体制の確認
→ 校長先生が代理で同意書に署名し、引き取り時に保護者が記入。
- ・学校との連絡窓口の担当確認 → 昼食の有無等確認できたほうがよい。
- ・夕方、校長先生来所。今後の予定について確認：28日から柳原小にて授業（複式で）予定。柳原小（被服室）で長沼児童センター運営開始する。

10月24日（木） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> 自由登校（柳原児童センター、9：00～12：30、軽食あり） 連携打合わせ 	<p>【参加者数／73名】 幼児：5名、小1：9名、小2：16名、小3：9名、小4：12名、小5：12名、小6：10名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ボランティア（HV：3名） CFJ：1名、SVA：1名 ・スタッフ：4名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8：30 掃除</p> <p>8：45 ミーティング</p> <p>9：00 受入れ（幼児5名、小学生3名）</p> <p>10：00 おやつ</p> <p>12：00 昼食</p> <p>13：00 小学生受入れ（長沼小から68名）</p> <p>15：00 おやつ</p> <p>15：30～ 自由遊び</p> <p>16：00 終了 後片付け・清掃・おもちゃ消毒</p> <p>18：00 閉会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全員で、外でよく遊ぶ。1・2歳児も大きな子どもの後についてよく遊んだ。 ほとんどの小学生、柳原小に行く。 1～2歳児、おやつや食事をよく食べていた。 10：00頃、遊び場に来た子どもがいた。起きたばかりで朝食を食べていないといっていたので、ミルクパン2個とジュースで朝食。その後外遊びをしたが、元気がなかった。 給食の量が少ないためか、5・6年生の中には到着後すぐに、菓子やパンを食べている子どもがいた。 夕方、ゴロゴロしている子どもが数名いた。遊びながら眠ってしまった子どもがいた。 居住している子どものところに行き、ゲームをする子どもが増えた。男子に多い。 夕方、小学生が大騒ぎをしていた。
<p>連携打合わせ（CFJ、SVA）15：00～17：00</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の再開に合わせた学習習慣の育成が必要。 人数（60～70名）が多く、場所が狭い。プレハブまたはトレーラーハウスの設置も視野に入れてはどうか。土地があれば、対応できるとCFJとSVAから提案あり。 	

10月25日（金）天気 雨

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・自由登校（柳原児童センター、9：00～12：30、軽食あり） ・長野市こども未来部長来所 	<p>【参加者74名】 幼児：2名、小1：10名、小2：16名、小3：14名、小4：12名、小5：10名、小6：10名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（HV：2名） ・CFJ：1名、SVA：1名 ・スタッフ：4名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8：30 掃除</p> <p>8：45 ミーティング</p> <p>9：00 受入れ</p> <p>12：00 昼食</p> <p>14：00 小学生受入れ</p> <p>15：00 おやつ 自由遊び</p> <p>16：00 終了 後片付け・清掃・おもちゃ消毒</p> <p>18：00 閉会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児に対し、臨時託児所の豊野ひがし保育園を、人的・物的環境が良好と勧める。
<p>本日の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗いの場所が外は1か所しかなく、子ども達は濡れながら順番を待っていた。 ・子ども74名中20名ぐらいが北レクに居住し、おやつを居住スペースで自由に食べている子どもが多くなり、目の届かない子ども達が増えてきた。預かり保育の限界を感じる。 ・長沼小授業再開に伴い、こどもの城の預かりは27日までとお知らせを出す。徐々に伝えていたが、突然との受け止めも多く、保護者からの問い合わせが多かった。 	

10月26日（土）天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・柳原小PTA主催のお祭りに参加 ・自衛隊音楽隊による演奏会 	<p>【参加者63名】 幼児：11名、小1：3名、小2：14名、小3：16名、小4：11名、小5：4名、小6：4名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（HV：2名、一般：1名、学生：8名） ・CFJ：1名、SVA：2名 ・スタッフ：2名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8：30 掃除</p> <p>8：45 ミーティング</p> <p>9：00 受入れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清泉短大の学生、手づくりおもちゃを持参し、幼児とよく遊ぶ。 ・柳原小でPTA主催のお祭りに参加した小学生が多く、午前中は幼児が11名、小学生1名。


10:00	おやつ	<ul style="list-style-type: none"> ・おみやげや工作物など手荷物が多くなって、忘れ物も多くなり、大事にしない光景が見られるようになった。 ・1名の幼児のお迎えが18:00と遅かった。預かりは16:00までと伝えたが、日本語が通じるか心配。
12:00	昼食	
13:00	小学生受入れ	
14:00	自衛隊音楽隊による演奏会（屋外で）	
15:00	おやつ 自由遊び	
16:00	終了 後片付け・清掃・おもちゃ消毒	
18:00	閉会	
本日の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの支援の菓子・飲料等が豊富にあり、常時子どもの手の届くところに出ている。生活リズム等に配慮してほしいことを度々伝えるが、担当ボランティアが短期間で変わり、引き継ぎがされていないため、かわいそうな子の支援をしなくてはと、食べ物を豊富に与えていることが気になる。食べ残し、飲み残しが多い。 ・柳原小PTAからお小遣い500円をもらい、買い物をしたようだ。500円を無くしたと知っている子どもがいた。 		

10月27日（日） 天気 晴れ

主な出来事／支援者		参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居グループによる紙芝居 		【参加者40名】 幼児：10名、小学生：30名
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（HV：3名） ・CFJ：1名、SVA：2名 ・スタッフ：5名 		
活動記録		子どもの様子・対応の留意点等
8:45	ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びのボランティアとベーゴマ等で遊ぶ。
9:00	受入れ	
10:00	おやつ	
12:00	昼食	
13:00	自由遊び	
14:00～14:45	紙芝居	
16:00	終了 後片付け・清掃・おもちゃ消毒	
18:00	閉会	
<ul style="list-style-type: none"> ・10月27日現在、北レク在住子ども数：幼児10名、小学生24名、中学生16名、高校生7名 		

(3) 中期：立て直し期（10月28日～11月8日）

10月28日（月） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・自由登校（柳原小、8：30～14：45、給食あり） ・ボランティア（HV：3名） ・SVA：2名 ・スタッフ：2名 	<p>【参加者31名】 幼児：8名、小学生：20名、中学生：3名</p>
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8：45 環境整備</p> <p>9：00 受入れ（3歳未満児2名、小学生1名）</p> <p>10：00 おやつ 環境整備</p> <p>12：00 昼食</p> <p>15：30 受入れ</p> <p>学習コーナー開設</p>  <p>16：00 終了 後片付け・清掃・おもちゃ消毒</p> <p>18：00 閉会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本日からスタッフ1名（午前1名、午後1名）で対応する。 ・託児希望 幼児：外で遊ぶ。 小学生：スタッフ・ボランティアと関わりながら過ごす。 ・畳敷き ・段ボールで棚づくり ・玩具と絵本の整理 ・子ども達は、整理された環境でゴロゴロしながら遊んでいた。 ・学習コーナーで学習をする小学生や中学生の姿があった。
<p>本日の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畳が敷かれ、過ごしやすくなった。子ども達のゴロゴロしている姿が多く見られた → 疲れ？ 温かい環境？ ・福祉サポートチームの一角を、学習コーナーとして整備。 ・学校を欠席した子どもとの関わり → 午前、ボランティアの1名と20分くらい散歩、段ボールの飾り、絵を描く。絵本整理を本人希望で行う。昼食を一緒に食べ、家族、学校の話スタッフとする。 	

10月29日（火） 天気 晴れ



主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> 自由登校（柳原小、8：30～14：45、給食あり） 連携打合わせ あそびずくしプレイパーク来所 	【参加者33名】 幼児：8名、小学生：20名、中学生：5名
<ul style="list-style-type: none"> ボランティア（HV：2名） SVA：1名 ・スタッフ：1名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
15：45 環境整備 16：00 受入れ 担当者打合わせ 18：00 終了 後片付け・清掃・おもちゃ消毒 19：00 閉会	
連携打合わせ（CFJ、SVA） 15：00～17：00 <ul style="list-style-type: none"> プレイパーク：子ども（小学生）の遊び場確保→やりたいことをやればよい。遊び場が居住スペース内では、子どもの自由活動が抑制され、お互いに我慢しているため、負担になる（ストレスにつながる）。現状では、中高生の居場所がない。活動開始は、12月から？ 子どもの様子 <ol style="list-style-type: none"> 10/28 目の届かない夜間の幼児の遊びをどうするか？ 20：30過ぎから大人が就寝してしまう。遊び足りていない？ バランスが課題。 学習コーナー：小学生4名、中学生1名でルールづくりをして、過ごしやすい居場所となった。20：00まで小学生、20：00過ぎから中高生が学習開始。時間延長も必要？ 夕方の対応：スタッフが1名いたほうがよいか？ 見る必要があるか？ 家庭に戻すことも必要。夜は、家庭と避難所運営ボランティアでよいか？ 子どもの心のケア：子どもの自由を尊重することが大事。環境が一変すると自分たちの居場所でなくなる。子どもにとって来やすい場所とは？ ボードゲームボランティア：平日参加予定。 	

10月30日（水） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> 自由登校（柳原小、8：30～14：45、給食あり） 関係者会議、保護者懇談会、連携打合わせ 	【参加者31名】 幼児：8名、小学生：20名、中学生：3名
<ul style="list-style-type: none"> ボランティア（HV：2名） SVA：1名 ・スタッフ：1名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
15：00 環境整備	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃの整理

<p>16:00 受入れ 綿あめの配付</p> <p>入浴開始</p> <p>17:00 夕食</p> <p>18:00 終了 チョコバナナの配付 遊び、入浴後の子ども混在</p> <p>19:00 閉会</p>	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー表示の名札を背中に付けている子どもが、おやつを食べながら歩き回っていて心配。 <div data-bbox="842 271 1114 427" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>名まえ〇〇〇 才 アレルギー 〇〇、〇〇</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 夕食前に綿あめ配付の声かけがあり、驚く。子ども達の反応は薄かった。 父親の帰宅を待ち、避難所内自宅にて家族で食事をするために、コーナーから子ども達が散っていった。 18:00頃にチョコバナナの配布があった。夕食への影響が心配。 入浴後の髪を乾かすドライヤーが見つからず、そのままの長い髪の女子も多い。風邪など健康面への影響が気になる。
<p>保護者懇談会（出席者：保護者20名、スタッフ7名）</p> <p>20:00～ こどもの城の活動目的・組織、今後の活動、注意事項について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習コーナーの見守り：20:00までスタッフ、20:00～21:00を福祉サポートチーム。 <p>20:30～21:00 保護者へ依頼したいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲームの時間の具体的な設定について：19:00まで小学生（以降も勉強したい子は一緒に）、19:00～21:00は中高生。 体調管理等について（助産師）：子どもの体調管理は親の責任。これからのインフルエンザ・ノロウイルス対策。エチケット袋の作り方、使い方について。性被害予防にも細心の注意を。 11月からについて：平日は、15:00～19:00見守りに移行。土・日・祝日は、北レク避難所の居住者に限り、預かり支援を実施（支援に対する同意書、登録制）。 →開始時間、受入れ児童については、その後、保護者からの要望等により変化。 名札をつけること。 	
<p>連携打合わせ（CFJ、SVA） 21:00～</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の活動における連携について 学習支援について（SVA）：中高生部活で帰りがギリギリ。土・日曜日の学習支援を考える？ 土曜日は小学生、日曜日は中学生。学習支援のマネジメントや子どもの相手ができる大学生を2名くらい募集したらどうか？ 高専生が対応できるか？ 遊び場について（SVA）：2月週末からプレイリーダー1名配置可。1泊2日で東京から派遣、外遊び中心。 子どもの居場所について：現在の室内を活用し、乗り越えるか？ 子どもの心のケアについて：子どもの自由を尊重することが大切。環境（人的・物的）が一変すると、自分たちの居場所でなくなる？ 子どもにとって来やすい場所とは？ 	

10月31日（木） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況／配食の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・自由登校（柳原小、8：30～14：45、給食あり） ・大型（等身大）人形劇 ・北レクハロウィンパーティ ・関係者会議 ・避難所住民の車座会議 	<p>【参加者32名】 幼児：8名、小学生：20名、中学生：4名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（HV：2名） ・スタッフ：1名 	<p>夕食：炊き出し（パスタ）</p>
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>13：00 受入れ</p> <p>15：00 風船遊び、人形劇</p>  <p>16：20 大型（等身大）人形劇（食事コーナーで） 「ハロディ桃太郎、花咲じいさん」</p> <p>17：00 館内放送あり「本日の炊き出しはパスタです」 自由遊び（お家ごっこ、カード遊び、折り紙、線路等）</p> <p>18：00 夕食の家庭増える 終了 後片付け・清掃・おもちゃ消毒</p> <p>19：00 閉会</p> <p>19：30～ 北レクハロウィンパーティ 車座集会（市と避難所住民）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口内炎が痛いため、学校を休んでいる子どもがいた。午後少しずつ、コーナーに顔を出し、帰宅した子ども達と遊び、笑顔が見られるようになった。 ・ハロウィン衣装（髪飾り、しっぽ、猫耳、羽根、帽子等が入り口付近に用意）を、子ども達が装着して楽しむ。  <ul style="list-style-type: none"> ・入浴後の子ども達やこれから入浴を急ぐ保護者の声が混在。 ・室内寒く、子ども達に風邪が心配。「うちも風邪ひいたよ」など、母親同士の声が聞こえる。
<p>関係者会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営体制の確認：子どもの居場所の運営事務局は、こどもの城であることを明確にする。 	


11月1日（金） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・自由登校（柳原小、8：30～14：45、給食あり） ・ボードゲームグループ来所 	<p>【参加者26名】 幼児：6名、小学生：20名 【学習支援6名】 小学生：2名、中学生：4名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（一般：5名） ・CFJ：1名、SVA：1名 ・スタッフ：1名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>15：45 環境整備</p> <p>16：00 受入れ</p> <p>16：30 ボードゲーム</p> <p>18：00 終了 後片付け・清掃・おもちゃ消毒 食事終了後、テレビゲームに夢中（幼児・小学生）</p> <p>19：00 閉会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボードゲームグループ3名がボランティア参加。子ども達は集中して、テレビゲームをつけないで遊んでいた。幼児にもきちんと相手をしてくれた。 ・18：00以降は乳幼児が集まり遊ぶ。風船で遊んでいたもので、口を付けた風船は処理。

11月2日(土) 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況／配食の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・くまモン来所 ・ボランティア (HV: 1名、一般: 2名、学生: 1名) ・CFJ: 1名、SVA: 1名 ・スタッフ: 2名 	<p>【参加者19名】幼児: 6名、小2: 4名、小3: 3名、小4: 3名、小5: 1名、小6: 2名</p> <p>【学習支援4名】中学生: 3名、高校生: 1名</p> <p>昼食: 弁当</p>
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8:30 掃除</p> <p>8:45 ミーティング</p> <p>9:00 受入れ</p> <p>外遊び</p> <p>10:00 おやつ</p> <p>11:00 理学療法士による体操 (高齢者と寝たきり予防!)</p> <p>12:00 昼食</p> <p>15:00 くまモン登場 自由遊び</p> <div data-bbox="320 1536 550 1899" data-label="Image"> </div> <p>[スクラッチアートに夢中]</p> <p>16:00 終了</p> <p>17:00 閉会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休日のため起床も遅かったようで、朝食を食べている子どももいた。 ・朝食がパンだったので、カップラーメンを食べている子どももいた。 ・いらないと応えている子どももいた。 ・それぞれ居住スペースで遊んでいる子どもも多かった。 ・一緒に体操する子どもや遊んでいる子ども、遠くから一緒に体を動かしている子どもがいた。 ・お弁当を参加者19名分確保。 ・海苔を配ると大喜び。幼児にはおにぎりにしたらよく食べていた。 ・それぞれの家で食べている子どももいた。 ・最初はなかなか乗り気でなかった子どもも大喜びで遊んでいた。 ・中学受験の子どもの中には、午後塾へ行く子どももいた。 ・女子は、スクラッチアート(黒いスクラッチ面を削るだけで、絵が描ける新感覚のアート)に夢中になっていた。

11月3日（日・祝） 天気 曇り

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ ガールスカウト来所（小物づくり） ・ 河野防衛大臣、小泉環境大臣視察 ・ 合唱ボランティアと童謡を歌おう！ ・ ボードゲームグループ来所 	<p>【参加者19名】 幼児：4名、小2：4名、小3：6名、小4：2名、小5：2名、小6：1名</p> <p>【学習支援8名】 中学生：7名、高校生：1名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア（HV：3名、一般：6名） ・ CFJ：1名、SVA：1名 ・ スタッフ：2名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8：30 掃除</p> <p>8：45 ミーティング</p> <p>9：00 受入れ 自由遊び（テレビゲーム、スクラッチアート）</p> <p>9：30 ミーティング</p> <p>10：00 おやつ 外遊び</p> <p>11：00 ガールスカウトと小物づくり リハビリ体操</p> <p>12：00 昼食</p> <p>13：30 河野防衛大臣、小泉環境大臣視察</p>  <p>14：00 合唱ボランティアのヤミーさんの童謡</p> <p>15：00 ボードゲーム</p> <p>16：00 終了</p> <p>17：00 閉会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男子はテレビゲーム、女子は昨日の続きのスクラッチアートをしていた。 ・ 子ども達は、この時点であまり集まってこなくなった（ゆっくり集まるようになった）。 ・ 今日の日程とスタッフ紹介等。 ・ 女子が主に外へ出る。男子はゲームをいつからしてよいかと、しつこく質問。 ・ 小物づくりをしている子どもが多かった。 ・ 子ども達はマスコミに交じって行動していた。 ・ 6～7名の子どもが参加し聞いていた。 ・ ボードゲームで遊ぶ時間は、まったくテレビゲームをしなかった。

11月4日（月・振替休日） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・長野パルセイロ・松本山雅のサッカー教室（社会福祉士会主催） ・バリュー号（バリューボックス）来所 	<p>【参加者26名】 幼児：5名、小1：1名、小2：5名、小3：6名、小4：4名、小5：4名、小6：1名</p> <p>【学習支援2名】 小学生：1名、高校生：1名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（一般：3名、学生：2名） ・CFJ：1名、SVA：1名 ・スタッフ：3名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8：30 掃除</p> <p>8：45 ミーティング</p> <p>9：00 受入れ 中遊び（テレビゲーム、読書等）</p> <p>10：00 おやつ</p> <p>10：30 外遊び</p> <p>12：00 昼食</p> <p>13：30～14：30 サッカー教室（長野パルセイロ・松本山雅）</p>  <p>15：00 おやつ</p> <p>16：00 テレビゲーム始める</p> <p>16：15 後片付け・清掃・おもちゃ消毒</p> <p>17：00 バリュー号による本の提供</p>  <p>18：00 終了</p> <p>19：00 閉会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は興味を示さなかったが、始めたら皆いきいきとプレーして楽しんでいた。 ・グッズやプロマイドにサインをしてもらい喜んでいた。  <ul style="list-style-type: none"> ・絵本や物語等自分の好きな本を、腕いっぱい抱えてニコニコして帰っていく姿があった。

11月5日（火） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・本日より、柳原小で授業再開 ・連携打合わせ 	【参加者26名】 幼児：5名、小学生21名 【学習支援11名】 小学生：6名、中学生：4名、高校生：1名
<ul style="list-style-type: none"> ・CFJ：1名、SVA：1名 ・スタッフ：1人 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
16：00 環境整備 受入れ 自由遊び 18：00 終了 後片付け・清掃・おもちゃ消毒 19：00 閉会	<ul style="list-style-type: none"> ・帰ってすぐに、学習コーナーで宿題を済ませる子どもが増えてきた。 ・その後は、男子はゲーム、女子は学年ごとに遊んでいた。
連携打合わせ（CFJ、SVA） 15：00～17：00 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の夜の過ごし方が課題。 	

11月6日（水） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ボードゲームグループ来所 ・連携打合わせ 	【参加者26名】 幼児：5名、小学生21名 【学習支援10名】 小学生：6名、中学生：3名、高校生：1名
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（一般：3名） ・CFJ：1名、SVA：1名 ・スタッフ：2名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
15：30 受入れ 学習・ボードゲーム 自由遊び等 16：00 ボードゲーム 18：00 終了 19：00 閉会	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は職員会議のため、帰宅が早かった。 ・帰ってすぐに、学習コーナーで宿題を2年生4名、5年生2名で始めた。その後、6年生、中学生と入れ替わりながら学習をしていた。 ・10名くらいの子どもが参加。 ・久しぶりに来て、家族で夕食を食べている元気な姿が見られた子どもがいた。 ・おもちゃの片付けがなかなかされなく、使ったまま放置されている。
連携打合わせ（CFJ、SVA） 16：20～18：30 <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援の方向性と運営：学習コーナーの見守りは、20：30以降は保護者にバトンタッチのはずがうまくいかず。その後、20：00以降は避難所責任者である行政（ほかの地方からの応援自治体）に任せ、こどもの城・CFJ・SVAは「帰る」と決めたが、うまくいかなかった。 ・今後の対応の確認（CFJ）：避難所を閉鎖し、年度末にCFJ・SVAが引き揚げた後、緊急事態後の復旧復興支援の継続をどうするか。週末の子どもの居場所など？ 学習支援？ → 避難所が閉鎖されても自宅に帰れるのではなく、仮設住宅やみなし仮設住宅への移動であり、不安を抱えている子どもや保護者が多く見られるので、子どもカフェの経験を生かし、土・日の子どもの居場所づくりを継続していきたい。 → 長野市災害ボランティア委員会委員を通して、長野市こども政策課に「長沼小学校区 児童の土日の居場所づくり」を提案していることを報告。 	

11月7日（木） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・長野市こども政策課との打合わせ 	【参加者27名】 幼児：7名、小学生20名 【学習支援9名】 小学生：5名、中学生：3名、高校生：1名
<ul style="list-style-type: none"> ・CFJ：1名、SVA：2名 ・スタッフ：1名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
16：00 受入れ 17：00 後片付け・清掃・おもちゃ消毒 18：00 終了 19：00 閉会	<ul style="list-style-type: none"> ・帰ってすぐに、学習コーナーで学習をしている。小学6年生2名、5年生2名、3年生1名 ・子ども達はだいぶ落ち着いている雰囲気。
清泉女学院大学小児看護学教員から <ul style="list-style-type: none"> ・夜の見守りについて、ボランティア1名で大丈夫かといわれた。保健所の会議で、夜の子ども見守りについて、清泉での対応を求められたが、清泉での対応は難しい。 ・こどもの城が見守りの対応をしていることは、保健所の会議では、まったく話題になっていない →支援の状況（支援の流れの中で、スタッフ等を配置し、徐々に家庭に戻していく方向であること）について説明。現状をきちんと把握し、対応してほしいと伝える。 →明日の保健所での会議で話すとのこと。 長野市こども政策課との打合わせ <ul style="list-style-type: none"> ・今後の子どもの居場所について3案を提示され、こどもの城としては東部文化ホールを利用することを提案。 	

11月8日（金） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・長野市こども政策課との打合わせの報告 	【参加者】 幼児：7名、小学生：20名 【学習支援6名】 小学生：4名、中学生：2名
<ul style="list-style-type: none"> ・CFJ：1名、SVA：2名 ・スタッフ：1名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
16：20 受入れ 女子：YouTube（韓国人タレント） 男子（小学生、幼児）：ゲーム 17：00 後片付け・清掃・おもちゃ消毒 18：00 終了 19：00 閉会	<ul style="list-style-type: none"> ・金曜日は、塾等に行く子どもが多い。 ・子ども達それぞれが自由に過ごし、ゲームやテレビの見方について注意するが、反発している。 <ul style="list-style-type: none"> ・夜テレビのボリュームについて、居場所近くの避難者から注意あり。
長野市こども政策課との打合わせ（11月7日の打合わせ）内容の報告 <ul style="list-style-type: none"> ・東部文化ホールでの支援が保留となった。 ・カタリバの支援は、平日は中止、土・日は継続との情報あり。 	

(4) 後期：見守り期（11月9日～30日）

11月9日（土） 天気 晴れ

支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（HV：2名、一般：1名、学生：2名） ・CFJ：1名、SVA：2名 ・スタッフ：2名 	<p>【参加者23名】 幼児：7名、小学生：6名、小3：5名、小4：2名、小5：1名、小6：2名</p> <p>【学習支援5名】 中学生：5名</p>
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8：30 掃除</p> <p>8：45 ミーティング</p> <p>9：00 受入れ 外遊び 中遊び（折り紙）</p> <p>12：00 昼食</p> <p>13：00 遊び（主に中遊び）</p> <p>15：00 おやつ</p> <p>17：00 終了 後片付け・清掃・おもちゃ消毒 17：00以降の見守り</p> <p>18：00 閉会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの居場所に出てきたり、居住スペースに入ったり、行ったり来たりで過ごしている子どもが多い。 ・4歳男子、昼食時に嘔吐。母親に伝えたが、その後、後片付けに出るということで預かる。巡回してきた保健師に相談、塩素消毒。 ・学生ボランティアの遊び方が上手になり、幼児とよく遊んでいた。 ・学習コーナーは1日暖房が効き、勉強をしている子どもがいる。 ・アパート等転居先が決まり、本日引っ越しの予定であったが、「子どもがどうしても今日はここに泊まりたいというので、もう1泊します」という家庭があった。
<p>運営委員より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おやつについて 昨日、帰宅後に空腹状態で入浴したため、低血糖を起こし、気分が悪くなった子どもがいた。避難所の子どもは免疫力が落ちているので、帰宅後のおやつが必要である →平日のおやつへの対応は福祉サポートチーム、休日のおやつへの対応はこどもの城でと、関係者会議で決定したとのこと。 ・こどもの城としての見解 夕食を食べてほしいので、帰宅後のおやつは与えていない。 免疫力回復のためには、おやつの内容と量が課題（駄菓子やスナック菓子が適切かどうか）。 	

11月10日（日） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・長野市子育て支援課こども相談室長来所 ・琴演奏会 	<p>【参加者23名】 幼児：6名、小2：5名、小3：6名、小4：3名、小5：3名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（HV：1名、学生：2名） ・CFJ：1名、SVA：1名 ・スタッフ：2名 	<p>【学習支援3名】 中学生：2名、高校生：1名</p>
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8：30 掃除</p> <p>8：45 ミーティング</p> <p>9：00 受入れ</p> <p>10：00 おやつ 木製スプーン名入れ</p> <p>10：30 外遊び</p> <p>11：30 シャボン玉</p> <p>12：00 昼食</p> <p>13：00 外遊び 子育て支援課室長来所</p> <p>15：00 琴演奏会（遊びスペースで、高校生中心）</p> <p>18：00 終了 後片付け・清掃・おもちゃ消毒</p> <p>19：00 閉会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの時間を決め、外遊びに誘う（男子学生ボランティアが人気の的）。 ・30名程が名入れをしてもらい、喜んでいた。 ・北レク管理者から提供されたシャボン玉で子ども達は夢中で遊び、その姿に保護者は喜んでいた。 ・よく遊んだためか、皆よく食べていた。 ・女子は、学生ボランティアの取り合いでトラブル。男子は、ゲームに夢中。 ・静かに聞いている子どももいた。
<p>本日の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引っ越し決定の家族が増え、不安げな子ども達が増えてきた。 	

11月11日（月） 天気 晴れ

支援者	参加の状況
・SVA：1名 ・スタッフ：1名	【参加者27名】 幼児：7名、小学生：20名 【学習支援10名】 小学生：5名、中学生：4名、高校生：1名
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
16：00 受入れ 16：30 外遊び（女子3～4名）、ゲーム（男子5～6名） 17：00 中遊び ゲーム（スイッチ）、ビデオ 18：00 終了 18：20 YouTube（女性韓国人タレント）を6～7名（中学生含む）で見ている 19：00 閉会	・女子、避難所内で、幼児と室内遊び。 ・子ども2名の具合が悪く、保健師に看てもらった。 ・畳の上でむせて吐いた子どももいた。
本日の課題 ・幼児のトラブルが増えている。	

11月12日（火） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
・心のケア専門ボランティア来所 ・SVA：1名 ・スタッフ：1名	【参加者26名】 幼児：6名、小学生：20名 【学習支援15名】 小学生：8名、中学生：7名
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
16：00 受入れ 自由遊び 18：00 終了 心のケア専門ボランティアと面談（保護者） 19：00 閉会	・男子はゲーム、女子はYouTubeに夢中。 ・面談により、子ども2名の預かりをする。
本日の課題 ・子どもが夜間、段ボールでブースをつくって遊んでいた。	

11月13日（水） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ボードゲームグループ来所 ・Amazonとの打合わせ 	<p>【参加者26名】 幼児：6名、小学生：20名 【学習支援11名】 小学生：5名、中学生：5名、高校生：1名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（一般：4名） ・SVA：2名 ・スタッフ：2名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>13：00 関係者会議</p> <p>15：30 環境整備 受入れ</p> <p>16：00 ボードゲーム</p> <p>18：00 終了</p> <p>19：00 閉会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・帰宅後、居住スペースと遊びの場所を行き来しながら自由に遊んでいた。 ・男女数人はボードゲームに夢中。
<p>関係者会議報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月30日を目途にスムーズに転居できるよう支援していく。 ・11月12日より、専門のボランティアにより子どもの心のケア開始。性被害防止関係支援のために協力。それぞれ力が発揮できるように、こどもの城と被らないよう調整。 ・要望のあった夜間医療関係者の配置は難しい。当面、福祉サポートチームと連携していく。日赤の心のケアの巡回の時間は未定（保健師）。 <p>Amazon 現地事務局との打合わせ 17：00～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Amazon Holiday Donationについて提案：被災地の子ども達に少しでも心温まる時間を過ごしてもらえるようにクリスマスパーティをプレゼントすることについて →受入れ、共催することに決定（12月1日、長野市古里総合市民センター）。 	

11月14日（木） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況／配食の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・長野パルセイロの慰問 	<p>【参加者26名】 幼児：6名、小学生：20名 【学習支援10名】 小学生：5名、中学生：3名、高校生：2名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・CFJ：1名、SVA：1名 ・スタッフ：1名 	<p>夕食：ラーメン炊き出し 間食等：アイスクリームの差し入れ（19：00）</p>
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>16：00 受入れ 女子：YouTube（K-POP） 男子：テレビゲーム 長野パルセイロの慰問（冬物の衣料提供）</p> <p>18：00 終了 ラーメン炊き出し 後片付け・清掃・おもちゃ消毒</p> <p>19：00 閉会 アイスクリーム差し入れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衣料が入っていた大きな段ボールに入って、幼児が夢中で遊んでいた（3箱壊す）。けがのないように見守りをした。 ・夕食後、19：00頃まで遊んでいた。
<p>本日の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が野放し状態。 	


11月15日（金） 天気 晴れ

支援者	参加の状況
<p>・CFJ：1名、SVA：1名 ・スタッフ：1名</p>	<p>【参加者26名】 幼児：6名、小学生：20名 【学習支援9名】 小学生：4名、中学生：4名、高校生：1名</p>
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>16：00 環境整備</p> <p>16：10 受入れ テレビ前で YouTube 6名 ゲーム 2名 空きスペースで ボール遊び おままごと遊び 2名</p> <p>18：00 終了 後片付け・清掃・おもちゃ消毒</p> <p>19：00 閉会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム本体がなくなり、子どもと探す。遊びスペースにはなかったが、自分で探してくる。 ・ゲームを気にする保護者が来所。時間等注意するが、受入れない。テレビ前にガムテープを貼り、これより後ろで見るよう提案したが、韓国グループを見る女子に、数分ではがされた。 ・幼児受付のボランティアが子どもと遊んでいたが、受付には灯油等もあるので、注意した。 ・受付のPCで、おやつを食べながらYouTubeを見ている子どもがいたので、注意した。
<p>本日の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの城登録ボランティアと一般ボランティアの子どもへの接し方や支援の仕方にギャップがある。 	

11月16日（土） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・あそびずくしプレイパーク来所 ・コカリナ演奏 ・アルクマ来所 ・連携打合わせ 	<p>【参加者22名】 幼児：9名、小2：4名、小3：5名、小4：2名、小5：1名、小6：1名</p> <p>【学習支援7名】 小学生：2名、中学生：3名、高校生：2名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（HV：1名、一般：1名、学生：2名 ・CFJ：1名、SVA：2名 ・スタッフ：2名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8：30 環境整備、ミーティング</p> <p>9：00 受入れ 中遊び（カプラで基地づくり）</p> <p>10：00 おやつ</p> <p>10：30 外遊び（基地づくり）</p> <p>12：00 昼食</p> <p>13：00 自由遊び</p> <p>15：00 コカリナ演奏</p> <p>15：30 アルクマ来所</p> <p>16：00 終了 プレイパークとミーティング</p> <p>17：00 閉会 後片付け・清掃・おもちゃ消毒</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイパークから2名来所。 ・環境を見ながら遊びを提案。室内ではフラッグづくり、室外では秘密基地づくりを提案するが、子ども達はあまり乗らなかった。年齢差があり、遊びの内容の選択が難しい。 ・室内で、段ボールを使い秘密基地をつくる子どももいた（男女1つずつ）。 ・子ども達は、あまり耳を傾けず、遊びに夢中。 ・アルクマに関心を示したのは幼児のみで、他の子どもは、あまり関心を示さなかった。幼児はとても楽しそうだった。
<p>本日の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲よく遊んでいても些細なことでもけんかになり発展。保護者からも最近荒れているとの声あり。 ・16：00から長沼小で保護者説明会があり、授業の遅れはないとのことだったが、保護者からは不安の声が聞かれた。また、引っ越した後のことを心配していた。 <p>プレイパークとのミーティング 16：00～16：30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の状況について共有を図った（見守り、気になる子どもについて）。 <p>連携打合わせ（CFJ、SVA） 15：00～17：00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所閉鎖後の子どもの居場所について。 ・食事は、スタッフ、ボランティアを含め全員で同じものを一緒に食べることに（佐賀での経験をもとにCFJより）。 ・開始時に、子どもと1日のスケジュールを決め活動する。保護者が送迎。 ・「お預かり」は、こどもの城が責任をもつ。保護者の同意書へのサイン必須。 ・パパママカフェの設置（全員同意見）。 	

11月17日（日） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・バルーンアート体験教室 ・二胡演奏会 ・連携打合わせ 	<p>【参加者24名】 幼児：6名、小2：6名、小3：6名、小4：3名、小5：2名、小6：1名</p> <p>【学習支援11名】 小学生：4名、中学生：6名、高校生：1名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（HV：1名、学生：3名） ・CFJ：1名、SVA：2名 ・スタッフ：2名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8：30 環境整備、ミーティング</p> <p>9：00 受入れ</p> <p>10：00 おやつ</p> <p>10：30～11：30 バルーンアート体験教室</p>  <p>12：00 昼食</p> <p>13：30～14：15 外遊び</p> <p>14：00～15：00 二胡演奏会</p> <p>15：00 おやつ</p> <p>16：00 終了 テレビ、ゲーム</p> <p>17：00 閉会 後片付け・清掃・おもちゃ消毒</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早朝、バスケットゾーンでミニバス。シュートが入った子どもが、賞品にデイバッグやハーフケットをもらって喜んでいた。 ・ バルーンアーティストのチョコさんの体験教室には、ほとんどの子ども達が参加していた。 ・ 犬のつくり方を教わった。高学年男子は特別にクマも教わっていた。 ・ 最終的に幼児が風船を割ることがおもしろくなってしまい、残念であった。 ・ 学生ボランティアと、外でよく遊んでいた（14：00過ぎると寒くなる）。 ・ 二胡を聴いている子どもはほとんどいなかったが、大人が美しい音色に聞き入っていた。
<p>本日の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土・日の17：00以降の対応：避難所運営ボランティアの尼崎市職員に依頼。 <p>連携打合わせ（CFJ、SVA） 15：00～17：00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長野応援『Amazon Holiday Smile』プロジェクトについて打合わせ：12月1日、長野市古里総合市民センターと古里小学校グラウンドでクリスマスパーティ開催。 	

11月18日（月） 天気 晴れ

支援者	参加の状況
・SVA：2名 ・スタッフ：1名	【参加者26名】 幼児：6名、小学生：20名 【学習支援10名】 小学生：8名、高校生：2名
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
16：00 環境整備 16：15 受入れ 16：30 テレビ（6名）、ゲーム（7名） 18：00 終了 19：00 閉会 後片付け・清掃	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに幼児2～3名がテレビを見ていた。 ・おもちゃ箱の中がめちゃくちゃになっていたの で整理した。 ・新しい木のままごとセットに幼児は夢中になっ ていた。片付けをしようと声をかけるが、次か ら次へとおもちゃを出して遊んでいる。 ・おもちゃが拭けなかった。
本日の課題（運営側からの申し入れ） <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールでつくった隠れ家は撤収してほしい。つくってあったものは大人が撤収したので、今後は子ど も達につくらぬよう伝えてほしい。 ・積んである段ボールで秘密基地をつくって遊びたい気持ちはわかるが、その中で食べたり飲んだりこぼ したり、食べっぱなしである。注意はしているものの、たちごっこのようなものである。 	

11月19日（火） 天気 晴れ

支援者	参加の状況
・SVA：2名 ・スタッフ：2名（午前・午後各1名）	【参加者26名】 幼児：6名、小学生：20名 【学習支援15名】 小学生：12名、中学生：1名、高 校生：2名
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
9：30 見守り 10：00 おやつ 外遊び、紙粘土遊び 12：00 昼食 14：00 引継ぎ（幼児2名、小学生2名、保育園 児2名） 15：30 おもちゃ消毒 16：15 受入れ 4～5名は学習コーナーへ、ゲーム 18：00 終了 19：00 閉会	<ul style="list-style-type: none"> ・朝、体調の悪い保育園児の見守りを依頼され、 急ぎ朝から見守りに入る。 ・保育園児と遊んでいると、在宅の幼児も来て、 仲間に入り遊びが中断してしまった。 ・幼児1名が、泣いて吐く。念のため、塩素消毒を した。
本日の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが居住スペースと行ったり来たりしていて、心配で後を追っていくと保護者も帰っていて、「大丈 夫」といわれた。しかし、責任をもって見てくれないため、どこまで関わる必要があるか悩む。 ・以前から子ども達に声はかけているが、保護者より、片付けを子どもにさせてくださいといわれた。 	

11月20日（水） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況／配食の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ボードゲームグループ来所 ・清泉女学院大学看護学部の職員チーム来所 	<p>【参加者20名】 幼児：5名、小学生：15名</p> <p>【学習支援16名】 小学生：13名、中学生：1名、高校生：2名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（一般：4名） ・SVA：2名 ・スタッフ：1名 	<p>夕食：炊き出しうどん</p>
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>16：00 環境整備 受入れ 男子：テレビゲーム ボードゲーム 幼児：ままごと</p> <p>18：00 終了</p> <p>18：15 夕食</p> <p>19：00 閉会 後片付け・清掃・おもちゃ消毒</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボードゲームグループが来ると、まず女子が始め、男子もテレビゲームが一段落すると始めた。YouTubeやテレビゲームをせずに過ごしていた。 ・清泉チームが、幼児と一緒にままごと遊びをしていた。 ・夕食の炊き出しのうどんをおいしそうに食べていた。

11月21日（木） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・心のケア専門ボランティア来所 ・長野県立大学教員、男子学生1名来所 	<p>【参加者20名】 幼児：5名、小学生：15名</p> <p>【学習支援6名】 小学生：4名、中学生：1名、高校生：1名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・SVA：2名 ・スタッフ：1名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>16：00 環境整備 受入れ 男子：テレビゲーム 女子：K-POP</p> <p>16：30 女子3名宿題</p> <p>17：00 終了</p> <p>18：00 閉会 心のケア専門ボランティアと面談（母親4名）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・声をかけながら見守り。 ・一緒に勉強の面倒を見る。

11月22日（金） 天気 晴れ

支援者	参加の状況／配食の状況
・SVA：2名 ・スタッフ：1名	【参加者20名】 幼児：5名、小学生：15名 【学習支援4名】 小学生：3名、高校生：1名
	間食など：菓子パン
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
16：00 環境整備 YouTube（1名）	
16：15 受入れ 数名は学習コーナーへ テレビゲーム、テレビ（7名）	・帰宅後数名は、学習コーナーへ直行。 ・7名は、おやつを食べながらゲームをしたりテレビを見たりしていた。声をかけても食べっぱなし、飲みっぱなしが気になる。 ・ゲーム機本体がなくなる（今朝まであったとのこと）。
18：00 終了 後片付け・清掃・おもちゃ消毒	・おままごとセットの消毒
19：00 閉会	・19：00過ぎに集まって、お菓子を食べていた。
<p>・午後、古里児童センター見学・依頼（特別用途申請書提出）12月1日から。</p> <p>本日の課題</p> <p>・家から室内犬が避難所に来る度に、連れ戻している子どもがいた（4回）。</p>	

11月23日（土・祝） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況／配食の状況
・木曽町のボランティア来所（出張「WOOD」広場開催）	【参加者23名】 幼児：5名、小1：1名、小2：5名、小3：5名、小4：4名、小5：2名、小6：1名 【学習支援/3名】 小学生：1名、中学生：1名、高校生：1名
・ボランティア（HV：1名、一般：1名、学生：3名） ・CFJ：1名、SVA：2名 ・スタッフ：1名	昼食：炊き出しうどん（きのこ・野菜たっぷり）
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
8：30 環境整備、ミーティング	
9：00 受入れ	
10：00 出張「WOOD」広場 ・かんな削り体験 ・かんなくずプール ・かんなくずフラワーアート	・檜をかんなで削る体験。0.0mmの名人芸を見せてもらう。檜の滑らかな肌触りやおいに子ども達は喜んでいました。 ・紙より薄いかんなくずをリボンのように使ってフラワーアートをつくった。

・マイ箸づくり

・木っ端工作



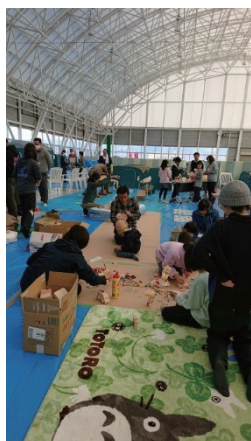
・長野県林業大学校の学生4名（木曾町のボランティア）と檜でマイ箸をつくり、名入れをしてもらった。家族、従妹分と8膳もつくった子どももいた。

・車3種、筆立て、カメラなどを木でつくり、木片やビーズで装飾をして楽しんでいた。



・リユースマーケット

12:00 昼食：きのこ・野菜たっぷりの炊き出しうどん（木曾町商工会）



・子育てサークルで集めた衣類のリユースマーケットは、あまり人気がなかった。

・皆おいしいと丼ぶり一杯を食べていた。

・お菓子・甘酒の差し入れもあり、子どもばかりでなく、避難所全員で楽しむことができた。

・高齢者には、お菓子をブースごとに子どもと配って喜ばれた。



15:00 おやつ

17:00 終了

18:00 閉会

本日の課題

- ・出張「WOOD」広場にて：子ども達は10:00～15:00、昼食を除き、夢中になっていた。このような姿を見たのは初めてであった。
- ・終了間際に幼児（4歳児）が、ポンド・ビーズ等をグチャグチャにし、無駄にしていたことは残念。してよいことといけないことを、もう少しわかってほしい。いただいたものをその都度壊したり、放っておいたりして、大切にしないことは残念。
- ・見守りボランティアの対応：学生ボランティア3名が13:00過ぎに来所し、子どもと暗くなくても外遊びをしていた。注意したが聞き入れず、再度注意し17:30過ぎにやっと避難所内に入った。見守りボランティアは遊びとは違うことを理解してほしい。行動に責任を！

11月24日（日） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ボサノバコンサート ・琴演奏会 	<p>【参加者25名】 幼児：6名、小1：2名、小2：6名、小3：4名、小4：1名、小5：3名、小6：3名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（HV：1名、一般：1名） ・CFJ：1名、SVA：2名 ・スタッフ：2名 	<p>【学習支援6名】 小学生：1名、中学生：5名</p>
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
<p>8：30 環境整備、ミーティング</p> <p>9：00 受入れ</p> <p>10：00 おやつ 自由遊び</p> <p>11：05 キャンドルづくり</p> <p>12：00 昼食</p> <p>13：30 ボサノバコンサート 外遊び</p> <p>14：00 琴演奏会</p> <p>15：00 おやつ 自由遊び</p> <p>17：00 終了 後片付け・清掃・おもちゃ消毒</p> <p>18：00 閉会</p>	<p>・ボランティアから材料提供。紙コップに装飾をし、キャンドルづくりをした。最初は興味を示さなかった子どもも、一緒につくっていた。</p> <p>・コンサートや演奏会には誘ってもあまり興味を示さなかったが、素直に居場所を空けてくれた。</p>
<p>本日の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボール置き場に基地をつくり、途中で次の遊びに移り、食べっぱなしの状態。遊びの内容、場所等けじめが必要。何度も注意しているが、集団になると同じことを繰り返す。 ・ジュース等を買ひ、友達にご馳走したり、自販機のおつりはあげるよといたりしている。お金に対する感覚が心配。 ・1日に何回か無料電話に座って電話をしていた子どもに、誰にかけているのと聞くと、向こうに行つてといわれた。 ・11月30日閉鎖により、保護者も動揺し、子どもにも影響か？ ・こどもの城は子ども支援でなく、環境整備のみ？と疑問を感じる。 <p>運営側より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、63世帯（181名）在住。11月30日までに18世帯が引っ越し予定、12月まで45世帯が残る。 ・仮設住宅：本日抽選、明日発表。北レクより11世帯申込み。 ・生活必需品の配布：3段階 	

11月25日（月） 天気 晴れ

支援者	参加の状況／配食の状況
・CFJ：1名、SVA：2名 ・スタッフ：1名	【参加者23名】 幼児：6名、小学生：17名 【学習支援7名】 小学生：6名、中学生：1名 夕食：炊き出しの唐揚げ
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
16：00 環境整備 受入れ 男子：テレビゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに、テレビ前に学校を休んだ子どもが数名いた。 ・おもちゃ箱をひっくり返して遊んでいる子どもがいた。 ・おもちゃ箱に、おもちゃ、パズル等がごちゃ混ぜに入っていたので整理。
18：00 終了 夕食：炊き出しの唐揚げ	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県から唐揚げやさんが炊き出しに来てくれ、喜んで食べていた。 ・夕食後、子ども達が集まり、いつになくにぎやかになった。鬼ごっこから、服を脱がすような遊びに発展し、仲間の短パンやズボンを降ろし、キャッキョッと遊んでいた。それを見ていた幼児も興奮し、自分のおむつをおろしてしまった。中に入り、「大切なところだから、他人に見せてはいけない」と話をした。 ・ハイテンションだった子どもは、テストが終わった後だったらしい。
19：00 閉会 後片付け・清掃・おもちゃ消毒	
本日の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・遊びなどの行動が性被害につながらないか心配。 ・子どもの心の変化に寄り添う難しさを感じた。 	

11月26日（火） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
・CFJ：1名、SVA：2名 ・スタッフ1名	【参加者21名】 幼児：6名、小学生：15名 【学習支援10名】 小学生：7名、中学生：2名、高校生：1名
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
16：00 受入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに、ゲームをしたり、テレビを見たりしていた。
16：30 男子：ゲーム（8名） 女子：テレビ（4名）	<ul style="list-style-type: none"> ・徐々に子ども達がいなくなり、数名がゲームをしているのみ。
18：00 終了 後片付け・清掃・おもちゃ消毒	<ul style="list-style-type: none"> ・夕食後、また集まり始め、YouTubeを見ていた。
18：30 女子：スライム遊び	
19：00 閉会	

11月27日（水） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ボードゲームグループ来所 	【参加者21名】 幼児：6名、小学生：15名 【学習支援11名】 小学生：9名、中学生：1名、高校生：1名
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（一般：5名） ・CFJ：1名、SVA：1名 ・スタッフ：1名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
15：30 環境整備 受入れ 16：15 ボードゲーム 18：00 終了 後片付け・清掃・おもちゃ消毒 18：30 自由遊び 19：00 閉会	<ul style="list-style-type: none"> ・ボードゲーム最終日、6名で来所。男子は全員ボードゲームをし、テレビゲームをしている子どもは一人もいなかった。幼児から小学生まで、その子に合った遊び方の提供をしてくれ、ありがたかった。 ・お気に入りの子どもを独り占めし、肩車や遊びの相手をさせていた子どもがいた。 ・女子3名は、YouTubeを夢中で見ていた。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習コーナーで、男子数名は学習をしていた。
本日の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・昨日、市から、12月3日避難所閉鎖の正式発表があり、保護者は動揺気味である。 	


11月28日（木） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	配食の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・連携打合わせ 	【参加者21名】 幼児：6名、小学生：15名 【学習支援6名】 小学生：5名、高校生：1名
<ul style="list-style-type: none"> ・CFJ：1名、SVA：1名 ・スタッフ：1名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
16：00 環境整備 受入れ 18：00 終了 18：30 後片付け・清掃・おもちゃ消毒 19：00 閉会 自由遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・帰宅後すぐに宿題する子ども、20：00前くらいから始める子どもと、ほぼ固定化されてきた。 ・おもちゃ等を少しずつ片付け、段ボールでつくった棚などを廃棄。
連携打合わせ（CFJ、SVA） 15：00～17：00 <ul style="list-style-type: none"> ・北レクお別れ会について ・長野応援『Amazon Holiday Smile』プロジェクト：打合わせ（当日役割分担等） 	

11月29日（金） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携打合わせ 	【参加者21名】 幼児：6名、小学生：15名 【学習支援4名】 小学生：3名、高校生：1名
<ul style="list-style-type: none"> ・ CFJ：1名、SVA：2名 ・ スタッフ：1名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
16：00 環境整備 受入れ 17：00 18：00 終了 18：30 後片付け・清掃・おもちゃ消毒 19：00 閉会 自由遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども達は何か落ち着かない様子だが、平静を保っている。 ・ 明日の終了日を迎え、スタッフは後片付けをしながら見守った。おもちゃの予約等があった。
連携打合わせ（CFJ、SVA） 15：00～17：00 <ul style="list-style-type: none"> ・ 長野応援『Amazon Holiday Smile』プロジェクト：クリスマスパーティの最終打合わせ（日程、当日役割分担、駐車場等再確認） 	

11月30日（土） 天気 晴れ

主な出来事／支援者	参加の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自衛隊お礼の会 ・ お別れお茶会 	【参加者24名】 幼児：7名、小2：3名、小3：6名、 小4：3名、小5：3名、小6：2名 【学習支援1名】 高校生：1名
<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア（一般：1名、学生：3名） ・ CFJ：1名、SVA：2名 ・ スタッフ：1名 	
活動記録	子どもの様子・対応の留意点等
8：45 掃除・ミーティング 9：00 受入れ 10：00 おやつ 12：00 昼食	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自衛隊の皆さんへのお礼のカードを、子ども達とそこにいた大人と一緒につくった。 

14:00 自衛隊お礼の会



・避難所在住者主催のお礼の会で、皆でつくった大型カードを手渡した。



15:00 北レクお別れ会



・今日が最終日なので、北レクお別れ会を開催。シュークリーム(70個)を、子ども達、保護者、ボランティア、運営者と一緒に食べて、お世話になった感謝の会とした。出て来られなかった高齢者には、子どもとシュークリームを持ってお礼に行った。

17:00 居場所の後片付け



・居場所が閉鎖になるので、絵本やおもちゃ等ほしいものを子ども達は持っていった。家にあるからと言う子どもに、「もう何も無いから、もらっていくな」と保護者に言われ、おもちゃを持っていく子どもの姿が見られた。

18:00 終了

19:00 閉会



本日の課題

- ・一緒にお風呂に入ったりして過ごした避難所から、バラバラになることに不安を抱えている子どもが多い。今後、見守りの継続も必要と考える。
- ・飛び込んで始めた避難所での一時預かり、見守り支援でいろいろなことがあったが、大きな事故やけがなく終了でき感謝。
- ・12月からは、古里児童センターで土・日の子どもの見守りを継続していく。

〈資料1〉同意書の例

北部スポーツ・レクリエーションパーク内での子ども支援ご利用の皆様へ

特定非営利活動法人

ながのこどもの城いきいきプロジェクト

理事長 田中 宗史

皆様の大切なお子様を安全に支援するために、下記内容をご確認の上、署名をお願いいたします。

- ① 子どもの支援につきましては北部スポーツ・レクリエーションパークにお住いのお子様に限らせていただき、あらかじめ登録をお願いいたします。
- ② お子様を支援する時間は9時～17時です。
- ③ 支援をご利用になるお子様の名前、体温、連絡先を利用当日受付表にご記入をお願いいたします。
- ④ 体調不良、伝染性の病気等その他やむを得ない理由により、体温が37.5℃以上のお子様につきましては支援をお断りいたします。
- ⑤ 緊急対応が必要な場合は、保護者の方にご連絡をしますので、連絡が取れるようにしておいてください。
- ⑥ お子様の安全には万全の体制を整えますが、万が一事故等が発生した場合、支援者の故意または重大な過失によって発生したものでない限り、事故に対しての責任は負いかねます。

《同意書》

私は、上記事項を承知した上、利用いたします。

令和元年 月 日

保護者氏名 _____

子どもの名前・年齢・学校名

アレルギー 有 ()・無

子どもの名前・年齢・学校名

アレルギー 有 ()・無

子どもの名前・年齢・学校名

アレルギー 有 ()・無

保護者連絡先（緊急連絡先） _____

〈資料2〉子どもの居場所の備品やおもちゃ

共用品(30～40人)

必要物品		備考	数
救急箱	救急箱 ・蒸留水 ・ばんそうこう ・包帯 ・無菌ガーゼ ・ワセリン ・ラップ ・とげぬき用ピンセット ・ハサミ ・体温計	非接触型は3	各1 5
	手指消毒液		
感染症対策用品	石鹸		3本
	ペーパータオル		3組
	除菌ウエットティッシュ		3箱
	ティッシュペーパー		5箱
清掃・消毒用具	ハンディタイプの掃除機	こまめに掃除が可能	1基
	消毒用バケツ		1
	消毒液(おもちゃ、机等)		1
	掃除用使い捨てクロス		100枚 3セット
	ビニール手袋	消毒・清掃時、嘔吐物の処理に使用	100枚入 1箱
	ゴミ袋	ゴミ用、子どもの荷物の分別にも使用	30枚
環境	マット	ホッと一息のできる場所づくり	60cm角 25枚
	長座布団/大きめのクッション	幼児から小学生では昼寝をする子どもがいる	各2
	テント	休息、着替え、個別の話の傾聴等プライベート空間	1基
	カラーボックス	物品を仕分けし、整理ができる	3

幼児(10人)

必要物品		備考	数	
衛生用品	紙おむつ(パンツタイプ)	災害のショックによる赤ちゃん返り等により、幼児の中にも必要となる子どもが見られる	M・L各20	
	お尻拭き		2	
	バスタオル		3	
おもちゃ	ぬいぐるみ、人形	幼児が飲み込めない大きさにするよう気を付ける	5	
	積み木		3セット	
	ブロック		3セット	
	電車等乗り物		3	
	ままごとセット		3セット	
	バット		ビニール	3
	ボール		やわらかいもの	3
図書	絵本	発達区別に	各5冊20冊	

小学生以上 30人

必要物品		備考	数	
文具・工作用品	鉛筆	被災直後においては、個人用の準備も必要	150	
	消しゴム		30	
	鉛筆削り		30	
	色鉛筆		30	
	筆箱		30	
	水性マジック		6色セット	5セット
	クレヨン	太・中・細	15セット	
	水彩絵の具		15セット	
	絵筆		15セット	
	水入れ		15セット	
	ノート		複数種類	100
	白紙・スケッチブック			50
折り紙	30～100枚入り	10セット		
はさみ	左利き用も	10		
のり		10		
ボンド		5		
セロハンテープ		10巻		
両面テープ		10巻		
運動系	ボール（サッカー、ドッジボール用等）	外用、室内用、大・中・小	5～6個	
	縄跳び	大・小	大3，小30	
	バドミントン	ラケットと羽	5セット	
ゲーム	けん玉		10	
	囲碁・将棋・カードゲーム・ボードゲーム		各2	
その他	カプラ		5,000ピース	
	ブロック		2	
図書	児童図書	絵本・図鑑も含むと喜ばれる 月1回交換できるとよい	100冊	

第2部

避難所におけるボランティアの意識 —子どもの居場所づくりを目指した活動内容と課題—



1. 目的

本研究は、令和元年東日本台風災害の際に、避難所において子どもの居場所づくりに関わったこどもの城のスタッフや様々なボランティアなど、異なる立場の人々からの意見を集約し、多面的な視点からこれらの運営状況を検証して、客観的に、それらの活動内容と課題を分析することを目的とする。

2. 方法

(1) 調査時期

令和3（2021）年5月

(2) 調査対象者

避難所において「子どもの居場所づくり」を目指して行った取り組みの運営に関わったボランティアの方々20名を対象に、調査用紙を配布した。

(3) 手続き

調査対象者は、こどもの城の紹介により調査協力を依頼し、協力の内諾が得られた対象者に、調査用紙、調査項目が入力されたフラッシュメモリー、返信用のレターパックを同封し郵送した。回答は、調査用紙への記入、もしくはフラッシュメモリーに直接入力してもらうこととした。回収は、同封の返信用封筒で行った。

(4) 調査内容

- ①デモグラフィック要因：年齢、性別、職業など
- ②これまでの経験：災害支援に関わった経験、子どもに関わった経験など
- ③今回の活動：災害からの時期（前期：被災直後（10月16日～27日）、中期：立て直し期（10月28日～11月8日）、後期：見守り期（11月9日～11月30日））ごとに、「活動内容（簡単）」「子どもの様子」「活動中の意識」「課題」について、自由記述にて回答を求めた。加えて、その後のボランティア活動についても記入を求めた。

(5) 倫理的配慮

調査用紙、調査ファイルには、①研究の目的を説明した上、②協力の自由意思と拒否しても不利益にならないこと、③途中で回答を中止しても構わないこと、④結果は研究以外では使用しないこと、⑤同意書への回答をもって同意とみなす旨等を記入した。

なお、本調査は、長野県立大学倫理審査委員会の審査の承認を受けて行った（承認番号：E21-2）。

(6) 分析方法

①調査対象者の属性を示した後、②活動時期ごとの「活動内容」「子どもの様子」などの自由記述の傾向を明らかにすることを目的に、単語数を抽出するとともに、AIテキストマイニング（ユーザーローカル（<https://textmining.userlocal.jp/>））を用い、語の使用傾向を可視化した。その後、③時期の違いを検

討するため、KH Coder（樋口,2018）を用い、調査時期を外部変数とした特徴語を抽出し、共起ネットワークを作図した。また、課題については、個別に分析を行った。

3. 調査結果

(1) 調査対象者

20名に調査依頼をしたところ、18名から回答を得た（回収率90.0%）。対象者の性別は、女性16名、男性2名であった。年齢の平均は、51.61（±15.73）歳で、中央値は54であった。対象者の職業は、一般職（自営業含む）3名、専門職（看護師、保育士等）5名、パート職員2名、主婦2名、大学生3名、本事業のスタッフ2名、不明1名であった。

今回対象としたボランティア以前に、災害支援を経験していた対象者は4名であり、いずれも東日本大震災に関わる活動であった。また、以前に子どもに関わる機会があった対象者は15名であった。このことから、今回の対象者は、子どもに関わる機会は多くあったが、災害ボランティア等にこれまで参加したことがある者は比較的少ないといえる。

(2) 前期：被災直後（10月16日～27日）

被災直後の様子や意識、課題を明らかにするために、10月16日～27日の対象者に尋ねた。この時期の対象者は、6回以上が4名、3～5回程度が9名、1,2回が3名であった。

① 活動内容

前期の活動内容の全体的な傾向を可視化するため、テキストマイニングツールのワードクラウドを用いて分析をした。まず、出現頻度の高い単語（上位30語）を表1に示す。『子ども』『子ども達』が上位になり、ボランティアは、『子ども』への関わりを中心に行っていたことが示された。具体的な取り組みとして、『遊び』『話し相手』『居場所』などの単語が示された。また、『保護者』『支援』といった保護者への関わりも確認された。

表1 前期の具体的な活動の抽出語（上位30語）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
子ども	15	健康	4	居場所	3
子ども達	12	情報	4	おやつ	3
ボランティア	7	相手	4	ごと	3
遊び	7	伝達	3	環境	3
避難所	5	介助	3	長野市	2
保護者	5	児童	3	レク	2
支援	5	情報収集	3	法人	2
食事	5	話し相手	3	北部	2
対応	5	被災	3	援助	2
様子	4	消毒	3	ネットワーク	2

次に、出現頻度をもとに、スコアが高い単語を抽出し、その値に応じた大きさに図示（ワードクラウド）した（図1）。『子ども達』という複数形の表現のスコアが高く、一度に多くの子ども達と関わりのあることが示された。また、単純に『見守る』といった関わりではなく、子どもの様子を注視しながら関わっている様子や、『申し送る』といった連携に関する単語も、一般的な使用傾向に比べ、多かった。

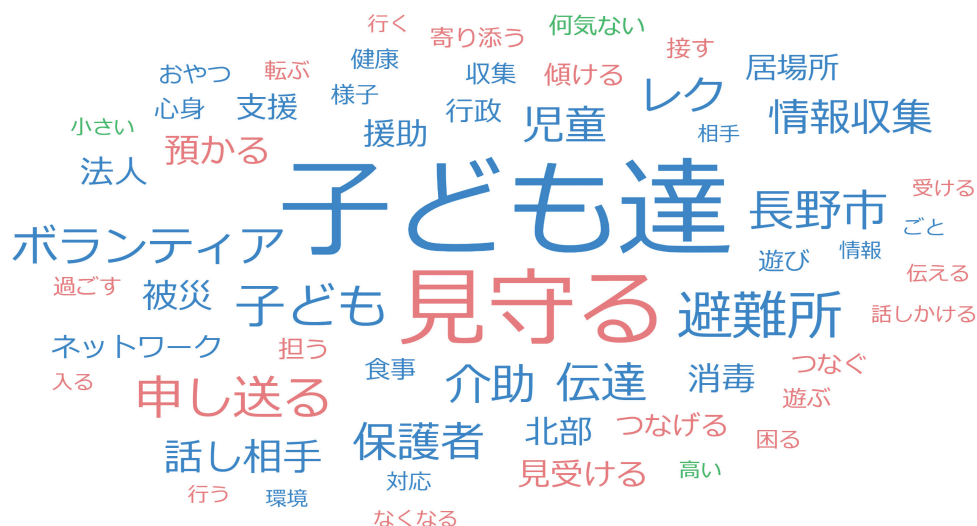


図1 前期の具体的な活動のワードクラウド

(単語の色は品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表している。単語ごとのスコアの大きさは、与えられた文章の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表している。一般的に、単語の出現回数が多いほどスコアが高くなるが、使用頻度の低い単語については、出現回数が少ない場合でもスコアが高くなる場合がある。以下、同様)

② 子どもの様子

子どもの様子について、①と同様に分析した。まず、出現頻度の高い単語（上位30語）を表2に示す。『子ども』『子ども達』が上位になり、具体的な様子としては『不安』が上位にあげられ、「時々、不安そうな顔をする子どもがいた」といった文章に代表されるように、不安な様子を表出している子どもの姿が示された。一方、『元気』も複数確認され、「笑いながら楽しそうに話していたのが印象に残っています。このような状況でも子ども達は笑って話せること、元気でいられることに驚きました」といった、困難な状況における子どもの元気な様子やその様子への驚きについての記述も確認された。また、『おやつ』『食事』『弁当』など、食に関する記述も上位に位置しており、「お弁当に飽きてきているせいか、特に低学年の児童には量も多くて半分位は残すことが多かった」といった避難所での食事に飽きている様子が示された。

表2 前期の子どもの様子の抽出語（上位30語）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
子ども	18	状況	4	兄弟	3
子ども達	9	姿	4	お互い	3
様子	8	場所	4	元気	3
不安	7	声	4	一緒	3
おやつ	5	気持ち	4	柳原	2
食事	5	高学年	3	長沼	2
同士	4	児童	3	兄弟姉妹	2
弁当	4	幼児	3	避難所	2
表情	4	お子さん	3	低学年	2
印象	4	小	3	被災	2

次に、①と同様にそのワードクラウドを示す（図2）。ここでも『子ども達』という複数形の表現のスコアが高く、使用傾向が高いことが確認された。

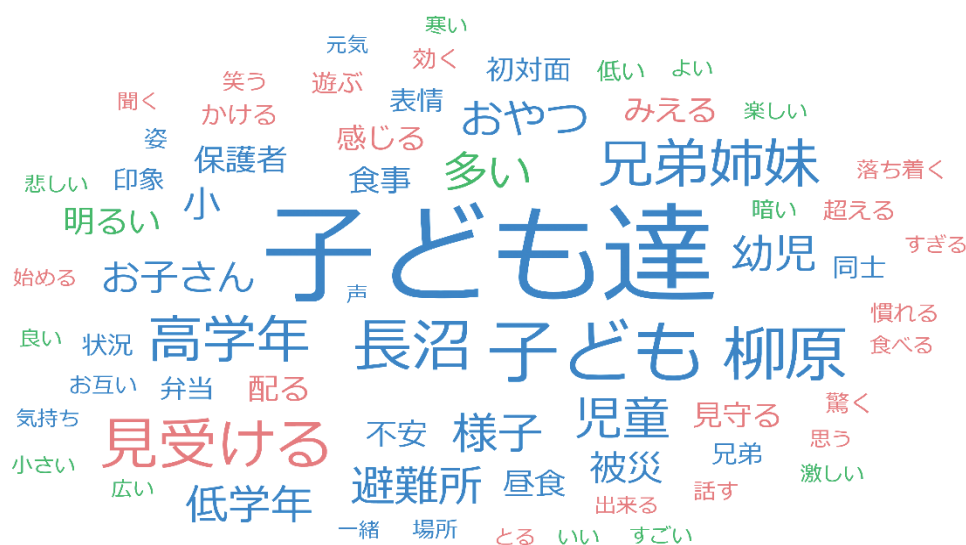


図2 前期の子どもの様子のワードクラウド

③ 活動中の意識

ボランティアの活動中の意識について、①と同様に分析した。まず、出現頻度の高い単語（上位30語）を表3に示す。『子ども』『子ども達』が上位になり、設題にも含まれる『意識』が続いた。その他の語では、『配慮』『安全』『安心』といった、安心安全への配慮が示され、「一番は、子ども達が事故の無いようにを意識していました。二番には、子ども達が、保護者が帰ってくるまで安心して過ごせたらいいなと思っていました」といった記述が確認された。『インフルエンザ』『ワクチン』など感染症への意識も示され、「特にインフルエンザなどの流行、ノロウイルスなどの感染症の予防には特に気を使い…」といった記述からも、健康を第一に意識していた。また、『要望』についても複数の記述があり、「子ども達が不安にならないようにできる限りの要望には応えるように努力するとともに、保護者の要望にもできる限り応える努力をした」といった、子ども・保護者『目線』を意識して関わっていたことも示された。

表3 前期のボランティアの意識の抽出語（上位30語）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
子ども	13	環境	3	保護者	2
子ども達	12	状況	3	要望	2
意識	12	限り	3	お子さん	2
配慮	6	遊び	3	学年	2
活動	6	名前	3	学習	2
安全	5	普通	3	災害	2
避難所	4	児童	2	目線	2
思い	4	ワクチン	2	家庭	2
安心	4	居場所	2	怪我	2
インフルエンザ	3	生活リズム	2	努力	2

次に、①と同様にそのワードクラウドを示す（図3）。『取付ける』が上位の語として抽出され、「無料でワクチン接種の許可を最終的には取付け、打つことができ」といった記述が確認され、健康を守るため多方面と交渉した様子もうかがえた。

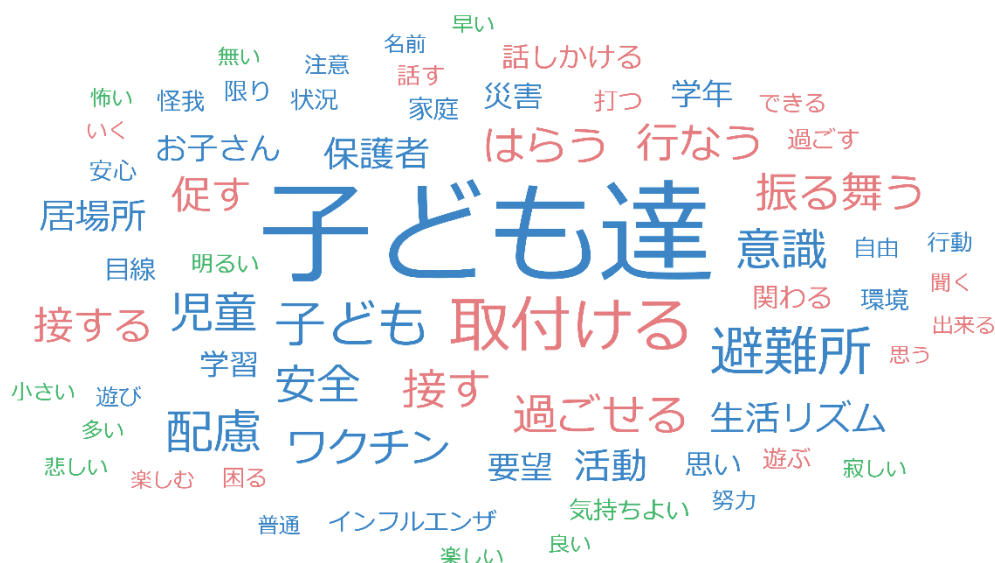


図3 前期のボランティアの意識のワードクラウド

(3) 中期：立て直し期（10月28日～11月8日）

立て直しの時期の様子や意識、課題を明らかにするために、10月28日～11月8日の対象者に尋ねた。この時期の対象者は、6回以上が3名、3～5回程度が4名、1,2回が5名であった。

① 活動内容

中期の活動内容について、(2)-①と同様に分析した。まず、出現頻度の高い単語（上位30語）を表4に示す。『子ども達』『子ども』が上位になり、被災直後と同様、『子ども』への関わりを中心に行っていたこと、特に子ども“達”という複数への関わりを意識が増していることが示唆された。また、出現数が多い『おもちゃ』では「おもちゃの整理・消毒」といった記述が確認されたこと、『掃除』『消毒』などの単語があることから、主に施設や備品の管理に注視している様子が示された。

表4 中期の具体的な活動の抽出語（上位30語）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
子ども達	9	朝食	2	ホームビジター	1
子ども	8	受付	2	居住者	1
ボランティア	5	整理	2	慰問	1
おもちゃ	4	食事	2	レクリエーション	1
掃除	4	担当	2	通園	1
託児	3	遊び	2	自治	1
避難所	3	情報	2	10月31日	1
消毒	3	交換	2	統括	1
居場所	3	妊産婦	1	レク	1
支援	3	レクリエーションパーク	1	介助	1

次に、中期の具体的な活動について、(2)-①と同様にワードクラウドを示す(図4)。被災直後と同様、『子ども達』という複数形の表現のスコアが高いことが示され、加えて「子どもの見守り」といった『見守る』関わりも継続して行われていることが示された。

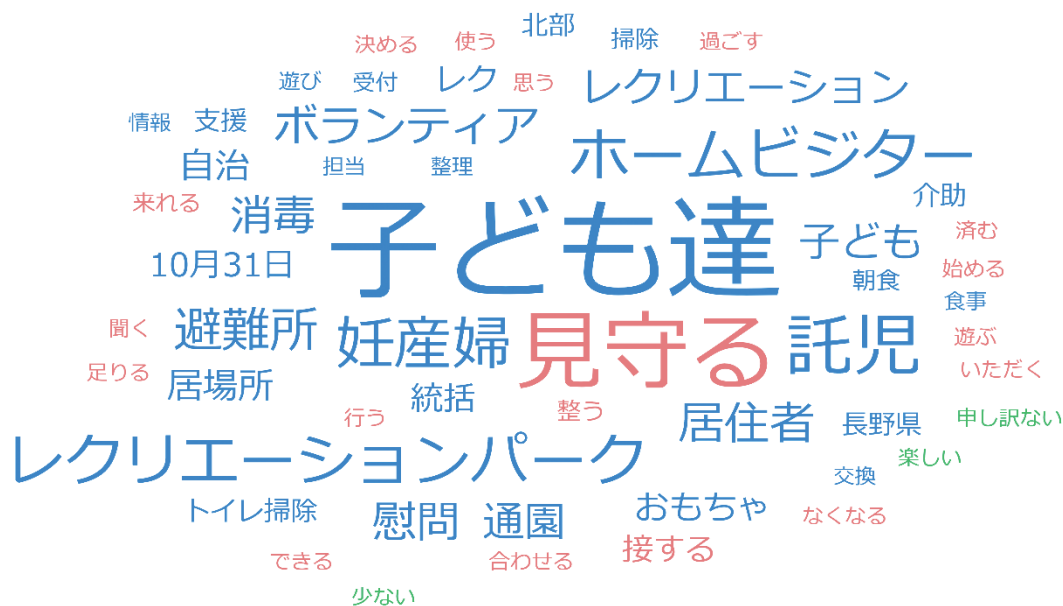


図4 中期の具体的な活動のワードクラウド

② 子どもの様子

子どもの様子について、(2)-①と同様に分析した。まず、出現頻度の高い単語(上位30語)を表5に示す。『様子』が最も多く、関連する記述をみると、「段ボールで物をたたいたりとイライラしている様子がうかがえた」「一人でいることを好んでいる様子の子も居た」「不安な様子」といった記述が確認された。また、『ストレス』が上位にあがる等、不安定な様子や集団生活に疲れている様子等が示された。その他、『避難所』『居場所』が上位にあげられており、「避難所の片隅に落ち着ける居場所(隠れる所)があった(大人の目の届かない所を求めている)」「居場所より自分たちのテントを好んでいた」といった記述もあり、一人になる時間を求めている様子も示された。

表5 中期の子どもの様子の抽出語(上位30語)

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
様子	9	おもちゃ	2	完成品	1
子ども	6	北	2	仲間同士	1
子ども達	4	おやつ	2	居住区	1
避難所	4	遊び	2	支柱	1
居場所	3	皆	2	テレビゲーム	1
姿	3	生活	2	はげ口	1
ストレス	3	参加	2	支援者	1
レク	2	学校	2	出し物	1
居住	2	ゲーム	2	4年生	1
くま	2	一緒	2	高学年	1

次に、(2)-①と同様にそのワードクラウドを示す（図5）。『完成品』『物珍しい』がスコアの高い語であり、「完成品（おもちゃ）で遊ばない」ことや、「物珍しい遊びに取り組む」様子など、変化のある遊びに集中していることが示された。

このように、避難所での生活が長期化する中で、慣れや飽きが生じ、日常の中で個人の時間を求めるなど、変化のある生活を求めていることが示された。

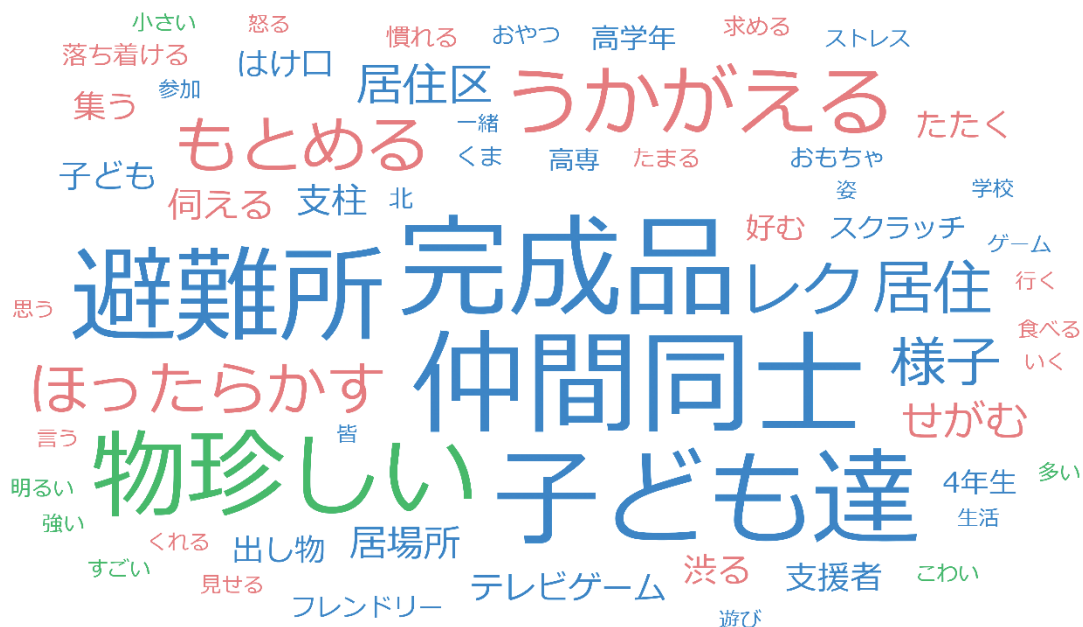


図5 中期の子どもの様子のワードクラウド

③ 活動中の意識

ボランティア活動中の意識の傾向について、(2)-①と同様に分析した。まず、出現頻度の高い単語（上位30語）を表6に示す。他の記述と同様、『子ども』『子ども達』が上位になり、『避難所』『様子』『注意』『意識』『仲間』『生活』が続いた。これらの語からは、「避難所には生活をしている方もいたため、“子どもだけの場所ではない”ことを意識し、時には社会マナーを理由に注意することもあった」といったように、避難所で生活していない子どもへの注意や、「一人になる子どもに目を配った。元気なおとなしく、皆の仲間に入れない子が目立つようになってきた」といった多様な子どもへの配慮を行いながら、関わっていることが示された。また、意識において、複数出現した単語は、先にあげた8語であり、ボランティアごとに、異なる視点を持ちつつ行動していることが示唆された。

表6 中期の活動中の意識の抽出語（上位30語）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
子ども	9	細心	1	年配	1
子ども達	5	非常時	1	かぜ	1
避難所	3	急変	1	第一	1
様子	2	情報共有	1	関わり	1
注意	2	排泄	1	性的	1
意識	2	顔見知り	1	徹底	1
仲間	2	自然体	1	保護者	1
生活	2	災害時	1	お子さん	1
早期発見	1	感染症	1	流行	1
人さらい	1	ノロウイルス	1	ハズレ	1

次に、(2)-①と同様にそのワードクラウドを示す（図6）。『早期発見』『人さらい』がスコアの高い語であり、「体調の変化の早期発見」「他の災害時には人さらいや性的犯罪などが起きたということも耳にしていたので、そのようなことが起きないように細心の注意をはらった」といったことを意識していた。

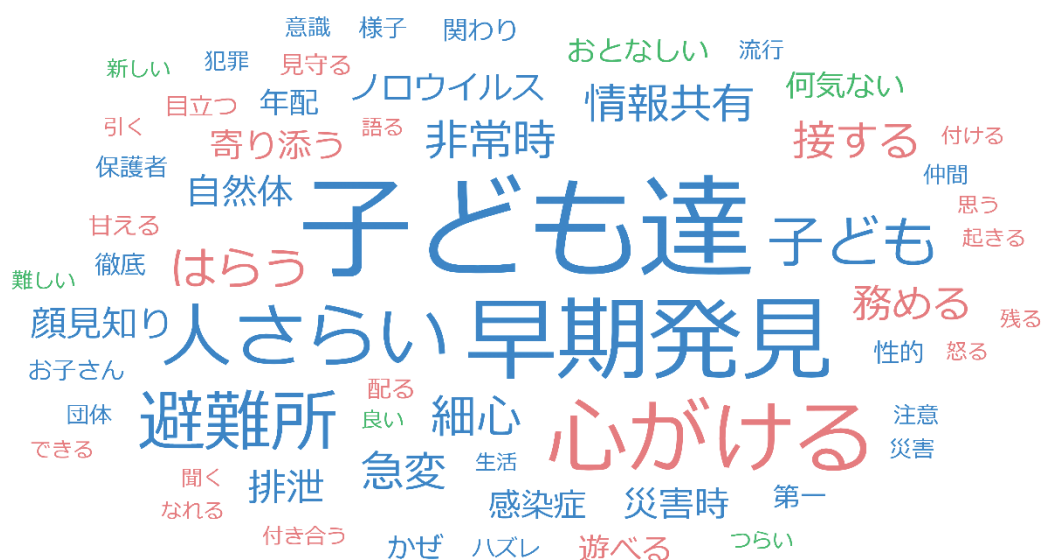


図6 中期の活動中の意識のワードクラウド

(4) 後期：見守り期（11月9日～11月30日）

見守り期の様子や意識、課題を明らかにするために、11月9日～30日の対象者にそれらを尋ねた。この時期の対象者は、6回以上が2名、3～5回程度が4名、1,2回が2名であり、これまでの時期に比べ、対象者は非常に少なかった。

① 活動内容

後期の活動内容について、(2)-①と同様に分析した。まず、出現頻度の高い単語（上位30語）を表7に示す。『子ども』『ボランティア』『掃除』『子ども達』『居場所』『朝食』が上位となった。具体的には、「子どもの様子を見ながら接する」「子どもの見守りボランティア（ホームビジター）」「am6時から朝食の準備をし、朝食が済むと、トイレ、学習スペースと子どもの居場所などの掃除を担当し、子ども達の登校、通園を見守った」といった、子どもの様子を見ながら、朝食の準備や清掃など、子どもの生活面の支援をしていたことが示された。

次に、(2)-①と同様にそのワードクラウドを示す（図7）。『ホームビジター』『見守る』等に関わる語のスコアが高くなっていた。

表8 後期の子ども様子の抽出語（上位30語）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
子ども	5	上	2	畳	1
避難所	4	ボランティアスタッフ	1	保護者	1
片付け	3	膀胱炎	1	欲求	1
住居	2	年少	1	幼児	1
子ども達	2	高校受験	1	入試	1
様子	2	年長	1	そのまま	1
面倒	2	予定日	1	一通り	1
小学生	2	大学受験	1	感心	1
不安	2	緊張感	1	お子さん	1
生活	2	閉鎖	1	掛け	1

次に、(2)-①と同様にそのワードクラウドを示す（図8）。『ぎこちない』『住居』等に関する語のスコアが高くなっていた。

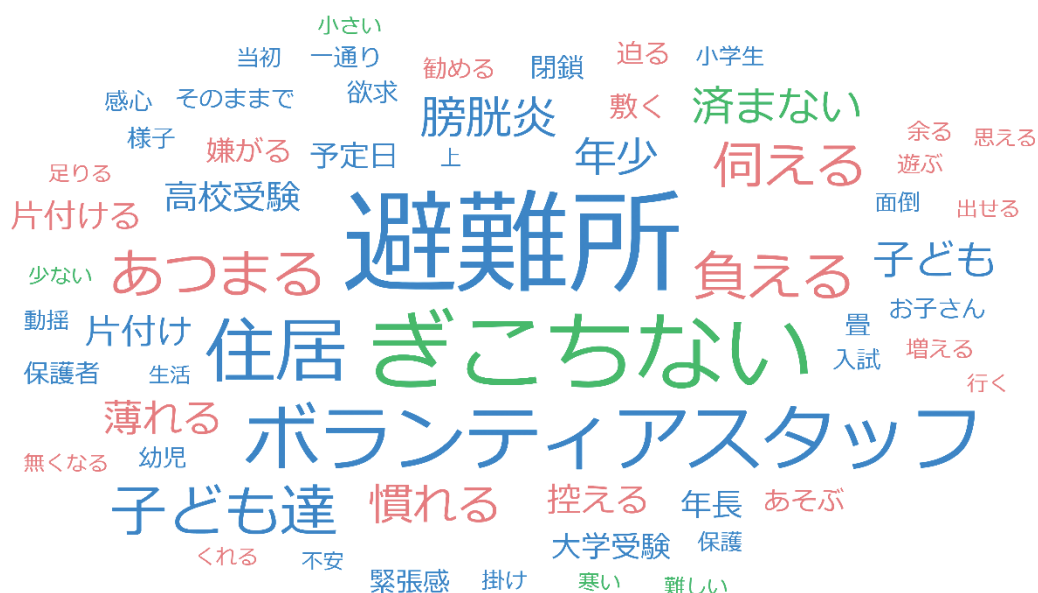


図8 後期の子ども様子のワードクラウド

③ 活動中の意識

ボランティアの活動中の意識について、(2)-①と同様に分析した。まず、出現頻度の高い単語（上位30語）を表9に示す。『子ども達』『保護者』『子ども』『お迎え』が上位となった。具体的には、「寒くなり始め、なるべく天気がよいときは体を動かすために屋外での遊びをさせたいと思った」「夕方からの寒さがだんだん強くなり、風邪等を引かないように風呂上りの際に声かけをした」といった寒さ対策や、「子どもの様子を、お迎えするお母さんに報告する」「引き続き感染症対策、子どもや保護者のこころの動きに気をつかいながらできる限り要望には応えるように」といった子どもや保護者への気遣いも確認された。

表10 前期・中期・後期ごとの具体的な活動の特徴語 (jaccard係数)

前期		中期		後期	
子ども達	.360	見守る	.265	下校	.056
見守る	.344	子ども達	.214	整頓	.056
遊ぶ	.316	消毒	.136	am6	.053
子ども	.267	居場所	.130	ボード	.053
ボランティア	.238	避難所	.130	引き続き	.053
避難所	.238	楽しい	.111	学習	.053
相手	.211	自分	.111	済む	.053
食事	.200	思う	.105	使用	.053
遊び	.200	整理	.100	主催	.053
外	.167	掃除	.100	手	.053

さらに、時期ごと独自の使用単語を可視化するため、時期を外部変数とする共起ネットワークを示す(図10)。『子ども』『居場所』『見守る』は、3期に共通する語として示された。よって、業務内容が異なるもののボランティアは、子どもの居場所を意識しつつ、見守り続けたことが示された。

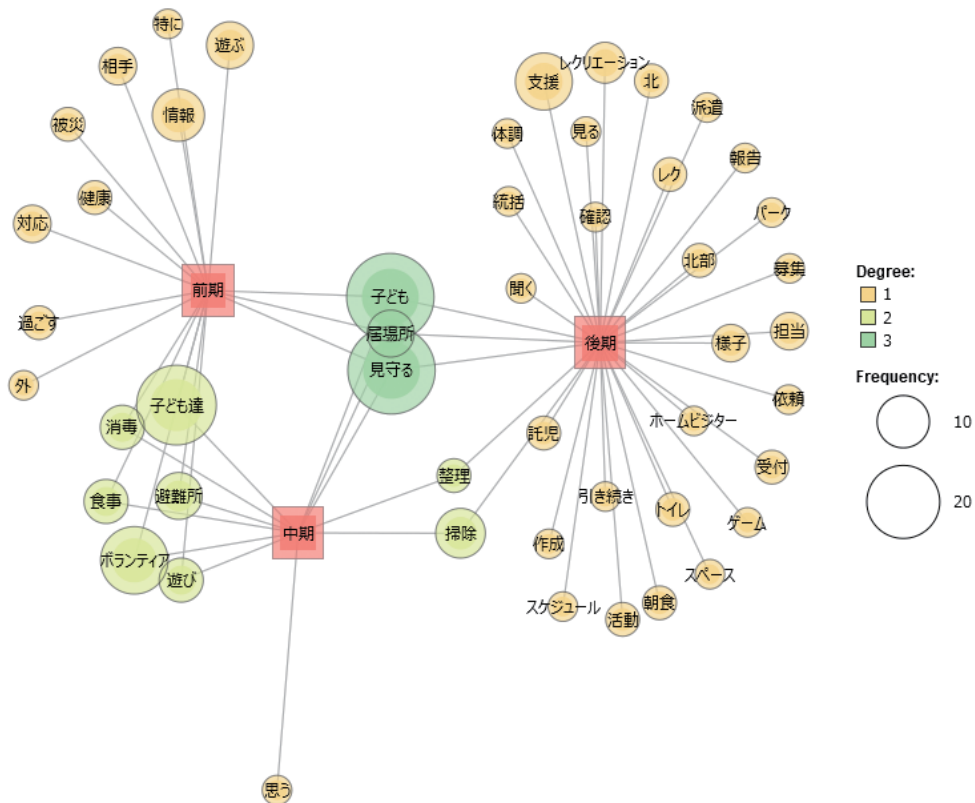


図10 調査時期ごとの具体的な活動の共起ネットワーク

(出現回数が多い語ほど大きな円で描画され、jaccard係数が高いほど語同士の実線が太くなっている。円の大きさ、共起の基準は図右を参照。以下、同様)

前期と中期では、『子ども達』『ボランティア』『避難所』『遊び』『食事』『消毒』が共通語として抽出され、複数の子どもへの関わりや避難所における食事や遊び、消毒を行っていることが示された。また、中期と後期では、『整理』『掃除』が共通語として抽出され、避難所の整理整頓が主な関わりであったことが示された。

各時期の独自語として、前期では、『被災』『情報』といった被災についての情報収集に関する語や、『健康』が抽出され、子どもの健康に配慮しながら活動していたことが示された。また、中期は『思う』のみが独自語であり、中期に関しては、独自の関わりが少ないことが示唆された。よって、具体的な関わりについて、3期ではなく、2期での取り組みと解釈できる可能性も示唆された。一方、後期は、非常に多くの独自語が抽出され、多くの役割を担っていたことが示された。これは、時間が経過することによって、多様な子ども、保護者に対応していたことを示唆している。

② 子どもの様子

子どもの様子の変化に関する自由記述データを対象に、形態素分析を行った。121の文章が確認され、総抽出語は3,013であった。次に、異なり語や助詞、助動詞を除外し、1,110語を分析対象として設定した。

続いて、①と同様に、jaccard係数を算出し、上位10語を表11に示す。前期は『多い』『子』『感じる』といった語が上位にあげられ、具体的な活動と同様、10位までが.20を超えるなど、数値も高く、また子どもの『不安』な様子も示された。中期は『様子』『ゲーム』『生活』といった語が上位に位置づけられ、避難所でゲームをしていた様子や『ストレス』を感じながら生活していた様子が示された。後期は『慣れる』『避難所』『前』が上位にあげられ、避難所への慣れや『片付ける』『片付け』が上位に抽出されるなど、慣れによって共有スペースの片付けをしない様子が記述されていた。

表11 前期・中期・後期ごとの子どもの様子の特徴語 (jaccard係数)

前期		中期		後期	
多い	.368	様子	.240	慣れる	.217
子	.348	ゲーム	.211	避難所	.174
感じる	.333	生活	.191	前	.150
子ども	.308	ストレス	.158	片付ける	.111
見る	.250	居場所	.158	小学生	.105
子ども達	.250	学校	.111	片付け	.105
思う	.250	居住	.111	面倒	.105
様子	.240	見せる	.111	手	.100
不安	.238	好む	.111	増える	.100
学年	.222	求める	.105	保護者	.100

さらに、時期ごと独自の使用単語について、①と同様にその共起ネットワークを示す(図11)。『子ども』『子ども達』『見る』は、3期に共通する語として示された。よって、業務内容が異なるもののボランティアは、子どもの様子に目を配っていたことが示された。

前期と中期では、『子』『様子』『姿』『思う』が共通語として抽出され、子どもの様子に注視していた様子が示された。また、中期と後期では、『避難所』『慣れる』『生活』『一緒』等が共通語として抽出され、避難所への慣れや共同生活の継続についての様子が特徴として示された。

前期では、『不安(後期と共通)』や『明るい』『表情』といった、不安な様子や明るい表情など様々な情緒を子どもが表出していたことが示された。中期は『ストレス』といった不安を表す語や、『食べる』『ゲーム』『居場所』など、生活の変化が示唆された。後期は、『面倒』などの子どもの様子や、『保護者』『気持ち』など保護者との関係性の独自語が抽出されていた。

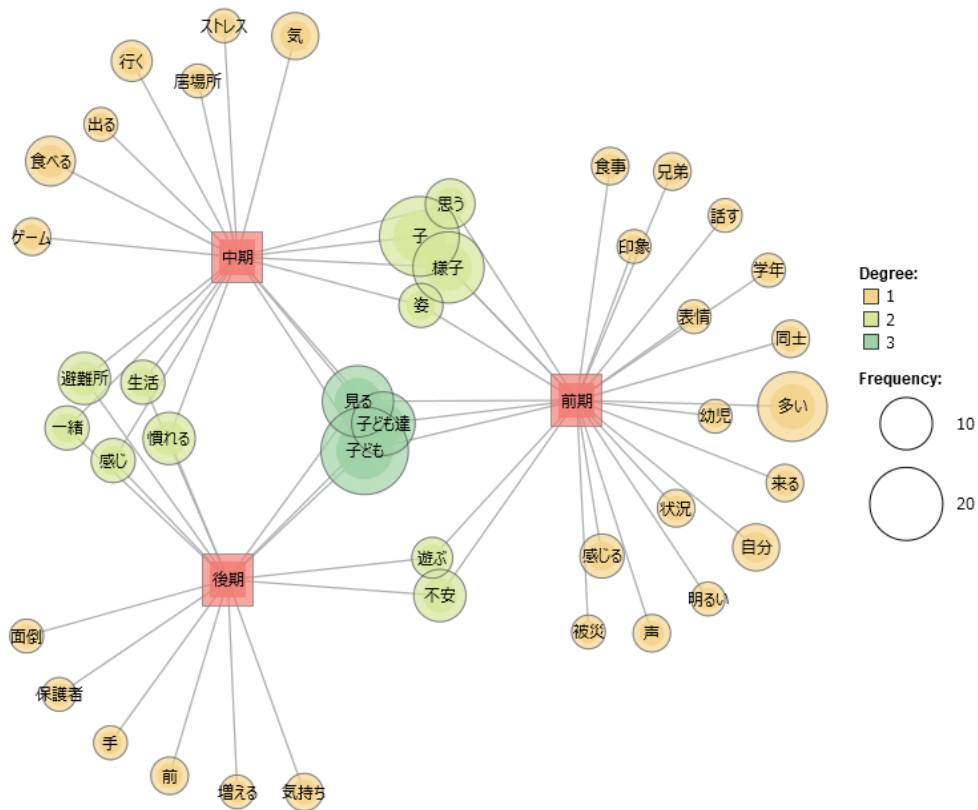


図11 調査時期ごとの子どもの様子の共起ネットワーク

③ 活動中の意識

ボランティアの意識の変化に関する自由記述データを対象に、形態素分析を行った。101の文章が確認され、総抽出語は2,575であった。次に、異なり語や助詞、助動詞を除外し、832語を分析対象として設定した。

続いて、①と同様に jaccard 係数を算出し、上位10語を表12に示す。前期は『意識』『子ども達』『子ども』といった語が上位にあげられ、『安全』『安心』といった子どもの安心・安全を意識して関わっていたことも示された。中期は『心がける』『仲間』『様子』といった仲間同士の関わりが上位に位置づけられていた。後期は『寒い』といった季節の変化に伴う単語や『体』『楽しい』『遊ぶ』が上位にあげられ、体調を意識しつつ、楽しく時間が過ごせるよう関わっていることが示された。また、『保護者』への配慮を行っていたことも示された。

表12 前期・中期・後期ごとの意識の特徴語 (jaccard係数)

前期		中期		後期	
意識	.350	心がける	.143	寒い	.111
子ども達	.333	仲間	.105	体	.105
子ども	.320	様子	.105	楽しい	.100
安全	.263	来る	.105	遊ぶ	.100
安心	.222	災害	.100	保護者	.095
活動	.211	生活	.100	維持	.056
思う	.191	注意	.100	屋外	.056
学年	.167	聞く	.100	願う	.056
行動	.167	話	.100	気づく	.056
思い	.167	避難所	.095	強い	.056

さらに、時期ごと独自の使用単語について、①と同様にその共起ネットワークを示す（図12）。『子ども』『子ども達』『思う』は、3期に共通する語として示された。よって、ボランティアは、時期によらず子どもの思いを意識し、活動にあたっていたことが示された。

前期と中期では、『避難所』『意識』が共通語として抽出され、避難所での様子に注視していたことが示された。また、中期と後期では、『仲間』『来る』『お迎え』『様子』等が共通語として抽出され、避難所での仲間関係や保護者との関わりに注視していたことが示された。

前期では、特徴語と同様『安心』『安全』に関する記述が抽出され、被災後の混乱の中、安全・安心を強く意識していたことが示された。中期では『インフルエンザ』『犯罪』『災害』といった危機的状況におけるリスク回避へと意識が変化していた。さらに後期は『感染』といった感染症対策や、『保護者』『要望』など保護者を意識した独自語が抽出されるなど、安全に配慮しつつ、避難所の閉所も見据え、保護者へ関わっていたことが示された。

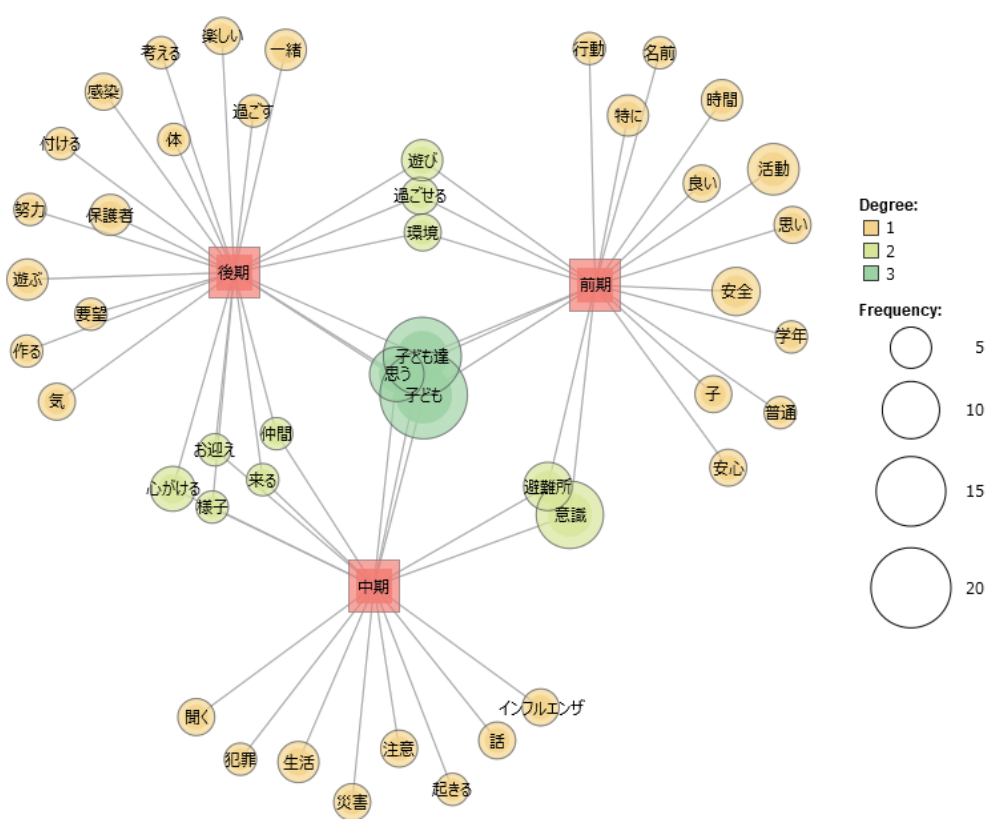


図12 調査時期ごとの活動中の意識の共起ネットワーク

(6) 困難・課題

① 全体的な傾向

困難・課題の自由記述データを対象に、形態素分析を行った。209の文章が確認され、総抽出語は6,006であった。次に、異なり語や助詞、助動詞を除外し、2,085語を分析対象とした。

続いて、多く使用された語や記述の傾向を明らかにするため、抽出語の上位30語を表13に示す。『思う』が42回と最も多く、『子ども (40語)』『子ども達 (30語)』『避難所 (26語)』『ボランティア (23語)』と続いた。

表13 困難・課題の抽出語（上位30語）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
思う	42	時間	13	入る	9
子ども	40	参加	11	分かる	9
子ども達	30	自分	11	北	9
避難所	26	出来る	11	活動	8
ボランティア	23	スタッフ	10	関係	8
感じる	20	情報	10	居場所	8
対応	18	難しい	10	児童	8
必要	17	スペース	9	場所	8
支援	15	レク	9	食事	8
多い	14	行く	9	同士	8

さらに、語の使用傾向を明らかにするために、共起ネットワークを示す（図13）。文章内容を確認したところ、同一人物から、複数の異なる趣旨の記述が確認されたことから、分析対象を「文章」とした。今回の分析は全体像を把握することを目的としているため、modularityを用いた。分析に用いる語の最小出現回数は5に設定した。

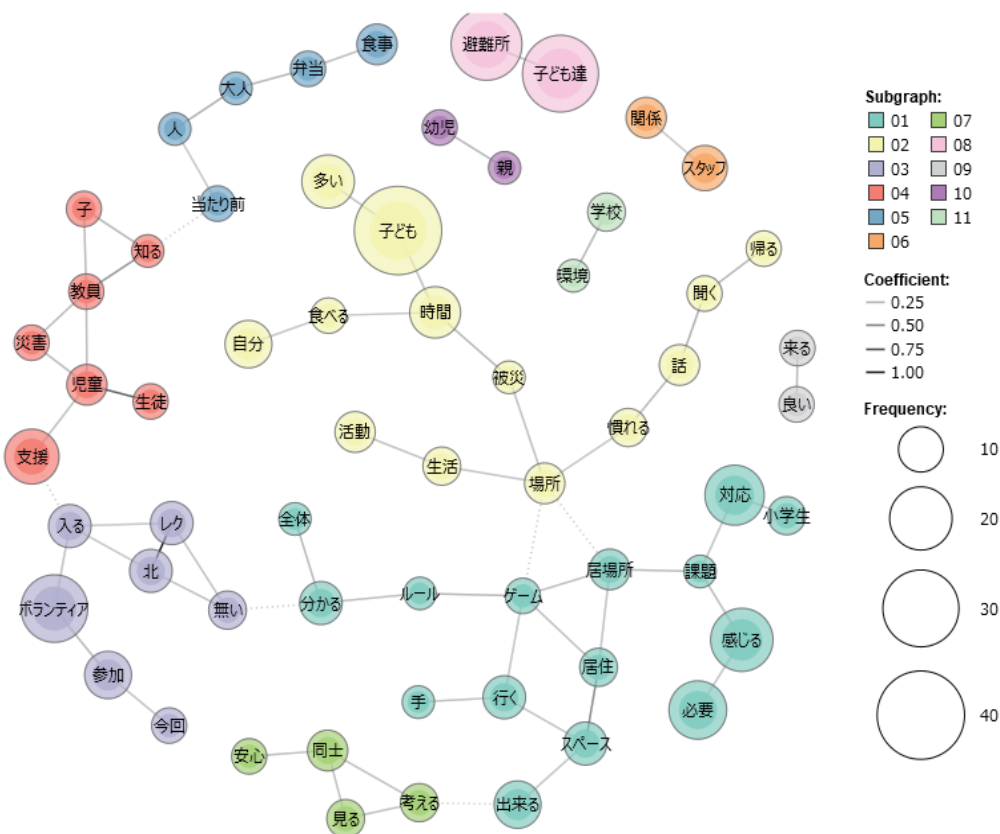


図13 全体的な困難・課題についての共起ネットワーク

その結果、01『対応』『居場所』『スペース』『ゲーム』『ルール』などや08『子ども達』『避難所』といった【避難所での生活】のまとまりが確認された。加えて、02『子ども』『時間』『慣れる』『被災』など【避難所への適応】のまとまり、03『ボランティア』『参加』『入る』『北』『レク』や06『スタッフ』『関係』といった【ボランティアの参加・連携】に関するまとまり、04『児童』『災害』『支援』『教員』

や11『学校』『環境』といった【児童・生徒への支援の方法】のまとまりが確認された。続いて、05『弁当』『食事』『大人』『当たり前』といった【食事】のまとまり、07『同士』『安心』『考える』や10『幼児』『親』といった【子ども・保護者の連携】のまとまりが示された。

まとまりごとの具体的な記述を表14示す。【避難所での生活】について、「行政との連携や設置の難しさ」や「家庭の要望の情報収集」「子どもの生活」など設置に関する困難さや家庭の価値観の違い、子どもの主体的な活動についての課題が示された。【避難所への適応】について、「集団生活への適応」や「各家庭の利用と情報収集」など避難所への適応や個人差に関する言及が示された。【ボランティアの参加・連携】では、「スタッフの引継ぎ」や「スタッフの連携」など、多様な価値観や経験を持って集まったボランティアの連携の困難さが示された。【児童・生徒への支援の方法】では、「児童・生徒への対応」や「小学校との連携」「災害前からの連携」など、多様な専門性の共有による支援の課題が言及されていた。【食事】に関しては、「年齢に応じた食事の設定」や「温かい食事」「残食」等の課題が示された。【子ども・保護者の連携】については、今回の災害において「保護者間の連携が好影響を果たしたこと」が示され、対面による連携の重要性が主張されていた。

表14 ボランティア中の困難・課題の自由記述の具体例

カテゴリ名	具体的な記述
【避難所での生活】	◇行政側が避難所に子ども達の居場所をつくることに対しての理解がなく、安心して過ごせる居場所づくりがスムーズにできなかった。◇各ご家庭の困りごとによりの程度、どこまで対応出来るのか、する必要があるのか、してはいけないのか、集約するところはどこなのか考えた。◇子どものおもちゃやTV、ゲームなど居場所は必要な場所だったのか。◇子ども達にもう少し主体性を持たせて避難所の運営をしたり、自分達の学習を行わせたりすることが必要だったが、それができていないと感じた。
【避難所への適応】	◇彼らは慣れない場所での活動には大きな不安を抱え、集団での活動、生活には大きな困難が伴います。◇全家庭が一斉に集い、集団行動（同じ生活・行動）をするわけではないので、一時的利用（日帰り）と住居して利用している方の把握に苦慮。
【ボランティアの参加・連携】	◇スタッフ同士の引継ぎ（帰宅後の電話やライン、仕事日に対面で）時間の確保、手法の模索。◇たくさんのボランティアの方が関わることでボランティア同士の連携がとても難しいと感じました。
【児童・生徒への支援の方法】	◇多くは小学生だったため、乳幼児相手の保育士よりも教員・児童センター職員の方が適していると感じた。◇利用する学齢期の児童が判明した場合、その子ども達が在籍する小中学校から、その子を知る教員などが、勤務の一環として（平日も休日も合わせて）避難所で支援にあたればよい。◇災害前のネットワーク（生活、趣味、社会的活動）が、いざというときに役立つと感じた。
【食事】	◇お弁当も大人用・子ども用と区別したらよいと思いました。◇衛生管理の視点から食に関しては、炊き出しが始まるまでは、配られるお弁当のみしかなく、温かい汁物等が避難所開設当初から用意されていない。◇食事に関すること、食品ロス、昼食後残す状態が多くてびっくりでした。
【子ども・保護者の連携】	◇社会的に発信している者同士の、顔の見える安心感があり、情報収集や伝達がスムーズに行えたと思う。◇子ども同士、親同士、顔の見える関係が出来ており、繋がりが強いと感じた。

② 調査時期ごとの特徴

各時期の特徴語について、(5)-①と同様にjaccard係数を算出し、上位10語を表15に示す。

前期は『子ども』『子ども達』『避難所』といった語が上位にあげられるとともに、『ボランティア』『情報』といったように、ボランティアの連携や情報収集に課題を感じていることが示された。中期は『ゲーム』『時間』『TV』『ルール』といった語が上位に位置づけられ、避難所でのゲームの時間など、生活リズム等の集団生活のルールと順守に関する課題が示された。後期は『出る』『人』『慣れる』など、『慣れ』からくる課題や『小学校』『学校』など学習に関する課題が示された。

表15 前期・中期・後期ごとの困難・課題の特徴語 (jaccard係数)

前期		中期		後期	
子ども	.393	ゲーム	.211	出る	.167
子ども達	.357	時間	.167	人	.150
避難所	.320	TV	.167	慣れる	.136
関係	.316	ルール	.150	一緒	.105
思う	.308	居場所	.150	相手	.105
ボランティア	.304	遊ぶ	.150	見守る	.100
多い	.304	行く	.130	話	.100
必要	.286	決まる	.111	学校	.095
考える	.278	決める	.105	小学生	.095
情報	.278	自由	.105	弁当	.095

続いて、時期ごと独自の使用単語について、(5)-①と同様にその共起ネットワークを示す(図14)。『子ども』『子ども達』『思う』は、3期に共通する語として示された。意識等の記述と同様に、時期によらず子どもの思いを意識し、活動にあたっていたことが示された。

前期と中期では、『ボランティア』『多い』『場所』等が共通語として抽出され、ボランティアの多さやその配置等の課題が共通のものとしてあがったことが示された。中期と後期では、『自分』『支援』『遊ぶ』『帰る』『行く』等が共通語として抽出され、避難所での遊びの変化や学校への登下校、避難所からの退所等の課題に言及されていた。

個別の特徴としては、前期において、『安心』といった安全面の課題や『スタッフ』といったボランティアの課題、『情報』といった災害の情報収集に関する課題、『食事』の課題が確認された。中期において、『ゲーム』『ルール』『時間』など、自由な時間が増加したことに伴って、生活のルールを構成していくことが課題としてあげられるように変化していた。後期において、『慣れる』といった避難所への慣れからくる主張、『学校』といった勉学に関する記述、『弁当』といった食事への改善等が課題としてあげられた。

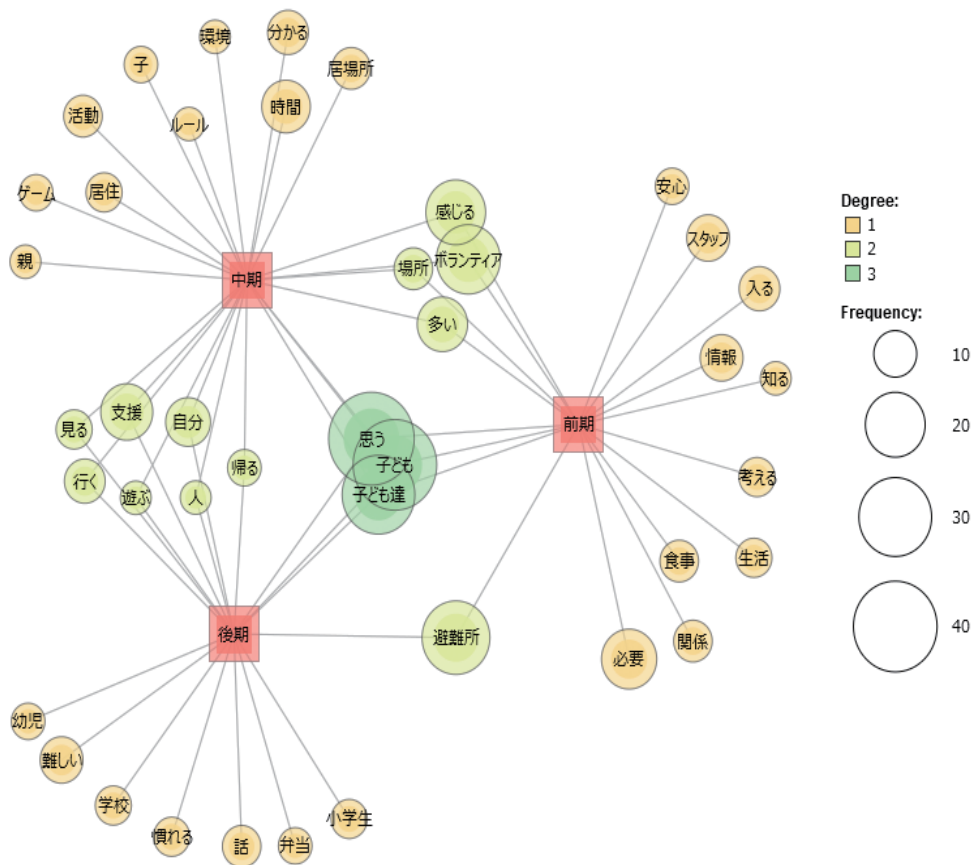


図14 調査時期ごとの困難・課題についての共起ネットワーク

(7) まとめ

① 活動内容

災害直後（10日後まで）の住み慣れた家屋への被害や慣れない場所での共同生活は、子どもに大きな不安を与えることが予測される。その状況でボランティアは、子どもの不安を重視し、寄り添いを強く意識して関わっていた。さらに、『子ども“達”』という複数形の語が多く使用されており、被災直後は、避難所で過ごす子どもも多く、“達”といった集団での関わりがより意識される状況であることが示唆された。また、共通性（jaccard係数）をみると、多くの語で高い数値が確認され、ボランティアの活動内容に対する認識が類似していたことも示された。

災害から10日から20日経過した頃、子どもはストレスを抱える中、ゲームをするなどして、避難所で生活していた。この時期も『子ども達』と複数形の記述が多く確認されたが、『消毒』も特徴語として加えられるなど、感染症対策も重要視されていた。また、『居場所』も特徴語として上位にあげられており、避難所に残る子どもの居場所をつくるという意識の高まりも確認することができた。

さらに20日以降、『慣れる』『整頓』が特徴語としてあげられ、子どもが避難所に慣れ、共有スペースの片付けができないなどの問題が指摘されるようになった。また、この時期は、語の共通性も低く、ボランティアも様々な関わりが求められるようになってきたことが示唆された。具体的な記述をみると、「避難所を出る子どもも増え、残った子どもが寂しさを感じる姿」も語られ、避難所での生活が長期化することで生じる子どもの寂しさへの配慮と自由の狭間で葛藤していた様子も示された。このような葛藤の解決には、問題を多面的に捉える必要があるため、ボランティア同士や他機関との連携等を深めていくことの重要性が示唆された。また、「弁当のマナー化、食の偏り」も指摘されるなど、災害時におい

ても、子どもの心と体を支える食について再認識する必要があると考えられる。

② 課題

ボランティアは、子どもの様子に配慮しつつ、子どもに寄り添っていたことが示された。その中で、浮き彫りになった課題もあった。

まずあげられるのが、「行政との連携」である。災害時には、特に、乳幼児や子ども、高齢者などが安心して過ごせることが重要であるが、そのことが共通認識に至っていなかったことが示唆された。加えて、「ボランティア間の連携」も課題としてあげられた。支援のために集まるボランティアは、子ども達に対する強い想いがあることは疑いようがない。しかしながら、それぞれの想いが強く、さらに専門性、経年も異なる場合は、共通理解が難しいため、より綿密な連携を行う必要がある。

さらに、「子どもの年齢ごとの関わり（関わり方、関わる方の専門性）」や「子どもの様子を知る教員等との連携」も課題としてあげられた。災害時、子どもは多くの不安を抱えるため、災害前からの関わりがある人物と連携し、避難所でより連携を高めることが求められる。それらの連携は、子どもの被災前の状況を知ることにもつながり、避難所での様子が性格特性によるものか、災害のストレスによるものかを判断することにも効果的な情報を提供する。また、子どもの年齢によっても寄り添い方は異なるため、発達段階に合わせて専門家と連携し、関わり方のヒントを得ることが求められる。

最後に、「食」についても大きな課題としてあげられていた。具体的には、「子どもと大人のお弁当が同一だったこと」や「温かい食べ物が無かったこと」「食品ロスの問題」などである。避難所での生活が長引くことで、心身共に疲労が蓄積され、免疫力も落ち、体調不良にも陥りやすい。さらに、食は生活を豊かにするものでもあるため、より良い心身の状態を保つためにも、食事の重要性を考えていく必要がある。

〈資料3〉アンケート調査用紙

調査のお願い

この調査は、災害後の混乱において、子どもの支援を目的に行った活動を記録に留め、今後の災害支援に生かしていくための基礎的資料の提供を目指しています。そのため、今回は「令和元年東日本台風災害」において、長野市北部スポーツ・レクリエーションパークでの活動に参加された皆さまにアンケート調査をお願いいたしました。

今回の調査では、それまでの「ボランティア経験」や「子どもと関わった経験」、「支援を实践した上での感想」、「課題」について質問をしております。答えにくい質問もあるかと存じますが、下記の注意事項をご一読いただき、了承いただける場合は回答にご協力ください。

また、質問等がありましたら、枠下のEメールアドレスにお問い合わせください。お手数をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

記入上の注意事項

- ①回答は、アンケート用紙に直接ご記入ください。
- ②本調査は任意調査ですので、調査協力を拒否しても不利益を被ることはありません。また、途中で回答を中断しても、構いません。
- ③調査結果は匿名化した上で処理しますので、個人が特定されるようなことはありません。
- ④回答結果は、研究や取り組みの検証といった目的以外には使用いたしません。
- ⑤本調査の回答・提出をもって、調査協力の同意といたします。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

長野県立大学 健康発達学部 食健康学科
笠原 賀子・加藤 孝士・寺川 直樹
問い合わせ先
E-mail kasahara.yoshiko@u-nagano.ac.jp

1. ご自身のことについてお伺いします。

- (1) ご自身の年齢をご記入ください。 () 歳
- (2) ご自身の性別に○をしてください。 男性 ・ 女性
- (3) 職業を記載してください。
- (4) 「令和元年東日本台風災害」以前に、災害支援の活動をされた経験がある場合は、ご記入ください。
- (5) 「令和元年東日本台風災害」以前に、「子どもへの教育・支援活動」の経験がある場合は、ご記入ください。

2. 「令和元年東日本台風災害」についてお伺いします。活動記録の一部を同封しておりますので、そちらをご覧になりながら、ご自身の活動をお聞かせください。

(1) 災害直後（10月16日～27日）についてお伺いします。

① この時期の支援にどの程度参加されましたか？ おおよその回数に○をしてください。

1. 参加していない 2. 1～2回程度 3. 3～5回程度 4. 6回以上

⇒ 参加していない場合は、(2)へお進みください。

② この時期に参加されている場合は、ご自身がどの様な活動をされたかをお書きください。

③ この時期の子どもの様子でお感じになったことをお書きください。

④ この時期に参加されている場合は、どの様なことを意識しながら活動を行ったのかをお書きください。

⑤ この時期に参加されている場合は、その活動中に感じた困難や課題をお書きください。

(2) 災害から少し落ち着いた時期（10月28日～11月8日頃）についてお伺いします。

① この時期の支援にどの程度参加されましたか？ おおよその回数に○をしてください。

1. 参加していない 2. 1～2回程度 3. 3～5回程度 4. 6回以上

⇒ 参加していない場合は、(3)にお進みください。

② この時期に参加されている場合は、ご自身がどの様な活動をされたかをお書きください。

③ この時期の子どもの様子でお感じになったことをお書きください。

④ この時期に参加されている場合は、どの様なことを意識しながら活動を行ったのかをお書きください。

⑤ この時期に参加されている場合は、その活動中に感じた困難や課題をお書きください。

(3) 災害の活動が終わるまでの時期（11月9日～30日）についてお伺いします。

① この時期の支援にどの程度参加されましたか？ おおよその回数に○をしてください。

1. 参加していない 2. 1～2回程度 3. 3～5回程度 4. 6回以上

⇒ 参加されていない方は、(4)にお進みください。

- ② この時期に参加されている場合は、ご自身がどの様な活動をされたかをお書きください。
 - ③ この時期の子どもの様子でお感じになったことをお書きください。
 - ④ この時期に参加されている場合は、どの様なことを意識しながら活動を行ったのかをお書きください。
 - ⑤ この時期に参加されている場合は、その活動中に感じた困難や課題をお書きください。
- (4) 災害の後（令和元年12月以降）、支援を行っている方は、どの様な取り組みをされているのか（されたのか）をお書きください。

ご協力いただき、ありがとうございました。

第3部

避難所における子どもの居場所づくりの 関係者による対談



1. 対談の目的と方法

日時：令和3（2021）年7月8日（木）13：00～14：00

方法：ZOOMによる遠隔対談

目的：「令和元年東日本台風による避難所における子どもの居場所の設置と活動」に関する課題の発見と未来に向けての提言（各対談の内容についての提言は、吹き出しで示した）

出席者（敬称略）：

特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト 小笠原 憲子、伊藤 直子

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン 武田 勝彦、松浦 宏二、中島 美穂

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 渡邊 珠人

公立大学法人長野県立大学 笠原 賀子、加藤 孝士、寺川 直樹

ファシリテーター：笠原 賀子

2. 対談のまとめ（内容の関連図）

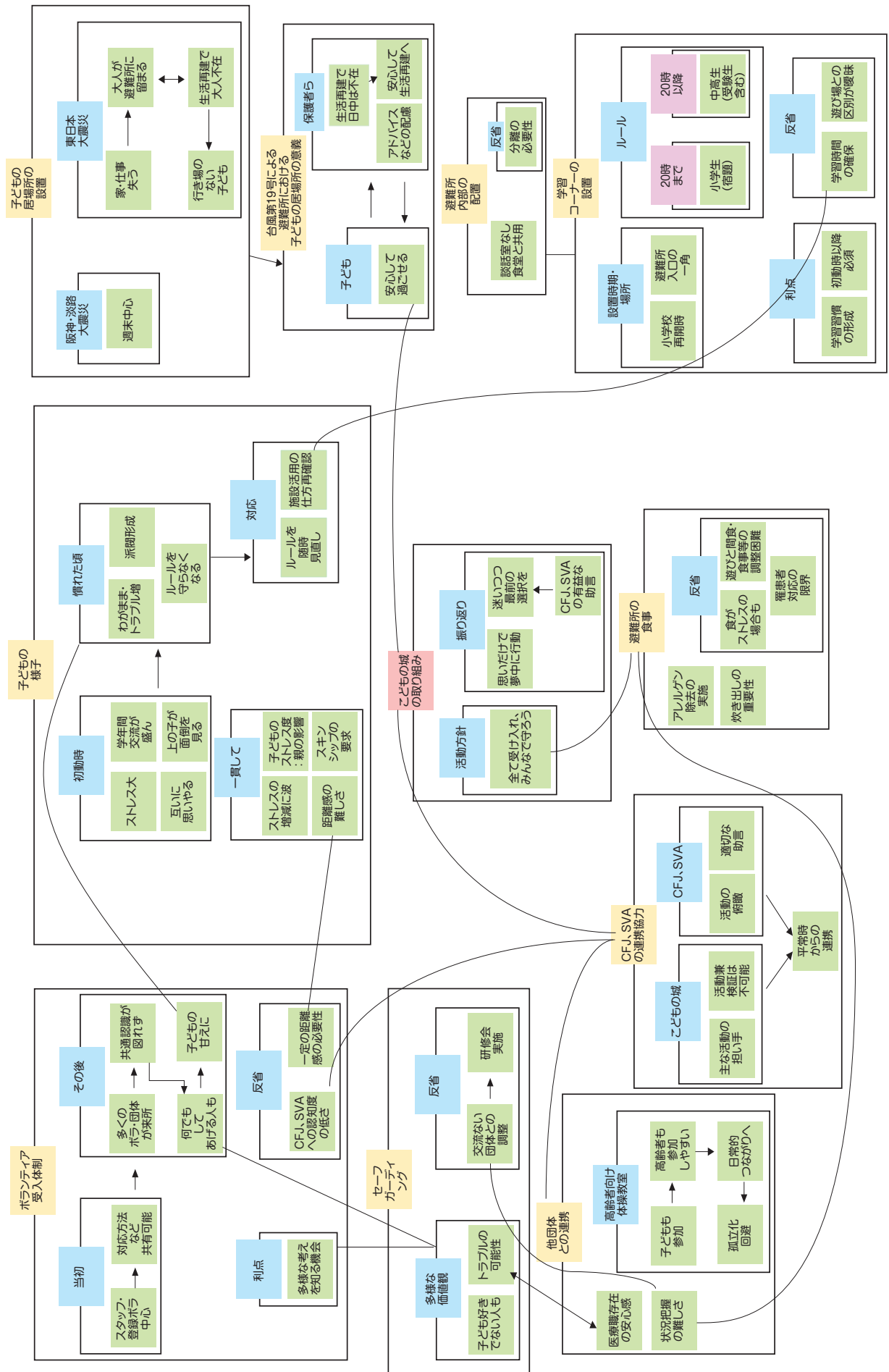
次ページ参照。

3. 対談の内容

（1）こどもの城の取り組み〈活動方針：すべて、受入れ、みんなを守ろう！〉

●日々刻々と変わる状況の中で、どう支援するかを瞬時に判断する必要がある。

- ・自治体の避難所の関係者会議に出席。毎晩開催された長野県災害時支援ネットワーク主催の情報共有会議には、CFJ・SVAが出席し、こどもの城の活動状況を報告した。
- ・夢中で、思いだけで動いた。
- ・それぞれの時点では迷いながら、ベストと考えられることを行った。
- ・小学校再開時の学習コーナーの設置など、この時期に、この対応でよいのか疑問がわき、状況の変化に対応するのに苦心した。
→ CFJ・SVAの助言が有効。



(2) 子どもの様子

- 非常時における子ども（大人も含む）の心理状態の理解を深める。
- 子ども達への対応のあり方について、ボランティア、行政関係者が、共に、共通理解をもち、活動の柱とする。

- ・初動時は子ども達のストレス度が高かった。どうしてよいか不安で、おどおどして怖がっていた。体温も下がっていた。「おばちゃんたちがいるからね」と声をかけると、ほっとした顔になった。
- ・子ども達は、波もあったが、日を追うごとにストレスが高まる様子も、反対に落ち着いてくる様子も見られた。
- ・初期は、お互いを思いやりながら生活していたが、慣れてくると、わがままやトラブルが増えてきた。
- ・秘密の話をしたいと、気の合うグループができて、派閥争いらしき様子も見られた。
- ・避難所生活に慣れてくると、おもちゃを片付けず、使えばなしにするなど、だんだん規律が守られなくなってきた。
- ・長沼小は、1年生から6年生まで顔見知りで、ファーストネームで呼び合える仲良しであった。学年間の交流が盛んで、修学旅行が続いている感じだった。
- ・遊びの場面では、大きな子が小さな子の面倒を見ることが多かった。
- ・保護者のストレス度が上がると、子どものストレス度も上がった。特に、11月上旬、閉鎖が発表された頃は、怖いくらいの状況が生じていた。例えば、言葉が荒くなる、遊びの一部とも思われるが暴力が増える（子どもでも痛いくらいたたき、グーパンチ、どんと押す、蹴るなど）。特に、男の子3名くらいが日々増強していった。しかし、これも仲間意識の表れなのか、ボランティアにはしない。
- ・初期から終了まで、スキンシップを求める（おんぶ、だっこなど）ことが続いていた。距離感をどうとるかも大事だと思い、悩みながら取り組んだ。

〈対応〉

- ・ルールを見直し、その都度、公共の場の活用の仕方について、再確認をこまめに行う。

(3) 避難所における子どもの居場所の設置：水害の特殊性の理解

- 地震と、水害など他の災害との違いを検証する必要性がある。

- ・兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）以降、子どもの居場所は、毎日ではなくても、週末などに設置されることが多くなっている。
- ・東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）では、地震と津波により家も流され、仕事もなく、大人が避難所に留まった。しかし、水害や他の災害では、家の再建のため避難所に大人がいないことが多く、子どもはとり残されて行き場がない。

〈利点〉

- ・保護者が生活再建で避難所に不在の中、子ども達の居場所が確保できてよかった（長沼小保護者の声より）。

(4) 子どもの居場所の意義

●子どもの居場所は、子どもにとって、安心して過ごせる場所である。

- ・子どもの居場所を通して、子どもへの配慮に留まらず、保護者へのアドバイスなど、子どもの周囲に対する心配りもでき、保護者にもよい影響があった。

(5) 避難所内部の配置

●保護者のストレスが多いと、子どもに伝播する。
●いかに、子どもを守るか？ 配慮すべき事項が多い。

- ・談話室のようなものがなく、食事コーナーが共有スペースとなっていた。

〈反省〉

- ・話をしたい子どもが十分に話せなかったため、区分けをきちんとするほうがよかった。

(6) 学習コーナーの設置

●学習コーナーは、時期が来たら一つの区切りとして必要な場所であった。

- ・宿題が始まった時期、小学校再開時に、避難所入口付近の一角に学習コーナーを設置した。
- ・小学生は宿題が多く、毎日の宿題をする場としての利用が目立った。
- ・中学生、高校生、受験生もいた。
- ・ルールを決めた。
→小学生と中学生の下校時間のタイムラグ（小学生は帰宅が早い）を活かし、時間を区分して利用する。20時までは小学生が宿題をし、以後は、中高生および受験生が勉強する。

〈反省〉

- ・学習コーナーは学習の場で、遊びの場ではないという位置づけが明確にされておらず、関係者間で共有されていなかった。
- ・避難所の消灯時間が早いこともあり、もっと勉強したいという少数派に対して、十分な時間を確保できなかった。

〈利点〉

- ・学校から帰るとすぐ学習する習慣ができた子どももいた。

(7) ボランティアの受入れ体制

- 子どもへの対応の仕方を、専門的見地から相談できる人員の配置が求められる。
- 子ども支援にスムーズに取り組む体制を構築し、他団体のボランティアにも、全員に伝えられる仕組みづくりが必要。
- 平常時から、どのような体制をつくるか、どういう方向で、どういうふうを実施するかをマニュアル化して、ボランティアの育成に役立てる。
- 被災地の行政や地域の団体とCFJやSVAが、平常時より協力する体制をつくり上げておくと、被害にあった地域の人達へ迅速に支援することができる。

- ・こどもの城のスタッフと登録ボランティアの間では、子どもへの対応等が、適切に共有できていた。
- ・こどもの城として一般のボランティア受入れの調整をしていたが、次から次と多くのボランティアや支援関係者が来所するため、段々に対応できなくなり、それぞれがいろいろな考えで子どもに対応してしまった。
- ・ボランティアの中には、何でもやってあげたいと思い、来所するたびに子どもにお菓子をあげてしまう者もいた。
→子どもに甘えが生じた。少し食べては捨てることが当たり前になり、お菓子の袋をゴミ箱に捨てることすらしなくなった。

〈反省〉

- ・受入れ時に、子どもへの対応には一定の距離をとる必要があることを伝えたほうがよい。
- ・CFJやSVA等の組織は、従来、国際協力や国内緊急支援等、素晴らしい活動をしているが、被災地での認知度が低い。

〈利点〉

- ・いろいろな人がいることを知るきっかけになった。

(8) CFJ・SVAとの連携・協力による運営と検証の可能性

- 専門的な支援活動をしている経験豊富なCFJ・SVAとの連携・協力により、ユニセフの提唱する実践のステップ（継続的なアセスメントや計画、モニタリング評価等）を踏まえて、活動を俯瞰できる。運営スタッフは動、CFJ・SVAは静の役割。
- 活動の方向性を導き、歩みを止めない運営ができる。
- 調査検証は大事だが、忘れやすい。活動の記録作成にも取り組むことで、将来の災害対応に寄与することが可能となる。何が起こっていて、どういうふうにしたらよいか、これでよいのか、客観視する資料となる。
- 災害支援において示唆するものを残すことは、継続的な研修会の開催にも有効である。

- ・ユニセフ勤務経験のある緊急時子ども支援の専門家経由で紹介された、CFJやSVAとの連携・支援によるノウハウの提供は大変貴重であった。
- ・人材、場所などのリソースは全て長野（こどもの城）にあった。現地の組織が主。
- ・緊急時の混乱の中でどうすればよいか？ その都度悩み、解決策を模索した。

〈反省〉

- ・日々、目の前の対応に追われ、緊急支援時に現地スタッフにより実践のステップを踏まえることは難しかった。
→「子どもの居場所づくり」運営担当者が、実践のステップをしっかりと身に付けておくことが必要であった。
- ・活動している人だけでの活動の検証は、非常に難しかった。

〈利点〉

- ・CFJ・SVA支援の大きな利点は、今回の運営責任者のこどもの城のリソースを踏まえた上で、災害状況や子どもの居場所づくりの活動を俯瞰し、その都度スタッフに適切な助言や対応をしたことである。
→地元で根差した団体を主として活動することが重要であり、そのためにも、平常時から子ども支援の体制・方針を確立し、組織同士の連携・協力の拡充が必要である。

(9) 他団体との連携～より強固な連携を促進するために～

- 県をはじめ、対応できる組織と組織の連携を強化し、共通理解を深める。特に、地元にある専門的な団体同志の横のつながりを強める必要がある。
- 平常時から組織間のネットワークの育成を継続し続ける。

- ・医師をはじめ医療職の存在は非常に大きい安心感があった。

〈反省〉

- ・避難所にどのような人達が関わっているか、そして、何ができるかを把握することが難しかった。
…自衛隊、赤十字、高齢者のリハビリや子どもの遊びのボランティア等。
- ・こどもの城と同じように、近隣の地域で子どもの居場所づくりの支援をしていた他団体と、連絡調整や連携をとることが全くできていなかった。

〈利点〉

- ・高齢者の支援チームによる子どもを交えた体操教室の開催。
- ・子どもと一緒にいると、高齢者も入りやすい。子どもは知らない人にもかなりオープン。
- ・体操を通じて、高齢者と子どものつながりが生まれ、一つの輪をつくることができた。
→おやつ等も、子どもとスタッフが避難所を回って、高齢者に配布し喜んでもらえた。
→日常的にも互いに声を掛け合ったり挨拶をしたりしており、孤立化は決してみられなかった。

- 最初の受入れ体制と方針の良さの好事例。
- 平常時でも、高齢者は子どもと触れ合うと元気になる。子ども達も、お年寄りの心身の理解等、いろいろな学びが深まる。
- 非常時においてもつながりが持てた取り組みとして有意義。体操を一つのきっかけとして、子どもと高齢者のつながりが生まれる。

(10) 災害時のセーフガーディング

- セーフガーディングをいかにして、どこまで担保できるか。
子ども理解をベースにして、セーフガーディングに関するきちんとした指導体制をつくる必要がある。
- セーフガーディングを言語化するサポートも必要。
- ボランティアを受入れる際に、「これを守ります」と宣誓する誓約書のようなものを作成する。
- 平常時から、継続した研修会の開催が必要である。

- ・ いろいろなボランティア、団体が、現地に入り込んで、子どもと問題を引き起こすのは困る。
- ・ ボランティアの中には、子どもが好きな人もいれば、必ずしもそうでない人もいる。

〈反省〉

- ・ 日頃関わっていない団体とのセーフガーディングの調整は難しい。

〈利点〉

- ・ 12月にセーフガーディングに関する研修会を開催し、学びながら仕組みをつくっていった。こどもの城のスタッフにとっては、切実な内容であり、吸収力が高かった。

(11) 避難所の食事

- 避難所における食事のあり方を再考する必要がある。
- 学校給食の有効活用と、行政や地元の栄養士会をはじめとする、管理栄養士・栄養士との連携・協力体制を早急に構築する。
- 子どもや高齢者など個々に応じた食事の提供の仕方を検討する。
- 災害時における食事・栄養管理には、平常時から食材の発注や保管に関するネットワークづくりや組織化して取り組む必要がある。
- 保護者の理解を得て、平常時から子どもと料理をつくる機会を持ち、災害時に即座に対応できるようにしておくことが大切である。
- 避難所における食事の実態や健康・栄養状態のアセスメントやモニタリングをする必要がある。

- ・ アレルギーの対応については、おやつや弁当に入っているアレルゲンの除去を実施していた。
- ・ 自衛隊の炊き出しは、朝・夕の汁もの。子ども達は、寒い中、地域性もあってか、温かい汁ものをおいしそうに食べ、ホッとしていた。味噌汁がおいしかったと、お礼に感謝状を差し上げた。

〈反省〉

- ・ ストレスを解消するはずが、逆に食事がストレスになっている状況が見られた。無理をしたり、涙を流したりして食べている子どもがいた。
- ・ 食事のとり方は、おやつとの与え方やその日の遊びの状況によっても左右された。
- ・ 避難所生活2か月の間に、15kgも太ってしまった人や、逆にやせた人もいた。
- ・ 疾病を持っている大人や子どもへの対応は、避難所の中だけでは限界もあった。

補足：避難所閉鎖後12月からの取り組み

12月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・長野応援『Amazon Holiday Smile』プロジェクトを開催 <p>参加者 長沼小の親子130名 スポーツレクリエーションメンバー（県内サッカー選手）20名 ボランティア7名、学生ボランティア17名、アマゾン7名 こどもの城6名、CFJ 2名、SVA 2名</p>
12月3日	セーフガーディングの勉強会（CFJ提案）
12月7日～ 令和3年 2月16日	<p>長野市古里児童センターで「遊びの広場ふるさと」を開催</p> <p>令和2年12月中は、土日に開催 令和3年1・2月は、日曜日に開催</p> <p>その後コロナ感染症感染拡大のため、休会</p>
12月16日	<p>連携打合わせ（CFJ、SVA、プレイパーク）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの居場所（遊び場）についての方向性を共有 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が安心して、安全に過ごせる場 ・子どもを受入れ、支える場 ・子ども達が困難を乗り越えて、日常生活と心の安定を取り戻すことのできるよう見守り、手助けする場 2. 今後の子どもの居場所（遊び場）についての連携・協力を確認
令和2年 6月から	<p>令和元（2019）年度休眠預金活用事業「台風19号による被害を受けた子どもとその保護者への支援事業」として継続</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの居場所の設置と運営 2. 子どものリフレッシュプログラム 3. 子育て中の保護者の居場所の運営と傾聴活動
令和3年 4月から	緊急時における子ども支援ネットワーク事業学習会を開催

災害にあったら・・・ 子どもたちに必要なことってなあに？

子どもたちの状況

日常が奪われることから子どもたちが受ける影響は図り知れませんが、強い恐怖や不安を感じてパニックを起こしたり、無気力感に襲われやすくなります。周りに気をつけて自分の想いを肉に閉じ込めてしまいうちもいます。

子ども一人一人が示す受け止め方が異なります。その子に合った支援を届けていくことが必要です。

子どもたちに必要なこと

緊急時には、子どもたちの権利が様々な場面で侵害されやすくなります。大変な時だから子どもは我慢して当たり前ではなく、良好な発達にとって「当たり前のこと」をできるだけ早く取り戻す支援が必要です。子どもたちにとってはたとえ短期間でも心身の発達に重要な時期です。

また、その周りのおとなに適切な支援を届けていくことも、子どもたちの権利の実現につながります。

主催者挨拶

「被災した子どもや家族に寄り添って」

令和元年東日本台風により、長野市は甚大な被害を受けました。さらに、令和2年2月頃から新型コロナウイルス感染症が日本でも蔓延し続け、子どもや保護者は大きな困難に直面しています。

当法人は、被災直後に災害支援事業を立ち上げ、災害を受けた子どもや保護者に寄り添い支援をするべく活動し、不安やストレスが軽減されるよう努めています。「子どもや保護者に寄り添い支援する子どもネットワーク」では、様々な企画により楽しみながら学び、チームワークを築くレジャープログラムなど、様々な企画により楽しみながら学び、チームワークを築くなど、子どもの健全な成長を応援しています。また、自宅の片付けなど被災の現場に子どもを連れていけない保護者には、安心して子どもを預けられる場の提供にもなっています。さらに、基本必要な心身ともに寄り添っている保護者に、「朝顔・扇場所」を開設し、支援を行っています。

本事業は、子ども保護者が地域の復旧・復興に一歩を踏み出す「心の元氣」を回復することを期して取り組んでいます。

今回の経験から、緊急事態においても子どもを守るため、団体の枠を越えた地域のネットワークの必要性を感じています。平時から連携する関係を築き、緊急時の子ども支援を迅速かつ円滑に取り組み子どもを守るネットワークをつくりたいと存じます。

ながのこどもの城
いでも守プロジェクト
理事長 田中宗史

特定非営利活動法人 **ながのこどもの城**いでも守プロジェクト
〒381-0043 長野市吉田 1丁目7番4号
〈災害支援事業〉
TEL 026-266-0601 FAX 026-266-0601 E-MAIL n-cafe@n-kodomo.com
災害支援事業 HP <https://www.n-kodomo.com/wakuwaku>



当団体 HP <https://www.n-kodomo.com> 災害支援事業 HP
本事業は2019年度休館期間等活用事業として実施しております。

子どもたちが未来へ向かう一歩を支える

災害支援事業のご案内

自然災害、感染症まん延、相次ぐ困難に立ち向かう
「子どもたちの未来への一歩」に寄り添い支えます！



NPO 法人ながのこどもの城いでも守プロジェクト

子どもの居場所

通年/毎週土曜日 12:00~16:00

子どもの居場所@バーチャル in 古里公民館

対象者：中学生

WebアプリケーションZoomを活用したオンライン自習室です。毎週土曜日、古里公民館に自習室を開発し、地域の大人や学生のスタッフがお手伝いして学習をサポート、ネット環境を整ったタブレットの無料貸し出しや、軽食の提供も行っています。会場への直接参加もできます。

通年/毎月第1・2・3日曜日 9:00~16:00

子どもの居場所 in ふるさと (あそびの広場ふるさと)

対象者：2歳児から小学生

古里公民館にあそびの広場を開発し、保育士・看護師・栄養士・大学生などのスタッフがあそび交遊を行っています。プログラム体験や工作体験などのお楽しみ企画を取り入れたら、(静)と(動)の時間を組み分け幅広い年齢層の子どもたちが一緒に一日を過ごします。

通年/毎月第1・3火曜日 第2金曜日 13:30~20:00

子どもの居場所 in 権堂 (なかのこどもわくわくカフェ)

対象者：乳幼児から學童期の子どもとその保護者

乳幼児から学童期まで幅広い世代の子どもに保護者が気軽に通い「相談や交流」「学習支援」「食事支援」が受けられる「場所多岐」な居場所を長野市中心市街地に開設しています。小・中・高生を対象とした学習支援は16:00~20:00で行っています。栄養士が提供する夕食メニューが好評です。

通年/毎週水曜日 15:30~19:00

公民館自習室 in 豊野公民館

対象者：中学生

安心して学習に取り組める「公民館自習室」です。毎週水曜日の放課後、豊野公民館に自習室を開発し、地域の大人や学生のスタッフが学習をサポートします。長野市内どこからでも参加できます。軽食の提供もしています。

リフレッシュプログラム

夏季/アウトドア体験

サマーDAYキャンプ

対象者：小学生

長野市内の中山間地をフィールドに、様々な体験を通してSDGsの学びを深めます。平日常の体験を通して心と体をリフレッシュさせ、長野の良さを再発見し、自らの発見、学びの機会を提供します。地元NPOなど、プロフェッショナルの方たちが企画参加しています。

冬季/宿泊体験

ウィンターキャンプ in 善光寺

対象者：小学生

長野市街地(善光寺周辺)をフィールドに行き、宿泊体験プログラムです。野外レクリエーションや善光寺散策、SDGsワークショップ、宿泊への宿泊などの体験を通してチームワークを高め、自らの発見、学びの機会を提供します。野外レクリエーションスタッフが企画参加しています。

リフレッシュプログラム

春季/被災地イベント

春のリフレッシュプログラム

対象者：小学生

地域で行うリフレッシュプログラムです。様々な体験を通して心と体をリフレッシュさせます。地域の大人や学生の皆さんがスタッフとして参加します。

2020年11月/イベント

長野市復興祈念事業「いまこそ応援がんばろうNAGANO.2020」へ参画

対象者：小学生

被災地の子どもたちがデザインした原画をもとに、長野県内の若者のいきづらさをつなげる「ハーバーhampo」の皆さんがイラストを描き、缶バッジを制作。主に被災企業商品や被災地特産品を中心に販売された「復興BOX」に入れて、子どもたちの想いを届けました。

明るい未来へ！ 子どもも保護者も いきいきと

子どもの居場所

保護者支援

保護者支援

不定期/被災地

ババママサロン

対象者：保護者

保護者の日ごろの悩みをお聞きし受け止め寄り添い、また他の保護者と悩みを打ち明けあつたり話したりできる、安心して気持ちを楽にする場を地域に設けます。必要に応じて、行政をはじめ関係団体の支援につなげます。

不定期/被災地

支援物資の提供

対象者：子どもがいる家庭

被災地域の家庭を対象に、フードバンク信州や長野市児童発達支援センターから提供していただいた食材をお届けしています。

対象者：支援団体

災害時における円滑な子ども支援のためのネットワーク形成事業

子ども支援に関わる皆さんとともに学び合い、交流する場を設けています。平時からの顔の見える関係づくりを通して、緊急時に活かせるネットワークづくりを目指します。

対象：被災地

被災者のニーズ調査事業

今後の災害に備え、アンケートやヒアリングを通して被災者ニーズの把握を行っています。

まとめ

東日本大震災の教訓を受けて、「避難所運営ガイドライン」に取りまとめられたチェックリストには、「16. 女性・子どもへの配慮 対策項目1 女性における衛生面・保安面に配慮を実施する 1-6キッズスペース（子どもの遊び場）の設置を検討する」が記載されています。

災害や事故など緊急時に困難な状況にある子ども達は、様々な「子どもの権利」が侵害されやすくなります。今回の台風第19号による子どもの居場所づくりの活動を、ユニセフが取り組んでいる「子どもにやさしい空間」の視点に基づいて検証すると、表1のようになります。6つの大切なことは、おおよそ遵守できていたと考えられますが、改善の余地がある項目も少なからず見受けられます。

特に、関係者間の情報共有（トイレは性犯罪の起こりやすい場所であることなど）や子どもへの関わり方（おやつの与え方やルールの遵守など）の理解については、学習の機会の提供も含めて、まだまだ、改善の余地がありそうです。

また、ボランティアからみた子どもの様子（第2部：アンケート調査結果）は、前期・中期・後期と、生活の状況に伴って刻々と変化しており、臨機応変に子どもに関わる必要があることを示唆しました。課題としては、行政との連携の難しさや子どもの主体的な活動の支援の仕方、避難所への適応に関する個人の状態の把握、ボランティア間の連携の難しさなどがあげられています。運営体制を堅固なものとし、アセスメント、計画と立案、実施とモニタリング、評価と学習という支援のPDCAサイクル（「子どもにやさしい空間」（ユニセフ）や「スフィア基準」（Sphere Association））を確立するためには、外部からのサポート団体であるCFJやSVAの連携・協力が不可欠であり、役割分担を明確にして、活動を記録する必要があると考えられます。それは、過去の反省（成功事例や失敗事例など）を踏まえて、将来の予期せぬ災害に備える際の大きな一助となります。平常時からボランティアなどの人材育成に力を入れることも必要です。

さらに、子どもの心のケアについては、平常時のケアも含め、十分な知識と一人一人異なる子どもへの関わり方を熟知しておくことが重要です。子どもの居場所と活動の場を提供し、安心感を与えて日常を取り戻す支援を、災害時のみならず、その後5年、10年と継続的に見守ることが大切です。

避難所における食事の提供に関しては、阪神・淡路大震災以来、改善されているようで実際にはあまり改善されていないことの1つです。「食べることは生きること」「生きることは食べること」です。食はどのような状況にあっても心と体を支える重要な要素であり、全ての活動の源です。できるだけ早く、ホッとできる温かい食事を提供することが、子どもの不安やストレスの軽減にもつながるといえます。平常時から、学校給食の有効活用に関するマニュアル化や、行政、地元の栄養士会をはじめとする管理栄養士・栄養士との連携・協力体制を構築しておく必要があります。さらに、災害時でも自立した食を営むためには、子どもも保護者とともに平常時から料理をつくる経験を積んでおくことです。

次世代を担う子どもの教育は、どのような状況にあっても確保されなければなりません。特に、災害時など特殊な状況下では、子どもが遊びを通して安心感を得、集中力を取り戻して、レジリエンス（回復力）を高め、安心した生活を取り戻すことができるように支援することが大切です。それは、その後の子どもの生き方や地域の発展にも直結します。

被災した子どもやその家族の未来のために、私たち一人一人ができることを1つ1つ積み重ね、災害時にあわてず行動することができるように、今から力を合わせていきましょう。

表1 「子どもにやさしい空間」 6つの大切なこと

項目	評価*	内容
1. 子どもにとって安心・安全な環境であること	◎	<ul style="list-style-type: none"> 千曲川が決壊（10月13日）して、3日後（16日）には、避難所の中に迅速に「子どもの居場所」を設置した。 特に支援の必要な子ども（障害のある子ども、アレルギーのある子ども等）への配慮もあった。
2. 子どもを受入れ、支える環境であること	△	<ul style="list-style-type: none"> こどもの城の活動方針は、「すべて受入れ、みんなを守ろう！」であった。 遊びや活動、学習が促進される場を確保した。 日常的に子どもに関わり、適切な配慮ができるスタッフを配置した。
		<ul style="list-style-type: none"> スタッフの引継ぎや連携などが難しかった。 一般のボランティアと、子どもの対応について共通理解を持ってないところがあった。 学習環境については、全ての子どもの要望に、十分には応えられなかった。 子どもの心のケアについて、より一層理解を深めることが必要であった。 セーフガーディングに関する学習会を子どもの居場所閉鎖時期に実施したが、より早く取り組むべきであった。
3. 地域の特性や文化、体制や対応力に基づいていること	○	<ul style="list-style-type: none"> 運営の主体は、地元長野市のこどもの城であった。 こどもの城の活動を、様々な組織・団体が支援した。
		<ul style="list-style-type: none"> 連携を強化するために、より一層のネットワークづくりが必要であった。
4. みんなが参加し、ともに作りあげていくこと	○	<ul style="list-style-type: none"> 子ども自身が主体的に活動し、家族、周りの人々が協力できる体制がとれていた。
5. 様々な領域の活動や支援を提供すること	△	<ul style="list-style-type: none"> 子どもにとって利用しやすい遊び、学習、メンタルケアなどの支援を提供した（避難所においては衛生、保健医療分野など）。
		<ul style="list-style-type: none"> もう少し積極的に、子どものための支援を外部に求めたほうがよかった。時間の経過とともに限界があった。 食事に関しては、公益社団法人長野県栄養士会などの団体に、より早期に状況を連絡し、対応（年齢に応じた食事や温かい食事の提供など）を依頼することが必要であった。
6. 誰にでも開かれていること	○	<ul style="list-style-type: none"> 活動方針「すべて受入れ、みんなを守ろう！」のもとに、乳幼児から障がいの有無、居住地など様々な理由にかかわらず、要望のある子どもをすべて受入れ、対応していた。

*評価：良い ◎、普通 ○、改善必要 △、良くない ×

〈参考資料〉

台風第19号による子どもの居場所づくりについて

長野市防災関係

- ・いきいきわがまちやなぎはら：避難所の子どもの居場所づくり、2017.12.22
<https://e-yanagihara.com/archives/10483.html> (2021.8.31現在)
- ・市民協働サポートセンターまんまる：避難所での子どもの居場所づくり～地域の力を生かす～、2019.6.13
<https://www.nagano-shimin.net/2019/06/13/避難所での子どもの居場所づくり～地域の力を生/> (2021.8.31現在)

特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト関係

- ・信濃毎日新聞ニュース特集：避難の子 ストレス軽減を NPOや学校が居場所づくり、2019.10.20
<https://www.shinmai.co.jp/feature/typhoon19/article/201910/20024364.html> (2021.8.31現在)
- ・ChildFund Japan：【台風19号】避難所での子どもの遊び場づくり、2019.10.24
<https://www.childfund.or.jp/blog/191024cfs> (2021.8.31現在)

認定特定非営利活動法人カタリバ等関係

- ・KATARIBA：【令和元年台風19号支援：長野県長野市】「子どもの居場所」づくりの準備を開始、2019.10.1
<https://www.katariba.or.jp/news/2019/10/17/18725/> (2021.8.31現在)
- ・KATARIBA：【令和元年台風19号支援：長野県長野市】子ども達の居場所「コラボ・スクールながの」を開設、2019.10.21
<https://www.katariba.or.jp/news/2019/10/21/18819/> (2021.8.31現在)
- ・WILL GROUP：台風19号で甚大な被害を受けた被災地のひとつ長野県で、被災地の子どもたちの居場所を提供～子供たちの安心安全な居場所を～、2019.11.06
<https://willgroup.co.jp/profile/news/2019/11/06/19.html> (2021.8.31現在)
- ・KATARIBA：【令和元年台風19号支援：長野県長野市】「コラボ・スクールながの」新体制での運営がスタート、2019.11.21
<https://www.katariba.or.jp/news/2019/11/21/19377/> (2021.8.31現在)
- ・ほっとフォト信州：令和2年1月、長野県および長野県教育委員会と、認定特定非営利活動法人カタリバによる連携協定の締結、2020.02.05
<https://www.pref.nagano.lg.jp/koho/kensei/koho/kensei-photo/r0201.html> (2021.8.31現在)

災害支援について

- ・岩手県：東日本大震災津波における避難者支援活動記録集、2014.01
https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/002/725/zenbun.pdf (2021.8.31現在)
- ・内閣府（防災担当）：避難所運営ガイドライン、2016.04
http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/1604hinanjo_guideline.pdf (2021.8.31現在)
- ・Sphere Association：スフィアハンドブック 人道憲章と人道支援における最低基準（日本語版 第4版）、2019.10
https://jqan.info/wpJQ/wp-content/uploads/2019/10/spherehandbook2018_jpn_web.pdf (2021.8.31現在)
※スフィア基準は、避難所の質の向上を考える上で、「人道憲章の枠組みに基づき、生命を守るための主要な分野における最低限満たされるべき基準」である。SDGs（持続可能な開発目標）を踏まえている。
- ・社会福祉法人長野市社会福祉協議会：長野市災害ボランティアセンター活動報告書、2021.03
<https://www.csw-naganocity.or.jp/uploads/page/長野市災害ボランティアセンター活動報告書.pdf> (2021.8.31現在)
- ・Save the Children：国内事業 日本国内における自然災害への主な対応実績
<https://www.savechildren.or.jp/japan/ehr/> (2021.8.31現在)

被災した子どもの支援（セーフガーディング含む）について

- ・ユニセフ：子どもの権利条約、1989
https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_rig_all.html (2021.8.31現在)
- ・公益社団法人シャンティ国際ボランティア会：子どもと歩む 地域とともに 東日本大震災復興支援におけるNPO支援の歩み、2014.11
<https://www.savechildren.or.jp/scjcms/dat/img/blog/1776/1416904638780.pdf> (2021.8.31現在)
- ・東京都：妊産婦・乳幼児を守る災害対策ガイドライン（改訂版）、2014.03
https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kodomo/shussan/nyuyoji/saitai_guideline.files/guideline.pdf (2021.8.31現在)
- ・（公財）日本ユニセフ協会、（国研）国立精神・神経医療研究センター：「子どもにやさしい空間」ガイドブック（改訂

版)、2015.11

<https://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/pdf/cfs.pdf> (2021.8.31現在)

- ・内閣府：平成30年版 少子化社会対策白書 全体版 (トピックス 東日本大震災被災地における子育て支援)、2018
<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2018/30pdfhonpen/pdf/topics08.pdf> (2021.8.31現在)
- ・外務省国際協力局民間援助連携室：子どもと若者のセーフガーディング 最低基準のためのガイド、2020.01
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/100067443.pdf> (2021.8.31現在)
- ・特定非営利活動法人災害時こどものところと居場所サポート
<https://www.facebook.com/saigaikodomokokoro/> (2021.8.31現在)

心のケアについて

- ・日本子ども虐待防止学会 社会的養護ワーキンググループ：社会的養護における災害時「子どもの心のケア」手引き (施設ケアワーカーのために)、2011.03
<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000018h6g-att/2r98520000018hm7.pdf> (2021.8.31現在)
- ・独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所：震災後の子ども達を支える教師のためのハンドブック～発達障害のある子どもへの対応を中心に～、2011.04
<http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/3758/20110516-151852.pdf> (2021.8.31現在)
- ・宮城県：災害後の子どものところのケア、2011.07
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/357703.pdf> (2021.8.31現在)
- ・静岡大学 (防災総合センター)：支援者のための災害後のところのケアハンドブック、2011.07
https://www.shizuoka.ac.jp/info/care_hndbk.pdf (2021.8.31現在)
- ・内閣府：平成25年版 少子化社会対策白書 全体版 (第2部 少子化社会対策の具体的実施状況 第5章 東日本大震災の被災地等における子ども・子育てに関する対応 第2節 東日本大震災の被災地等における子ども・子育てに関する対応 1 福祉 (心のケア含む) について 1) 被災した子どもの現状の把握とケア)、2013
<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2013/25pdfhonpen/pdf/s7.pdf> (2021.8.31現在)
- ・宮城県教育委員会：震災後における子どもの心のケアのために、2013.02
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/130742.pdf> (2021.8.31現在)
- ・文部科学省：平成24年度 非常災害時の子どもの心のケアに関する調査報告書、2013.07
https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1337762.htm (2021.8.31現在)
- ・日本プレイセラピー協会：遊びを通した子どもの心の安心サポート～つらい体験後の未就学児 (乳幼児) のためのマニュアル～、2014.01
https://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/pdf/japt_manual.pdf (2021.8.31現在)
- ・文部科学省：学校における子供の心のケアーサインを見逃さないために一、2014.03
https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/_icsFiles/fieldfile/2014/05/23/1347830_01.pdf (2021.8.31現在)
- ・公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構 兵庫県こころのケアセンター：子どもの心のケア～こころが傷ついたときのために～ (保護者の方々へ)、2015.03
https://www.j-hits.org/_files/00106863/1_2kokorotokarada_hogoya.pdf (2021.8.31現在)
- ・公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構 兵庫県こころのケアセンター：子どもの心のケア～こころが傷ついたときのために～ (教職員用)、2015.03
https://www.j-hits.org/_files/00106870/1_3kokorotokarada_syokuin.pdf (2021.8.31現在)
- ・宮城県子ども総合センター：東日本大震災における子どもの心のケアに関する報告書、2016.03
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/356072.pdf> (2021.8.31現在)

災害時における栄養・食生活支援について

- ・日本公衆衛生協会：令和元年度地域保健総合推進事業「大規模災害における栄養・食生活支援活動の連携体制と人材育成に関する研究」大規模災害時の栄養・食生活支援のためのアクションカード (例)、2020.03
http://www.jpha.or.jp/sub/pdf/20200423_1.pdf (2021.8.31現在)
- ・公立大学法人長野県立大学食健康学科：あなたに届けたい 私たちの応援レシピ 災害編、2020.11
- ・文部科学省：災害時における学校給食実施体制の構築に関する事例集、2021.03
https://www.mext.go.jp/content/20210331-mxt_kenshoku-000013922_2.pdf (2021.8.31現在)
- ・公益社団法人 岩手県栄養士会：そのとき被災地は一栄養士が支えた命の食一、2013.12

- ・公益社団法人日本栄養士会：災害復興支援活動および日本栄養士会災害支援チームに関する報告書、2014.09

災害時における男女共同参画について

- ・内閣府男女共同参画局：男女共同参画の視点による平成28年熊本地震対応状況調査報告書、2017.03
https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/kumamoto_h28_00.pdf（2021.8.31現在）
- ・内閣府男女共同参画局：災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～、2020.05
https://www.gender.go.jp/policy/saigai/fukkou/pdf/guidelene_01.pdf（2021.8.31現在）

終わりにあたって

「令和元年東日本台風による避難所における子どもの居場所の設置と活動」において、行政の方々や子どもの城のスタッフの皆さまをはじめ、たいへん多くのボランティアの方々のご支援があったことに感動し、改めて感謝申し上げたいと思います。

本報告書において、特に、注目すべきは3点あります。

まず1つは、子どもの居場所を設置し運営主体でもある「特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト（こどもの城）」のスタッフの皆さまの熱意と努力の賜物であるということです。それが実を結んだのは、日頃のこどもの城の活動の基盤があったからこそです。

2つめは、日本のみならず世界で様々な支援活動を行っている、「特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン（CFJ）」と「公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（SVA）」の助言と支援の大ききです。これら3団体の連携・協力なくして、今回の子どもの居場所の設置と活動は実現しなかったといえます。

最後の3つめは、本文には触れておりませんが、男女共同参画の視点が反映されていることです。女性の視点からの災害対応と支援は、特に高齢者や障がい者、子ども達の命・健康のリスクの見守り体制が強化され、質の向上につながるといわれていますが、今回、被災直後に「子どもの居場所」を企画・設置し、運営した主体は女性であり、きめ細かな対応を実現しています。この点からも、平常時からの男女共同参画に対する意識改革と連携・協力体制の構築が不可欠です。

さらに、この報告書の第3部には、関係者により明らかにされた課題と提言を、詳細に記載してあります。今後の参考にして頂ければ幸いです。

現在も、こどもの城では、「日曜日の居場所づくり」など、子ども達を支援するいろいろな活動を継続しています。被災から1年半過ぎても、「雨が降るとお家、流されるんじゃないの」と怖がる子ども達がいるそうです。一方、元気に、ニコニコと「北レクは楽しかったね。また行きたいね」と、楽しい思い出も抱いてくれている子ども達や、「みんなで一緒にいたから頑張れた」と話して下さった保護者の方々もいらっしゃるそうです。被災した子ども達が、これからどのように成長していくのか、子どもと関わる私たち大人が、引き続き見守っていくことが大切です。

さらに、この報告書をきっかけに、地域の中で、災害時のみならず平常時から、「子どもの居場所づくり」のネットワークの輪が広がることを願ってやみません。その地道な積み重ねが、災害時の活動を支える大きな力となるからです。完全な復興には、まだ少し時間がかかるかもしれませんが、子ども達の健康と幸せ、そして、子どもの居場所づくりの活動が次世代にも引き継がれることを祈念して、終わりの言葉とさせていただきます。

最後になりましたが、貴重な活動記録をまとめるという、稀有な機会を与えて頂きました特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパンと公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の関係諸氏に改めてお礼申し上げます。